

令和3年度
(2021年4月～2022年3月)

事業実績書

(病害虫防除関係)

宮崎県総合農業試験場 病害虫防除・肥料検査課
(宮崎県病害虫防除・肥料検査センター)

目 次

I 組織と業務

1	名称及び所在地	-----	1
2	管轄区域	-----	1
3	職員及び業務	-----	1
4	業務分掌表	-----	1

II 事業実績

1 農作物有害動植物発生予察事業

1) 調査の種類及び方法

(1)	指定病害虫	-----	3
(2)	指定外病害虫	-----	4
(3)	巡回調査ほ場数	-----	5

2) 主要農作物の病害虫発生概況（令和3年産）

(1)	早期水稲	-----	6
(2)	普通期水稲	-----	6
(3)	サツマイモ	-----	6
(4)	ダイズ	-----	7
(5)	ジャガイモ	-----	7
(6)	カンキツ（露地栽培）	-----	7
(7)	チャ	-----	7
(8)	冬春キュウリ	-----	8
(9)	冬春ピーマン	-----	8
(10)	冬春トマト	-----	8
(11)	冬春イチゴ	-----	8
(12)	秋冬ダイコン	-----	9
(13)	サトイモ	-----	9

3) 水稲、かんきつ病害の初発日ならびにウンカ類の初飛来日

(1) 水稲、かんきつ病害の初発日

ア	イネ	-----	10
イ	カンキツ	-----	10

(2) 予察灯におけるウンカ類、ツマグロヨコバイ、コブノメイガの初飛来日

4) 予察灯（白色60W）における水稲害虫の誘殺状況

(1)	延岡	-----	11
(2)	佐土原	-----	12
(3)	国富	-----	13
(4)	都城	-----	14

5) フェロモントラップによる誘殺状況		
(1) チャハマキの誘殺状況	-----	15
(2) チャノコカクモンハマキの誘殺状況	-----	17
(3) チャノホソガの誘殺状況	-----	19
(4) ハスモンヨトウの誘殺状況	-----	21
(5) タバコガ・オオタバコガの誘殺状況	-----	23
(6) コブノメイガの誘殺状況	-----	25
6) 果樹カメムシ類の誘殺状況		
(1) 予察灯における誘殺状況	-----	26
(2) 合成集合フェロモンによる誘殺状況	-----	30
7) 農作物有害動植物の発生及び防除状況		
(1) 発生経過、発生要因及び防除の概要	-----	34
(2) 発生面積及び防除面積等	-----	41
8) 有害動植物発生予察事業実施状況		
(1) 発表情報一覧（警報、注意報、特殊報、防除情報）	-----	47
(2) 情報の内容	-----	48
2 特殊病虫害侵入警戒調査事業		
1) ミバエ類侵入警戒調査	-----	80
2) アリモドキシウムシ侵入警戒調査	-----	82
3) イモゾウムシ侵入警戒調査	-----	84
4) ミカンキジラミ侵入警戒調査	-----	84
3 その他の調査、検定等		
1) BLASTAMによる葉いもちの発生好適条件の判定と現地の発生状況	-----	85
2) 斑点米カメムシ類の発生状況調査	-----	87
3) ヒノキ毬果口針鞘数による果樹カメムシ類離脱予測	-----	88
4) サツマイモ基腐病に関する調査	-----	89
5) 令和3年(2021年)におけるツマジロクサヨトウの発生状況	-----	94
6) タバココナジラミの薬剤感受性検定	-----	95
7) ヒラズハナアザミウマの薬剤感受性検定	-----	97
8) マイナー作物農薬登録の推進について	-----	99
III その他		
1 病虫害防除員の設置状況	-----	100
2 巡回調査ほ場の分布図	-----	101
IV 令和3年度気象概況	-----	102

I 組織と業務

1 名称及び所在地

宮崎県総合農業試験場 病虫害防除・肥料検査課
 (兼 宮崎県病虫害防除・肥料検査センター ※ H23.4 ~)
 宮崎県宮崎市佐土原町下那珂 5 8 0 5 番地

2 管轄区域

県内全域 (9市14町3村)

3 職員及び業務

職 員	業 務
課長(所長) 倉 富 文 代 副主幹 久 野 公 子	1 病虫害の発生予察及び情報の提供に関する事
主 査 森 下 勝	2 病虫害の適正防除指導に関する事
主 査 榎 本 清 和	3 病虫害の診断及び検定に関する事
専門技師 寺 本 敏	4 重要病虫害の侵入警戒調査に関する事
専門技師 福 田 武 美	5 農薬指導取締に関する事
技 師 阿 萬 祐 樹	6 農薬安全使用指導に関する事
技 師 椎 葉 駿 輔	7 その他植物防疫に関する事
農薬登録研究員 今 村 幸 久	8 肥料の分析及び取締に関する事
農薬研究調査補助員 富 永 洋 子 宮 地 千 詠 水 間 優 子	
(兼務職員) 土壤環境部 副 部 長 永 井 浩 幸 主任技師 吉 留 悠 太 技 師 田 上 遊 里	

4 業務分掌表 (病虫害防除関係のみ記載)

主担当	副担当	分 掌 事 務
倉 富	久 野	1 病虫害防除・肥料検査課の総括に関する事 2 各種協議会に関する事
久 野	榎 本	1 植物防疫および肥料関係事業の総括に関する事 2 病虫害発生予察並びに情報作成の総括に関する事 3 営農振興協議会に関する事 4 農薬取締および肥料取締に関する事
森 下	寺 本	1 病虫害診断対策に関する事

主担当	副担当	分 掌 事 務
榎 本	阿 萬	1 果樹・茶の病害虫発生予察調査及び情報作成に関すること 2 航空防除に関すること 3 病害虫診断対策に関すること 4 農薬取締および肥料取締に関すること
寺 本	榎 本	1 各種発生予察調査のデータ解析と予察法の改良に関すること 2 情報ネットワーク保守・管理に関すること 3 病害虫診断対策に関すること 4 農薬取締および肥料取締に関すること
阿 萬	椎 葉	1 普通作物の病害虫発生予察調査及び情報作成に関すること 2 サツマイモ基腐病対策に関すること 3 特殊病害虫侵入警戒調査の調査報告に関すること 4 病害虫診断対策に関すること 5 農薬取締および肥料取締に関すること
椎 葉	寺 本	1 野菜、花きの病害虫発生予察調査及び情報作成に関すること 2 ツマジロクサヨトウ対策に関すること 3 各種病害虫薬剤感受性調査に関すること 4 各種調査資材に関すること 5 病害虫診断対策に関すること 6 農薬取締および肥料取締に関すること
今 村	—	1 マイナー作物の農薬登録促進に関すること 2 薬品の保管管理に関すること
富永	—	1 病害虫の発生予察に係る調査補助及びデータ入力・集計業務 2 病害虫の診断補助業務
宮地	—	1 病害虫の発生予察に係る調査補助及びデータ入力・集計業務 2 病害虫の診断補助業務
水間	—	1 肥料検査に係る分析補助及びデータ入力・集計業務

Ⅱ 事業実績

1 農作物有害動植物発生予察事業

病虫害発生予察事業は、病虫害の防除を適時で経済的なものにするため、その発生分布・繁殖・気象・農作物の生育状況等を調査し、病虫害による損害の発生を予察し、これに基づく発生予察情報を関係者に提供するものである。

農作物有害動植物発生予察事業実施要綱及び同実施要領に準拠し、予察ほ場の定点調査及び巡回調査を行って病虫害予察方法の確立に努め、発生予報・警報・注意報・特殊報・防除情報を発表して病虫害防除対策の資料にした。

1) 調査の種類及び方法

(1) 指定病虫害

区分	対象作物名	有害動植物名 (種類数)
普通作物	イネ	稲こうじ病、いもち病、縞葉枯病、ばか苗病、もみ枯細菌病、紋枯病、イネミズソウムシ、コブノメイガ、セジロウンカ、ツマグロヨコバイ、トビイロウンカ、ニカメイガ、斑点米カメムシ類(クモヘリカメムシ、アカスジカスミカメ、ホソハリカメムシ、シラホシカメムシ、ミナミアオカメムシ)、ヒメトビウンカ、フタオビコヤガ(15)
	サツマイモ	ハスモンヨトウ (1)
	ジャガイモ	疫病、アブラムシ類(ジャガイモヒゲナガアブラムシ、ワタアブラムシ、モモアカアブラムシ)、ハスモンヨトウ(3)
	ダイズ	アブラムシ類(ダイズアブラムシ)、吸実性カメムシ類(ミナミアオカメムシ、アオクサカメムシ、イチモンジカメムシ)、ハスモンヨトウ(3)
果樹等作物	カンキツ	かいよう病、黒点病、そうか病、アブラムシ類(ワタアブラムシ、ミカンクロアブラムシ)、ハダニ類(ミカンハダニ)、果樹カメムシ類(ツヤアオカメムシ、チャバネアオカメムシ)(6)
	チャ	炭疽病、チャノホソガ、ハマキムシ類(チャノコカクモンハマキ、チャハマキ)、ハダニ類(カンザワハダニ)(4)
野菜	キュウリ	うどんこ病、褐斑病、灰色かび病、べと病、アザミウマ類(ミナミキイロアザミウマ)、アブラムシ類(ワタアブラムシ)、コナジラミ類(タバココナジラミ)、ハスモンヨトウ(8)
	ピーマン	うどんこ病、アブラムシ類(ワタアブラムシ、モモアカアブラムシ)、ハスモンヨトウ、オオタバコガ(4)
	トマト	疫病、灰色かび病、葉かび病、アブラムシ類(ワタアブラムシ、モモアカアブラムシ)、コナジラミ類(タバココナジラミ、オンシツコナジラミ)、ハスモンヨトウ(6)
	ダイコン	アブラムシ類(ニセダイコンアブラムシ)、ハスモンヨトウ、コナガ、ヨトウガ(4)
	イチゴ	うどんこ病、炭疽病、灰色かび病、アザミウマ類(チャノキイロアザミウマ、ミカンキイロアザミウマ、ヒラズハナアザミウマ)、アブラムシ類(ワタアブラムシ)、ハダニ類(ナミハダニ、カンザワハダニ)、ハスモンヨトウ(7)
計		61種類

(2) 指定外病害虫

区分	対象作物名	有害動植物名
普通作物	イネ	萎縮病、ごま葉枯病、白葉枯病、苗立枯病、黄萎病、黄化萎縮病、内穎褐変病、アワヨトウ、イチモンジセセリ、イネゾウムシ、イネヒメハモグリバエ、イネヨトウ、スクミリンゴガイ、イネシンガレセンチュウ（14）
	サツマイモ	立枯病、つる割病、紫紋羽病、アブラムシ類、イモキバガ、エビガラスズメ、ナカジロシタバ（7） ※サツマイモ基腐病
	ジャガイモ	ニジュウヤホシテントウ、葉巻病（2）
	ダイズ	立枯性病害、さび病、紫斑病、葉焼病、べと病、モザイク病、ウコンノメイガ、シロイチモジマダラメイガ、ダイズサヤタマバエ、ハダニ類、フタスジヒメハムシ、コガネムシ類（マメコガネ）、マメシンクイガ、マメヒメサヤムシ類、食源性鱗翅目幼虫（ミツモンキンウワバ）（15）
果樹等作物	カンキツ	青かび病、緑かび病、黄斑病、日やけ炭疽病、灰色かび病、アブラムシ類、吸蛾類、コアオハナムグリ、アザミウマ類（チャノキイロアザミウマ）、ケシキスイ類、ミカンハモグリガ（11）
	チャ	網もち病、白星病、もち病、輪斑病、クワシロカイガラムシ、アザミウマ類（チャノキイロアザミウマ）、チャノミドリヒメヨコバイ、ツカメムシ類（マグロアオカスミカメ）（8）
野菜	キュウリ	疫病、キュウリ退緑黄化病、キュウリ黄化えそ病、菌核病、炭疽病、つる枯病、つる割病、斑点細菌病、モザイク病、ウリノメイガ、ウリハムシ、チャノホコリダニ、ハモグリバエ類（13）
	ピーマン	青枯病、疫病、黄化えそ病、菌核病、軟腐病、灰色かび病、斑点細菌病、斑点病、モザイク病、黒枯病、コナジラミ類、タバコガ類、チャノホコリダニ、ハダニ類、アザミウマ類（15）
	トマト	青枯病、萎凋病、うどんこ病、すすかび病、モザイク病、トマト黄化葉巻病（TYLCV）、褐色輪紋病、菌核病、軟腐病、斑点病、輪紋病、ハモグリバエ類（12）
	ダイコン	萎黄病、べと病、モザイク病、炭疽病、軟腐病、キスジノミハムシ、ハムシ類（ダイコンサルハムシ）（7）
	イチゴ	萎黄病、じゃのめ病、菌核病、輪斑病、コナジラミ類（5）
	サトイモ	疫病（1）
計		110種類

(3) 巡回調査ほ場数

地域 対象作物	中部	南那珂	北諸県	西諸県	児湯	東臼杵	西臼杵	計
早期水稲	11	6			12	4		33
普通期水稲	5		10	8		10	8	41
ダイズ	1		6					7
サツマイモ		4	4		4			12
ジャガイモ	2		4		4			10
カンキツ	8	4			2	4		18
チャ	2	1	4	2	4		4	17
冬春キュウリ	9	1	2			3		15
冬春ピーマン	3	2			6			11
冬春トマト	3				5	2		10
ダイコン	6					4		10
冬春イチゴ	2		3	3	4			12
サトイモ	2		4	4				10
計	54	18	37	17	41	27	12	206

2) 主要農作物の病害虫発生概況（令和3年産）

(1) 早期水稲

スクミリンゴガイは、4～5月の発生面積率は平年比やや少、発生程度（㎡当たり貝数）は平年並で推移した。一部では、食害が確認された。

葉いもちは、初発生が6月8日で平年よりも遅い発生であった（平年：5月26日）。今年、梅雨入りが平年より早く、6月以降いもち病に好適な気象条件が続く時期もあったが、防除時期に（6月下旬頃）に降雨が少なく、比較的適期防除が行われたとみられ、6月下旬の発生面積率及び発生程度（発病度）はいずれも平年並であった。

紋枯病は出穂期頃から見られ、成熟期の発生面積率、発生程度はいずれも平年並であった。

斑点米カメムシ類は、6月上旬のイタリアンライグラス等飼料作物での生息密度は平年比少、6～7月の本田での発生面積率及び発生程度はいずれも平年並～やや少で推移した。

(2) 普通期水稲

葉いもちは、7月中旬から発生が確認された。7月中旬までは平年並の発生で推移していたものの、7月下旬から発生が増加し、7月下旬の発生面積率及び発生程度がいずれも平年比やや多であったことから病害虫防除情報第7号（R3.8.3）を発表した。8月以降も発生は増加し、8月下旬の発生面積率は平年比多、発生程度（発病度）は平年比やや多であった。特に県北の中山間地域での発生が多かった。また、今年8月の気温が平年よりも低く推移し、あわせて降水量も多かったことから、いもち病に好適な条件が続き、上位葉・穂への進展が助長され、9月中旬の穂いもちの発生は平年比やや多であった。

紋枯病は、8月中旬から確認され、9月中旬の発生面積率及び発生程度（発病度）はいずれも平年比やや多であった。

セジロウンカは、初飛来が平年より早い5月19日（平年：6月7日）に確認され、その後も断続的に飛来が続き、9月1～4半旬に県内各地の予察灯で合計百頭を超える飛来が確認されたが、平年並の誘殺数であった（5～9月の県内予察灯誘殺数合計 本年：1076頭、平年：1119頭、前年：2128頭）。本田では7月中旬から確認され、その後8月下旬までは平年よりやや少ない発生で推移し、9月中旬は平年並の発生であった。

トビイロウンカは、初飛来が平年より早い5月12日（平年：6月26日）に確認されたが、その後は間欠的に数頭程度の誘殺が確認される程度で、平年より少ない誘殺数であった（5～9月の県内予察灯誘殺数合計 本年：6頭、平年：609頭、前年：2619頭）。本田においては、当センターが実施する調査では、発生が確認されなかった。

コブノメイガは、初飛来が平年より遅い7月15日（平年：6月24日）に確認された。本田では、7月下旬から被害が確認され、8月下旬までは平年並～やや少の発生であったが、9月中旬に一部で被害がやや目立った。

斑点米カメムシ類は、7月中旬から発生が確認され、8月中旬は平年比やや多の発生であったが、8月下旬以降は平年並～少で推移した。

(3) サツマイモ

ナカジロシタバやハスモンヨトウ、イモキバガの発生面積率及び発生程度（被害葉率）

はいずれも、調査期間を通して平年並～やや少で推移した。しかし、一部地域では甚発生ほ場が確認された。

サツマイモ基腐病は、4月中旬頃から育苗床での発生が確認され（病害虫防除情報第1号(R3.4.13)）、5月中旬に本ぼでの初発が確認された（病害虫防除情報第3号(R3.5.28)）。その後も各地で発生が拡大したため注意報（病害虫発生予察注意報第1号（R3.6.22））を公表した。

(4) ダイズ

べと病の9月（着莢期）の発生面積率は平年並、発生程度（発病度）は平年比やや多であった。その後の収穫物調査でも被害粒は平年並の発生であった。

ハスモンヨトウの発生量は調査期間を通して平年並～やや少で推移した。吸汁性カメムシは9月中旬から発生が見られ、9月中旬は平年比やや多の発生であったが、10月中旬は平年並であった。

(5) ジャガイモ

疫病は、当センターの調査では発生が確認されなかった。ニジュウヤホシテントウは、4月中旬は平年より多い発生であったものの、5月中旬は平年並であった。アブラムシ類は平年並～やや少の発生であった。

(6) カンキツ類（露地栽培）

そうか病は、初発が葉で平年より早く、果実では遅く確認され、8月に発生が確認されたが発生量は平年並で推移した。黒点病は、初発が葉、果実ともに遅く、発生量は平年比やや少～並で推移した。かいよう病については、初発が葉で平年より早く、果実で遅かった。発生量は葉・果実とも平年並～多で推移した。

ミカンハダニは、越冬量が平年比やや少で、その後、9月に発生面積がやや上昇したものの平年比少～並で推移した。

果樹カメムシ類のトラップ誘殺数は、フェロモントラップで、チャバネアオカメムシ、ツヤアオカメムシが両方とも平年並、予察灯では、両種とも平年並かそれ以下で推移した。

(7) チャ

炭疽病、輪斑病は平年比やや多、もち病は山間部を主体に平年並の発生であった。

チョウ目害虫のフェロモントラップによる誘殺数は、チャノコカクモンハマキが平年比やや多、チャハマキが平年比やや少、チャノホソガが平年並であった。ほ場での発生は、チャノコカクモンハマキとチャハマキが平年並、チャノホソガは7・8月が平年比多であったが、7・8月以外は平年並で推移した。

カンザワハダニについては、越冬後の寄生密度は平年並で、その後も平年比少～並の発生であった。

チャノミドリヒメヨコバイは5～6月の発生が平年比多であった。発生面積率が調査で平年を大きく上回ったため、防除情報（病害虫防除情報第6号(R3.6.29)）を發出し、防除の徹底を促した。5・6月以外は平年比やや少～並で推移した。

チャノキイロアザミウマは、平年比少～平年並で推移した。

クワシロカイガラムシは一部園地で7～9月に甚発生のは場が見られたが、全体的に平年並で推移した。

(8) 冬春キュウリ（栽培期間：令和2年9月～令和3年6月）

べと病は10月の調査開始時より4月の調査終了時まで発生が確認された。4月には発生面積率が100%となり、平年多となった。うどんこ病は10月に一部のは場で微発生を確認した。11月、12月には平年より多い発生となったが、その後の薬剤散布、発生は場の栽培期間終了に伴い1月以降の発生量は減少した。黄化えそ病は12月に発生を確認し、その後も継続して発生を確認した。発生面積率、程度は概ね平年並であった。退緑黄化病は11月に平年より多い発生を確認した。その後も継続して確認され、栽培期間中の発生量は平年より多であった。ミナミキイロアザミウマ、タバココナジラミ等を含むその他病害虫については、期間を通して平年並以下の発生であった。

(9) 冬春ピーマン（栽培期間：令和2年9月～令和3年6月）

斑点病は12月に発生面積率が増加し、平年比多となった。1月の調査時にはやや発生が減少していたものの、調査終了時まで発生が続いた。発生程度は平年並程度であったが、県内全域で発生が見られた。うどんこ病は12月に多くのは場で発生が確認され、その後の発生増加が懸念されたため、病害虫発生予察注意報第9号を発出し、防除を呼びかけた。

その他病害については、平年並の発生であった。

ミナミキイロアザミウマは、栽培当初から発生が少なく、期間を通して平年より少の発生となった。近年ヒラズハナアザミウマは10月～11月に急激に増加し、一部は場では甚発生を確認していたことから、病害虫防除情報第7号(R2.10.2)を発出し、事前の防除を呼びかけた。その後、12月には10花当たり虫数が過去10年で最も多くなったため、病害虫発生予察注意報第8号(R2.12.24)を発出した。

タバココナジラミは調査開始から発生が確認され、発生面積率は平年より多の値であった。その後も推移したため、病害虫防除情報第8号(R3.1.25)を発出し防除を呼びかけた。

その他虫害については、平年並以下の発生であった。

(10) 冬春トマト（栽培期間：令和2年9月～令和3年6月）

すすかび病は11月に一部のは場で甚発生が確認され、発生は場においてはその後も継続して発生が確認された。うどんこ病は、11月に初めて発生を確認し、12月に急激な増加がみられ、平年より多い発生となった。

その他病害については、おおむね平年並の発生であった。

タバココナジラミは定植直後から発生がみられ、12月に平年比やや多の発生を確認し、その後増加傾向となった。3月、4月に急激に増加し、平年より多い発生となった。

その他虫害については平年並以下の発生であった。

(11) 冬春イチゴ（栽培期間：令和2年9月～令和3年5月）

うどんこ病は定植直後から葉での発生が確認されたが、栽培期間を通して平年並以下の発生であった。その他の病害については概ね平年並の発生であった。

ハダニ類は、親株での発生量は平年比少であった（令和2年5月調査）。本ぼでの発生

量は、1月にやや増加したものの栽培期間を通して平年並以下であった。

ヒラズハナアザミウマは、1月まで発生未確認であったが、2月に急激な発生の増加が確認され、平年比やや多の発生となった。発生ほ場では、その後も発生量の増加が見られた。

(12) 秋冬ダイコン（栽培期間：令和2年9月～令和2年12月）

11月に軟腐病の発生が確認され、平年よりやや多の発生となった。その他の病害は平年並の発生であった。ダイコンサルハムシ及びキスジノミハムシは10月の発生量は平年より多かったものの、その後は適切な防除がなされ、翌月の発生量は平年より少であった。その他の害虫は概ね平年並の発生であった。

(13) サトイモ（栽培期間：令和3年3月～令和3年9月）

疫病は、6月9日に現地での発生確認情報があり、病虫害防除情報第5号（R3.6.22）を発出した。7月中下旬に現地での発生が広がったと考えられ、8月の巡回調査においてはすべてのほ場で発生を確認した。その後も発生が増加し、9月の発病株率は100%となった。

3) イネ、カンキツ病害の初発日ならびにウンカ類の初飛来日

(1) イネ、カンキツ病害の初発日

ア. イネ

(単位：月.日)

種 別	早期水稲			普通期水稲		
	本 年	平 年	前 年	本 年	平 年	前 年
葉いもち	6. 8	5.26	6. 9	7. 8	7. 4	7.10
穂いもち	7. 9	7. 8	7. 8	9. 6	9. 9	9. 8
紋枯病	6.23	7. 1	6.26	8.10	8. 5	8. 7
白葉枯病	—	—	—	—	—	—

イ. カンキツ

(単位：月.日)

種 別	春 葉			果 実		
	本 年	平 年	前 年	本 年	平 年	前 年
そうか病	4. 8	4.28	4.17	7.13	6. 5	7. 8
黒点病	6.11	5.17	—	7.13	6.26	7. 8
かいよう病	4. 9	5.26	7. 8	7. 9	6.25	7. 8

(2) 予察灯におけるウンカ類、ツマグロヨコバイ、コブノメイガの初飛来日

(単位：月.日)

項 目	地区名 年次	延 岡			佐土原			国 富			都 城		
		本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年	平年	前年
セジロウンカ		5.19	6.14	6. 4	7. 1	6.26	6.15	5.30	6.25	5.18	5.21	6.14	6. 7
トビイロウンカ		9.22	7. 4	6.27	7.25	8.10	7. 8	6.23	7.11	6.30	5.12	7. 6	6.28
ヒメトビウンカ		5.19	6.16	7.28	7.11	7.23	7. 9	9. 6	7.18	6.21	6.19	6.28	7.20
ツマグロヨコバイ		5.11	5.21	5.18	5.20	6. 6	6.11	5.17	5.16	5.17	5.13	5.26	5.28
コブノメイガ		6.29	7. 6	6.30	—	8.16	—	7.14	7.30	6.21	9.24	7.10	7.13

4) 予察灯（白色60W）における水稻害虫の誘殺状況

(1) 延岡

(単位：頭)

月	半月	ツマグロヨコバイ		セジロウンカ		トビイロウンカ		ヒメトビウンカ	
		本年	平年値	本年	平年値	本年	平年値	本年	平年値
4	1	0	0	0	0	0	0	0	0
	2	0	0	0	0	0	0	0	0
	3	0	0	0	0	0	0	0	0
	4	0	0	0	0	0	0	0	0
	5	0	0	0	0	0	0	0	0
	6	0	0	0	0	0	0	0	0
	計		0	0	0	0	0	0	0
5	1	0	0	0	0	0	0	0	0
	2	0	0	0	0	0	0	0	0
	3	1	0.2	0	0	0	0	0	0
	4	3	2.3	1	0.1	0	0	3	0.2
	5	1	9.8	0	0.1	0	0	0	0.7
	6	6	32.9	0	0.3	0	0.1	1	0.7
	計		11	45.2	1	0.5	0	0.1	4
6	1	10	72.1	2	0.5	0	0	0	0.6
	2	13	71.3	0	10.8	0	0	0	0.3
	3	7	23.7	1	1.8	0	0	2	0.0
	4	8	7.5	0	1.5	0	0.2	0	0.1
	5	0	4.7	0	1.8	0	0.1	0	0.6
	6	0	1.9	1	3.8	0	0.9	0	0.5
	計		38	181.2	4	20.2	0	1.2	2
7	1	2	0.8	34	2.7	0	2.0	1	0.4
	2	3	1.9	2	7.2	0	4.6	0	0.6
	3	5	1.9	2	12.2	0	4.2	0	0.5
	4	9	3.4	1	3.1	0	1.3	2	0.3
	5	9	11.5	1	1.1	0	1.6	1	0.1
	6	2	19.5	0	2.2	0	0.3	1	0.5
	計		30	38.4	40	28.5	0	14.0	5
8	1	6	4.4	0	16.4	0	0.9	1	0.3
	2	1	5.7	3	3.6	0	1.0	0	0.2
	3	2	13.6	7	2.9	0	1.7	4	0.5
	4	10	26.7	9	11.2	0	2.0	19	0.7
	5	3	23.8	0	21.8	0	3.8	5	1.4
	6	2	11.0	10	17.9	0	18.6	3	4.2
	計		24	79.5	29	69.5	0	27.2	32
9	1	0	7.3	94	4.8	0	4.7	2	2.5
	2	6	5.9	75	15.7	0	22.8	22	0.6
	3	2	5.8	283	11.5	0	80.2	11	1.1
	4	7	4.3	131	16.2	0	15.5	13	0.1
	5	7	12.8	5	10.1	1	27.0	1	3.5
	6	8	2.2	5	7.6	0	33.1	1	5.3
	計		30	37.7	593	65.4	1	174.8	50
10	1	5	4.0	0	1.4	0	71.2	3	1.0
	2	0	5.2	16	2.9	0	43.1	4	2.1
	3	0	0.2	40	1.6	0	40.9	15	0.6
	4	0	0.3	3	0.8	1	14.5	2	0.6
	5	0	0	0	0.4	0	11.3	0	0.8
	6	0	0	0	0	0	4.5	0	0.1
	計		5	9.7	59	7.1	1	185.5	24

(2) 佐土原

(単位：頭)

		ツマグロヨコバイ		セジロウンカ		トビイロウンカ		ヒメトビウンカ	
月	半旬	本年	平年値	本年	平年値	本年	平年値	本年	平年値
4	1	0	0	0	0	0	0	0	0
	2	0	0	0	0	0	0	0	0
	3	0	0	0	0	0	0	0	0
	4	0	0	0	0	0	0	0	0
	5	0	0	0	0	0	0	0	0
	6	0	0	0	0	0	0	0	0
	計		0	0	0	0	0	0	0
5	1	0	0	0	0	0	0	0	0
	2	0	0	0	0	0	0	0	0
	3	0	0.4	0	0	0	0	0	0
	4	1	0.2	0	0	0	0	0	0
	5	0	0.0	0	0.0	0	0	0	0
	6	0	1.5	0	0.0	0	0	0	0
	計		1	2.1	0	0.0	0	0	0
6	1	1	0.7	0	0.0	0	0	0	0
	2	0	1.7	0	0.2	0	0	0	0.0
	3	1	1.2	0	0.2	0	0	0	0.0
	4	4	3.4	0	2.2	0	0	0	0.0
	5	2	1.8	0	1.0	0	0.5	0	0
	6	2	1.4	0	4.1	0	0	0	0
	計		10	10.1	0	7.7	0	0.5	0
7	1	10	0.9	12	2.1	0	0.1	0	0.1
	2	5	2.0	6	6.1	0	0	0	0.3
	3	14	3.6	0	0.7	0	0.8	1	0.0
	4	0	10.9	0	0.3	0	2.3	0	0.1
	5	0	11.3	0	0.2	1	0	1	1
	6	15	20.8	1	0.4	0	1.2	1	0
	計		44	48.4	19	9.8	1	4.5	3
8	1	7	12.4	0	0.4	0	0	0	0.4
	2	19	11.3	1	0.2	0	0	0	0
	3	6	14.6	12	0.3	0	0	2	0
	4	8	43.4	6	4.0	0	0.3	0	0.3
	5	6	4.3	0	10.7	1	3.4	1	0.5
	6	3	38.5	5	4.8	0	0.9	0	0
	計		49	124.5	24	20.4	1	4.8	3
9	1	5	9.8	67	2.2	0	2.6	0	1
	2	4	4.3	14	2.7	0	2.0	0	0.5
	3	0	2.0	5	5.0	0	9.3	0	0.2
	4	0	1.0	21	1.4	0	4.8	0	0.6
	5	5	1.1	6	2.6	0	3.7	0	0
	6	4	0.7	0	1.6	0	1.2	0	0.4
	計		18	18.8	113	15.3	0	23.6	0
10	1	1	0.5	3	1.1	0	3.2	2	0
	2	2	0.4	4	0.5	0	5.7	0	0
	3	4	0.2	16	0.1	1	4.2	1	0
	4	0	0	14	0.1	4	0.2	0	0
	5	0	0	0	0.6	0	1.2	0	0
	6	0	0.1	0	0.1	0	0.3	0	0
	計		7	1.2	37	2.5	5	14.8	3

(3) 国富

(単位：頭)

		ツマグロヨコバイ		セジロウンカ		トビロウンカ		ヒメトビウンカ	
月	半旬	本年	平年値	本年	平年値	本年	平年値	本年	平年値
4	1	0	0	0	0	0	0	0	0
	2	0	0	0	0	0	0	0	0
	3	0	0	0	0	0	0	0	0
	4	0	0	0	0	0	0	0	0
	5	0	0	0	0	0	0	0	0
	6	0	0	0	0	0	0	0	0
	計		0	0	0	0	0	0	0
5	1	0	0	0	0	0	0	0	0
	2	0	0.1	0	0	0	0	0	0
	3	0	0.4	0	0	0	0	0	0
	4	13	2.8	0	0	0	0	0	0
	5	1	9.6	0	0.0	0	0	0	0.0
	6	6	40.5	1	0	0	0	0	0
	計		20	53.4	1	0.1	0	0	0
6	1	7	21.4	1	0	0	0	0	0
	2	2	65.3	1	2.2	0	0	0	0.1
	3	1	33.3	0	0.4	0	0	0	0.1
	4	2	28.6	1	0.4	0	0.0	0	0.3
	5	0	18.2	0	0.3	1	0	0	0.3
	6	1	2.7	1	1.1	0	0.2	0	0.2
	計		13	164.5	4	1.7	1	0.2	0
7	1	1	2.0	1	7.7	0	5.9	0	0.0
	2	1	6.5	1	8.3	0	4.4	0	1.1
	3	0	5.2	0	0.8	0	2.0	0	0.2
	4	0	7.3	2	0.4	0	0.3	0	0.2
	5	1	13.9	0	2.5	0	0.7	0	0.8
	6	6	16.3	0	2.6	0	1.1	0	1.5
	計		9	44.6	4	21.4	0	13.6	0
8	1	9	9.3	0	1.4	0	0.7	0	0.5
	2	3	14.5	1	1.6	0	0.6	0	0.6
	3	1	26.5	7	1.6	0	1.7	0	0.4
	4	1	21.2	3	0.6	0	0.9	0	0.4
	5	3	11.1	1	0.7	0	4.7	0	0.5
	6	4	12.8	0	10.0	0	13.1	0	1.6
	計		21	95.4	12	15.9	0	21.5	0
9	1	1	4.1	1	6.9	0	11.2	0	0.3
	2	0	2.8	8	2.8	0	7.5	1	0.4
	3	0	2.5	9	4.3	0	15.2	1	0.8
	4	3	2.2	8	2.3	0	6.6	4	0.7
	5	0	1.6	0	3.7	0	4.6	0	1.2
	6	1	0.8	0	1.8	0	13.3	0	0.1
	計		5	11.7	26	22.7	0	62.1	6
10	1	0	1.0	0	1.4	0	29.4	0	0.4
	2	0	0.4	4	1.2	0	17.2	0	0.2
	3	0	0.2	2	0.1	0	22.4	0	0.6
	4	0	0	1	0.2	0	27.2	0	0
	5	0	0	0	0.4	0	13.1	0	0
	6	0	0	0	0.3	0	5.8	0	0
	計		0	1.7	7	3.8	0	115.2	0

(4) 都城

(単位：頭)

		ツマグロヨコバイ		セジロウンカ		トビイロウンカ		ヒメトビウンカ	
月	半月	本年	平年値	本年	平年値	本年	平年値	本年	平年値
4	1	0	0	0	0	0	0	0	0
	2	0	0.0	0	0	0	0	0	0
	3	0	0	0	0	0	0	0	0
	4	0	0	0	0	0	0	0	0
	5	0	0	0	0	0	0	0	0
	6	0	0	0	0	0	0	0	0
	計		0	0.0	0	0	0	0	0
5	1	0	0	0	0	0	0	0	0
	2	0	0.1	0	0	0	0	0	0.1
	3	2	0.0	0	0	1	0.1	0	0.1
	4	12	0.7	0	0	0	0	0	0.1
	5	2	5.2	1	0	0	0	0	0
	6	30	15.4	0	0.2	0	0	0	0
	計		46	21.4	1	0.2	1	0.1	0
6	1	10	23.5	1	0.2	0	0	0	0
	2	24	38.1	0	14.4	0	0.1	0	0
	3	72	27.3	0	3.3	0	0	0	0
	4	14	7.3	0	5.9	0	0.0	1	0
	5	5	3.4	4	23.8	0	0.5	1	0
	6	7	8.0	12	11.7	0	1.4	0	0.7
	計		132	107.6	17	59.3	0	2.0	2
7	1	2	2.4	0	489.0	0	39.4	0	0.1
	2	8	4.3	37	75.0	0	12.5	1	0.1
	3	10	10.9	59	28.9	0	5.1	1	0.2
	4	13	30.7	25	7.2	0	0.8	1	0.4
	5	43	63.9	2	21.8	0	0.4	1	1.0
	6	48	80.4	4	17.8	0	2.0	2	2.9
	計		124	192.6	127	639.7	0	60.2	6
8	1	14	50.8	2	12.3	0	2.0	2	1.1
	2	52	52.9	5	6.3	0	3.1	10	0.3
	3	8	78.6	2	10.3	0	3.4	0	0.9
	4	24	123.7	3	10.3	1	2.4	0	0.3
	5	14	100.8	4	6.5	0	1.8	3	1.1
	6	9	98.5	3	18.5	1	15.4	2	3.2
	計		121	479.7	19	59.3	2	26.8	17
9	1	0	64.5	6	11.2	0	14.6	0	1.0
	2	4	44.7	3	11.8	0	36.2	0	0.5
	3	2	13.8	9	7.7	0	43.4	1	0.7
	4	33	25.6	14	5.7	0	19.2	2	1.3
	5	30	17.4	6	8.5	0	21.1	0	0.4
	6	9	16.1	4	3.6	0	29.7	0	0.0
	計		78	180.5	42	48.1	0	161.2	3
10	1	3	24.7	2	2.1	0	86.6	0	1.2
	2	14	5.5	23	3.0	0	117.6	2	0.4
	3	22	0.8	11	0.8	0	57.3	23	0.2
	4	0	2.1	0	1.4	1	102.3	1	0.2
	5	0	0.0	1	0.7	0	66.8	0	0.6
	6	0	0.3	0	1.0	0	34.6	0	0
	計		39	33.4	37	9.0	1	465.2	26

5) フェロモントラップによる誘殺状況

(1) チャハマキの誘殺状況

(単位:頭)

月	半旬	都 城			三 股			田 野		
		本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年	平年	前年
3	1									
	2									
	3									
	4	25		4	12		4	15		
	5	58		5	13		6	22		
	6	107		5	12		6	36		35
	計	191	0	14	37	0	16	73	0	35
4	1	21	23	1	1	6	0	14	16	16
	2	215	25	6	1	5	0	3	9	11
	3	162	36	21	3	4	5	13	6	9
	4	9	47	41	4	7	12	31	15	8
	5	4	53	5	7	10	1	33	18	4
	6	5	45	8	1	7	2	32	15	3
	計	417	229	83	17	39	21	127	78	50
5	1	3	33	8	0	7	3	13	11	2
	2	0	24	2	0	5	1	8	8	0
	3	0	12	1	1	1	0	16	7	2
	4	1	5	2	1	2	1	17	4	5
	5	1	3	0	0	1	0	11	4	1
	6	3	4	1	3	3	1	4	6	3
	計	7	82	14	5	19	5	69	40	14
6	1	3	4	3	2	5	0	8	6	10
	2	5	21	5	6	12	0	11	15	21
	3	8	28	26	11	15	22	13	14	21
	4	9	27	15	0	11	15	6	11	12
	5	5	25	8	0	6	15	17	10	5
	6	2	23	6	0	9	31	21	9	6
	計	31	127	64	19	59	83	76	64	76
7	1	1	18	1	2	5	7	11	7	1
	2	0	10	0	0	3	1	3	4	0
	3	1	5	0	0	2	1	0	2	0
	4	3	10	0	1	3	8	0	2	5
	5	28	20	26	4	3	7	4	1	5
	6	15	43	45	3	4	4	1	2	5
	計	48	106	72	10	20	27	19	17	16
8	1	3	50	35	1	8	1	0	1	3
	2	0	25	1	0	5	0	0	2	0
	3	0	20	0	0	3	0	1	1	0
	4	4	14	0	1	3	0	5	2	0
	5	6	9	0	2	2	0	9	4	1
	6	3	19	65	2	19	114	10	4	2
	計	17	137	102	6	40	115	25	13	6
9	1	—	22	11	—	10	19	—	4	0
	2	—	22	97	—	10	3	—	4	1
	3	17	39	242	8	15	9	7	4	4
	4	64	43	226	32	13	12	37	4	2
	5	22	50	205	28	16	13	33	6	8
	6	11	60	163	21	22	12	33	8	9
	計	114	235	944	89	86	68	111	30	25
10	1	10	40	49	14	33	6	36	8	1
	2	3	33	43	5	28	3	12	9	1
	3	2	23	26	3	15	1	6	9	2
	4	1	11	1	2	7	0	2	9	2
	5	0	8	1	0	6	0	0	6	3
	6	0	4	1	0	5	0	0	3	1
	計	15	118	120	24	95	10	56	45	11

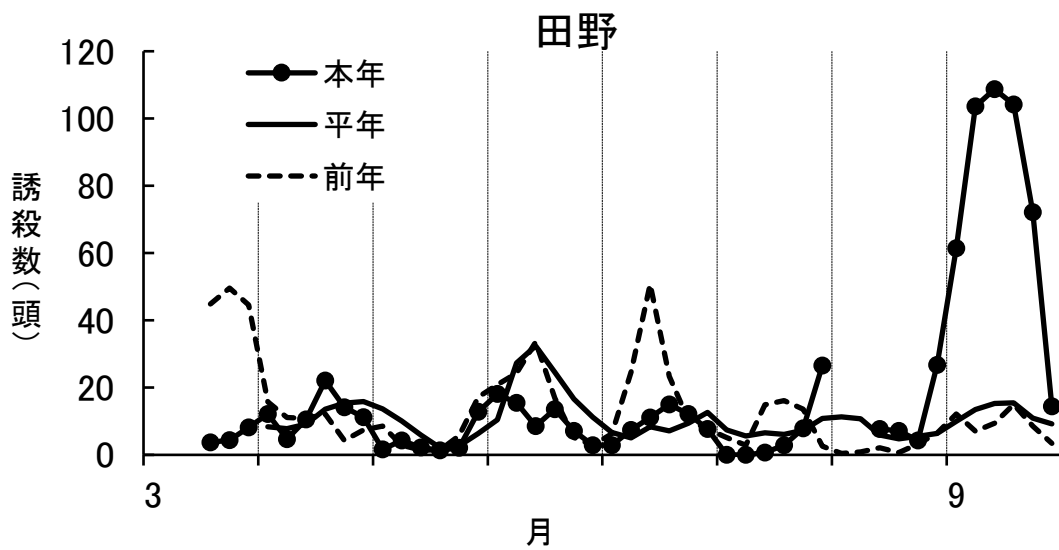
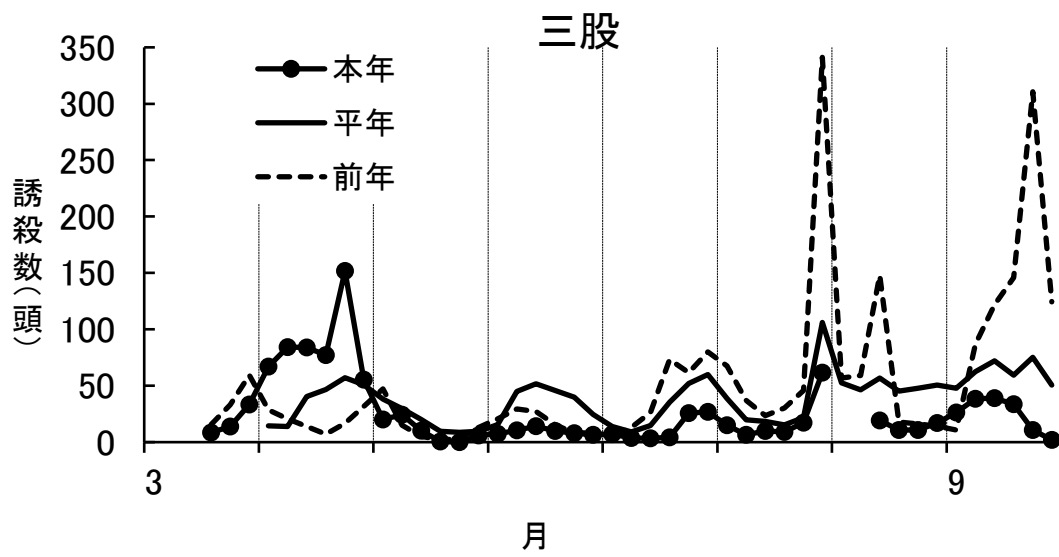
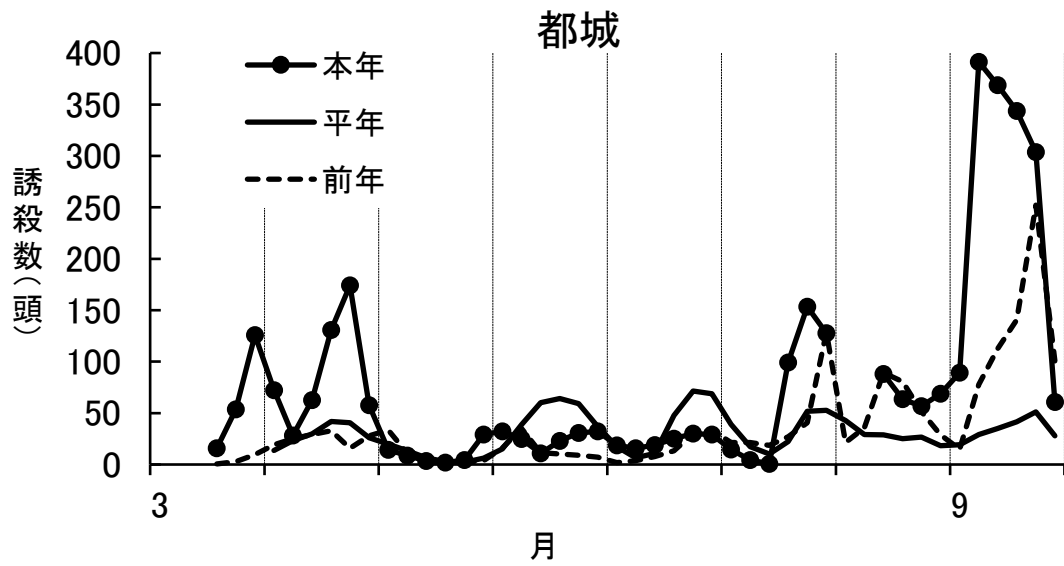
※「—」は欠測、数値は小数点以下を四捨五入しており、計が合わないことがあります。

(2) チャノココカクモンハマキの誘殺状況

(単位:頭)

月	半旬	都 城			三 股			田 野		
		本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年	平年	前年
3	1									
	2									
	3									
	4	16		1	9		16	4		45
	5	54		3	14		33	4		50
	6	126		10	33		59	8		45
	計	195	0	13	56	0	108	16	0	139
4	1	72	14	19	67	14	29	12	8	16
	2	28	23	25	84	14	21	5	8	11
	3	63	30	29	84	40	14	11	9	11
	4	131	42	33	77	47	7	22	14	12
	5	174	41	16	152	57	17	14	15	4
	6	58	26	28	55	51	32	11	16	7
	計	525	175	150	520	223	119	75	70	62
5	1	14	20	34	20	38	47	2	14	9
	2	9	13	11	24	30	15	4	10	3
	3	3	6	4	10	20	5	2	6	1
	4	2	3	2	1	10	2	1	2	1
	5	4	2	2	0	9	3	2	3	6
	6	29	6	4	6	10	13	13	6	17
	計	61	51	56	61	116	86	25	41	37
6	1	32	15	16	7	16	21	18	10	21
	2	25	39	35	10	45	29	15	27	24
	3	11	60	11	14	52	27	9	32	34
	4	23	64	10	10	46	16	14	25	17
	5	31	59	9	8	40	8	7	17	5
	6	32	37	7	7	25	9	3	11	3
	計	154	274	89	56	223	109	66	123	104
7	1	19	17	2	7	14	5	3	7	6
	2	16	7	4	4	9	13	7	5	25
	3	19	11	8	3	15	26	11	8	51
	4	25	48	13	4	35	73	15	7	23
	5	30	71	30	26	52	62	12	9	10
	6	29	69	33	27	60	80	8	13	8
	計	137	223	90	71	185	260	56	49	123
8	1	15	39	21	15	39	67	0	7	5
	2	4	17	21	6	20	37	0	6	3
	3	1	10	19	10	18	23	1	7	15
	4	99	22	27	9	15	30	3	6	16
	5	153	52	41	17	22	46	8	7	14
	6	128	53	129	62	106	341	27	11	3
	計	400	194	258	119	220	545	38	44	55
9	1	—	43	21	—	53	57	—	11	0
	2	—	29	36	—	46	59	—	11	1
	3	88	29	89	19	57	148	8	6	2
	4	64	25	81	11	45	18	7	5	1
	5	57	27	52	11	48	16	4	6	3
	6	69	18	29	17	51	14	27	6	6
	計	277	171	307	58	299	312	46	45	14
10	1	89	19	15	26	48	11	61	10	12
	2	391	29	78	39	63	87	104	14	7
	3	369	35	112	39	72	122	109	15	9
	4	344	42	141	34	59	146	104	15	15
	5	304	51	252	11	75	311	72	11	9
	6	61	28	101	2	51	124	14	9	3
	計	1557	204	699	150	368	800	464	74	56

※「—」は欠測、数値は小数点以下を四捨五入しており、計が合わないことがあります。



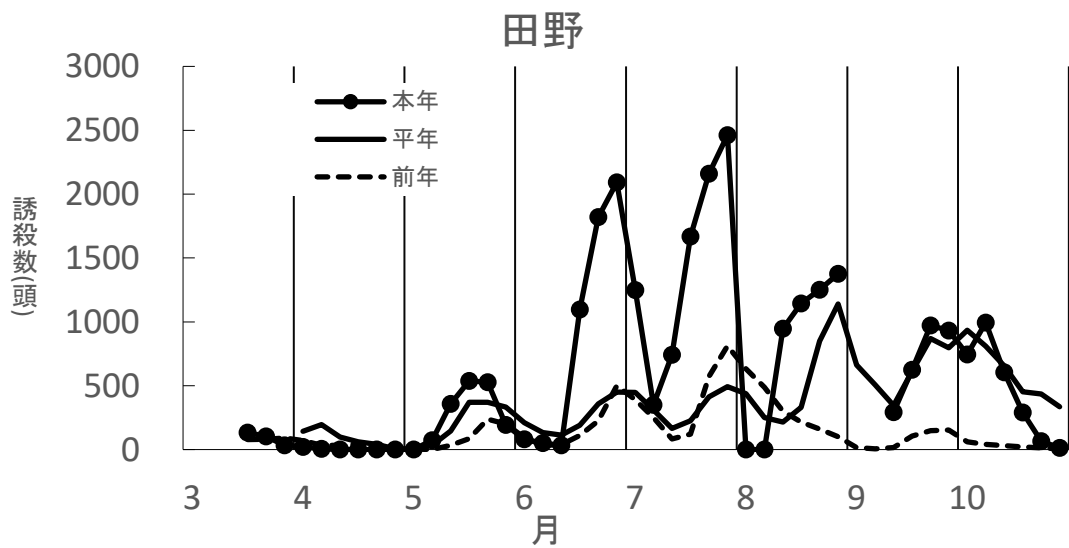
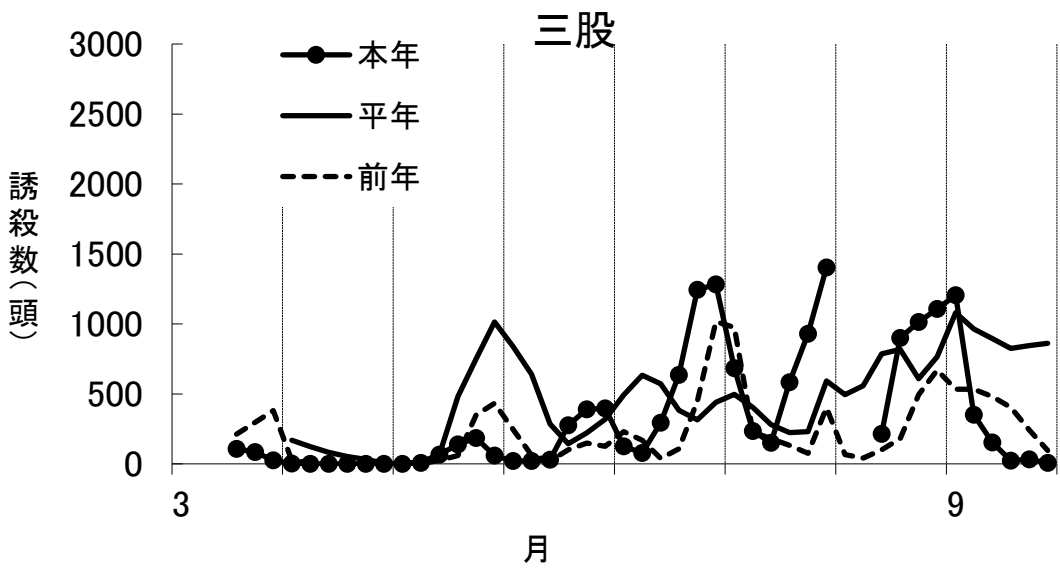
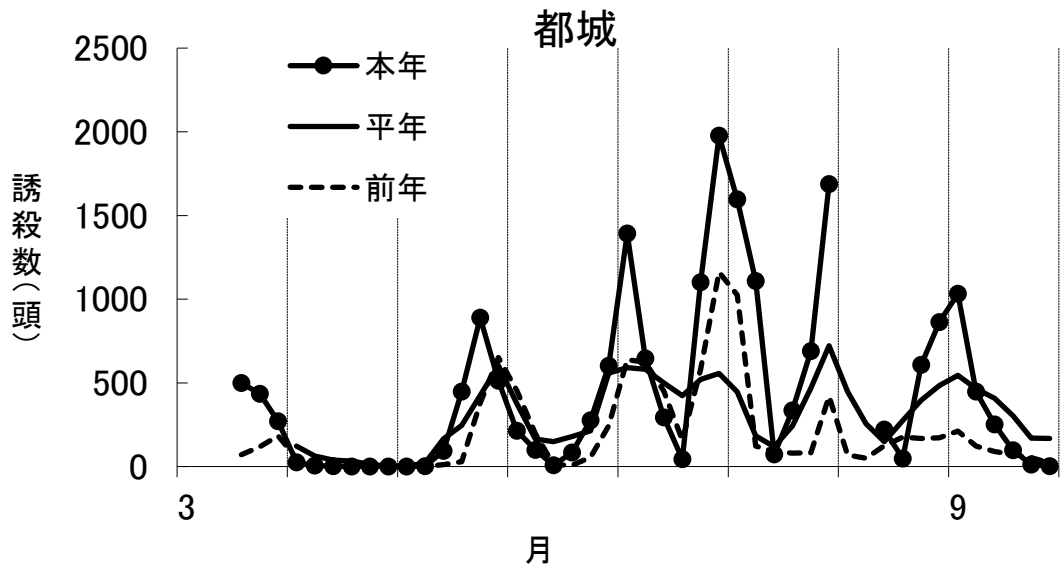
チャノコカクモンハマキのフェロモントラップ誘殺状況(2021年)

(3) チャノホソガの誘殺状況

(単位:頭)

月	半旬	都 城			三 股			田 野		
		本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年	平年	前年
3	1									
	2									
	3									
	4	499		72	108		213	133		77
	5	434		117	83		297	103		81
	6	270		183	25		380	34		90
	計	1203	0	372	217	0	890	270	0	248
4	1	26	122	49	2	168	25	21	142	71
	2	7	63	11	0	124	8	6	196	34
	3	2	38	1	0	83	2	2	99	34
	4	1	32	1	0	53	0	1	62	46
	5	0	13	0	1	32	0	0	41	1
	6	0	2	0	0	4	0	1	6	3
	計	35	271	62	4	464	35	32	545	189
5	1	0	2	0	1	2	0	2	3	4
	2	2	22	0	6	15	1	74	33	1
	3	93	165	11	67	66	24	357	146	35
	4	448	246	29	138	480	60	538	371	86
	5	889	425	379	184	750	348	527	371	237
	6	512	604	652	59	1015	434	193	332	201
	計	1944	1465	1071	456	2328	867	1691	1256	564
6	1	214	376	454	20	840	245	81	211	93
	2	99	164	196	20	641	61	50	134	34
	3	7	148	11	31	286	21	34	112	39
	4	84	180	9	276	144	100	1097	191	110
	5	276	213	55	389	221	148	1821	359	226
	6	602	558	244	397	320	126	2093	451	499
	計	1283	1639	969	1133	2452	701	5175	1458	999
7	1	1393	590	639	125	493	230	1250	448	391
	2	645	581	622	79	633	169	350	309	251
	3	293	498	450	295	571	39	742	165	82
	4	44	424	157	636	382	108	1668	225	120
	5	1101	521	580	1243	315	448	2160	414	573
	6	1977	557	1161	1283	441	1016	2462	492	812
	計	5453	3172	3609	3660	2835	2011	8632	2054	2228
8	1	1595	447	1025	683	497	974	0	438	631
	2	1109	182	123	234	403	228	0	251	488
	3	73	119	89	151	281	181	947	216	301
	4	336	243	81	582	223	132	1145	330	217
	5	690	468	81	930	231	76	1251	849	160
	6	1689	722	418	1404	592	400	1377	1140	101
	計	5491	2180	1817	3984	2228	1991	4720	3225	1898
9	1	—	447	70	—	493	67	—	662	17
	2	—	256	49	—	559	40	—	507	6
	3	221	149	124	215	786	101	293	346	16
	4	49	274	175	900	819	179	624	613	106
	5	609	397	167	1014	608	494	971	869	149
	6	862	484	172	1108	764	670	932	796	154
	計	1741	2005	757	3237	4031	1550	2820	3793	447
10	1	1033	544	212	1206	1080	534	744	935	60
	2	448	465	123	351	964	534	994	809	42
	3	251	407	90	153	894	481	606	655	31
	4	98	303	73	23	826	403	290	452	21
	5	11	170	54	31	845	242	66	434	12
	6	2	167	22	6	861	97	13	335	5
	計	1843	2056	574	1770	5470	2290	2714	3620	170

※「—」は欠測、数値は小数点以下を四捨五入しており、計が合わないことがあります。



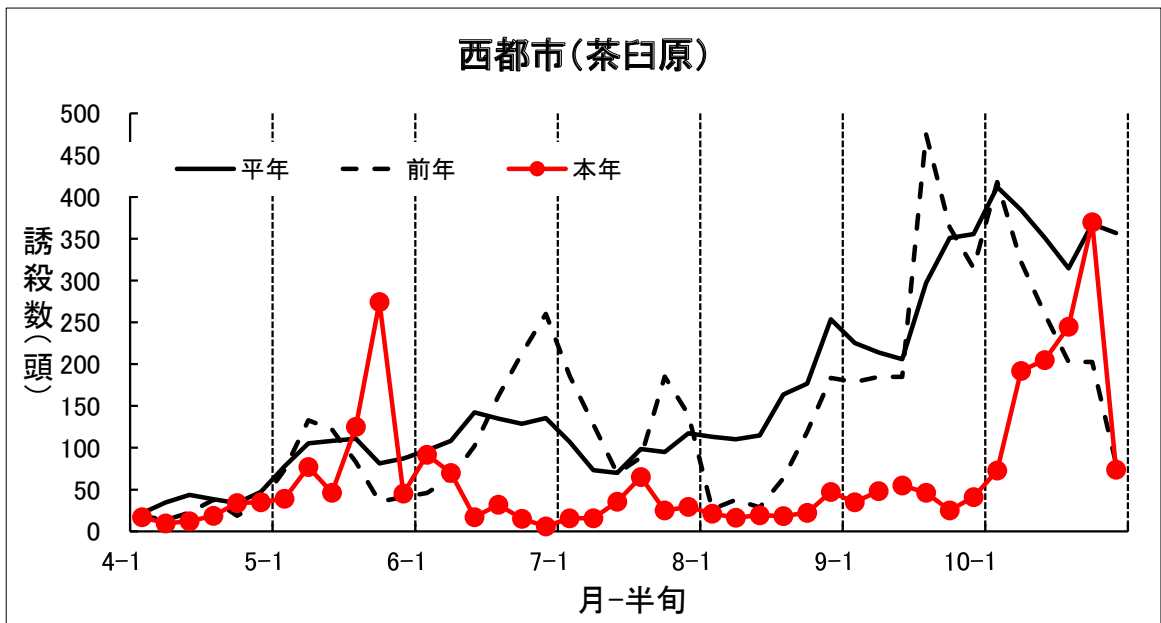
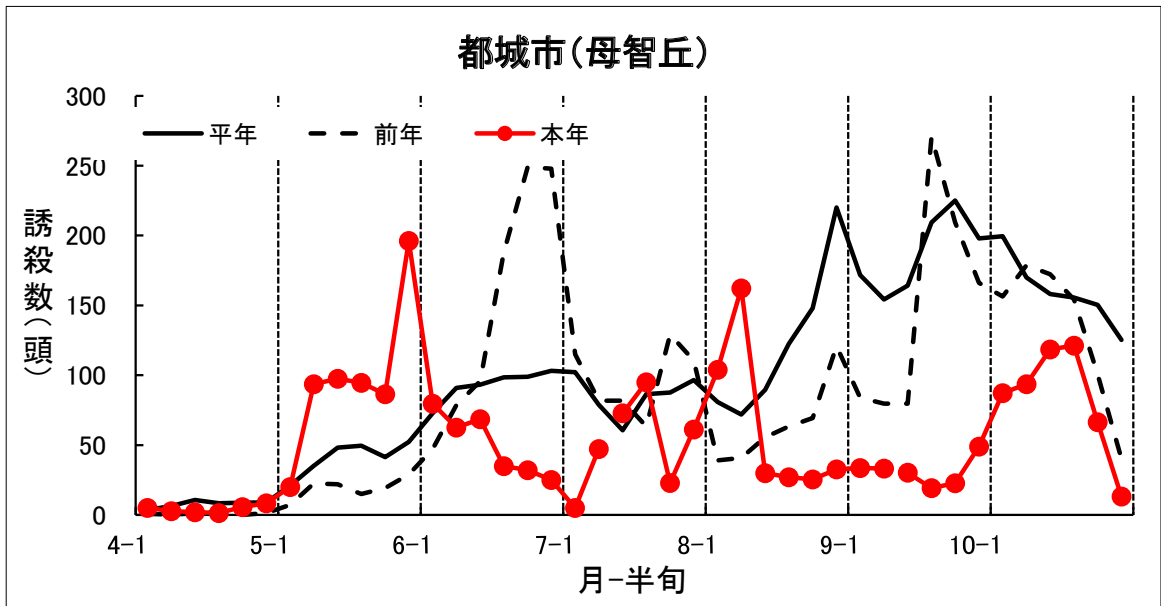
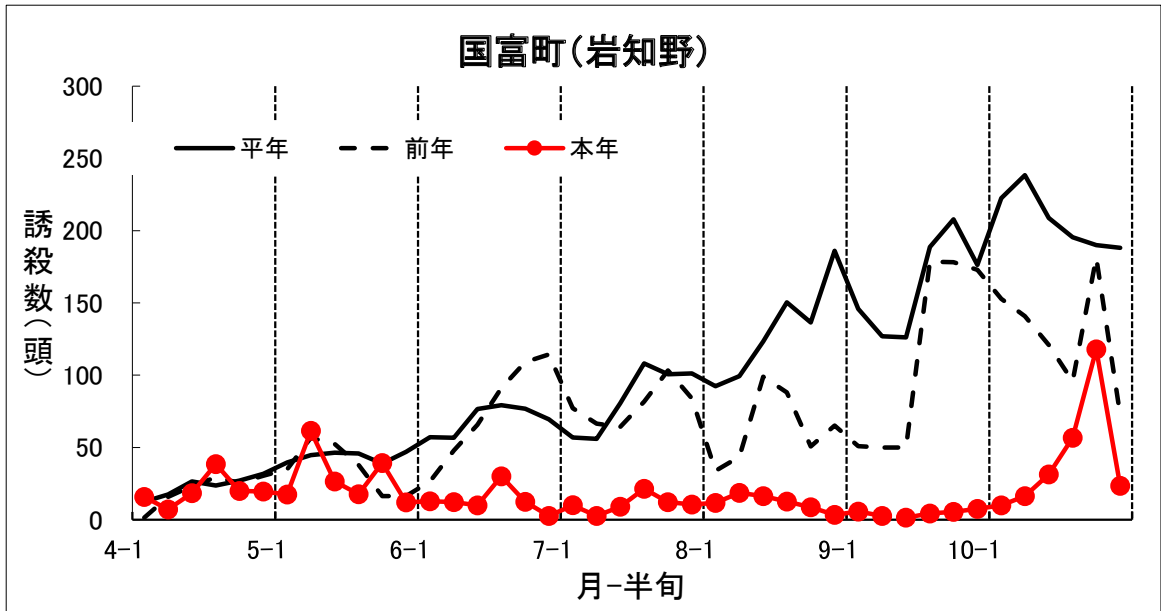
チャノホソガのフェロモントラップ誘殺状況(2021年)

(4) ハスモンヨトウの誘殺状況

(単位：頭)

月	半旬	国富町(岩知野)			都城市(母智丘)			西都市(茶臼原)		
		本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年	平年	前年
4	1	16	12.5	1	5	3.5	1	17	21.7	19
	2	7	17.6	16	3	6.3	0	10	34.5	13
	3	18	26.5	23	2	10.7	1	12	43.7	22
	4	39	23.7	29	1	8.3	3	19	38.6	38
	5	20	27.1	26	6	8.8	0	34	34.1	19
	6	20	31.8	30	8	8.9	1	35	47.2	34
	計		119	139.1	126	25	46.5	6	126	219.7
5	1	18	39.6	35	20	20.9	7	39	77.8	74
	2	61	44.6	57	94	35.2	23	77	105.2	133
	3	27	46.3	52	97	48.2	22	46	108.4	122
	4	18	45.9	38	95	49.6	15	125	110.8	83
	5	39	39.0	16	86	41.3	19	274	81.4	36
	6	12	46.9	16	196	52.2	29	45	87.1	41
	計		175	262.3	215	588	247.5	115	608	570.7
6	1	13	57.1	26	80	72.9	47	92	97.1	46
	2	12	56.8	48	63	90.9	79	70	108.1	64
	3	10	76.6	66	69	93.3	96	17	142.4	102
	4	30	79.3	91	35	98.4	188	32	135.0	162
	5	12	76.9	109	32	98.8	249	15	128.8	213
	6	3	69.4	114	25	103.2	248	6	135.5	260
	計		80	416.1	454	303	557.5	906	232	746.8
7	1	10	56.9	77	5	102.2	115	16	106.9	186
	2	3	56.0	66	47	78.9	82	16	73.1	128
	3	9	80.5	64	73	60.6	82	35	69.9	69
	4	21	108.2	82	95	86.4	63	65	98.7	88
	5	12	100.6	103	23	87.6	129	25	95.1	185
	6	11	101.1	84	61	96.5	111	29	117.5	140
	計		66	503.4	477	304	512.1	582	186	561.2
8	1	12	92.3	34	104	80.9	39	21	113.2	26
	2	19	99.4	44	162	71.9	41	16	110.2	38
	3	16	123.3	99	30	89.6	56	19	114.7	29
	4	13	150.4	88	27	122.3	63	18	163.8	64
	5	9	136.5	51	25	148.0	69	22	176.8	119
	6	3	186.1	65	33	220.1	121	47	253.5	183
	計		71	787.9	380	381	732.9	389	145	932.2
9	1	6	145.9	51	34	171.8	84	35	225.5	179
	2	3	127.0	50	33	154.1	80	48	213.9	185
	3	1	126.1	50	30	164.1	80	55	205.9	185
	4	4	188.7	179	19	209.5	271	46	297.2	475
	5	5	207.8	178	23	225.1	209	25	351.0	364
	6	7	176.3	173	49	198.0	166	41	355.5	315
	計		27	971.8	680	188	1122.6	889	251	1649.0
10	1	10	222.5	153	87	199.4	156	73	412.0	418
	2	16	238.4	141	94	169.9	179	192	384.6	322
	3	31	208.9	121	118	158.0	172	205	351.4	260
	4	57	195.5	96	121	155.6	154	245	314.7	203
	5	118	190.1	181	66	150.4	101	370	367.4	203
	6	24	188.2	73	13	125.3	40	74	356.8	81
	計		256	1243.6	764	500	958.6	803	1159	2186.8

※「-」は欠測、本年、前年の数値は小数点以下を四捨五入しており、計が合わないことがあります。



ハスモンヨトウのフェロモントラップ誘殺状況 (2021年)

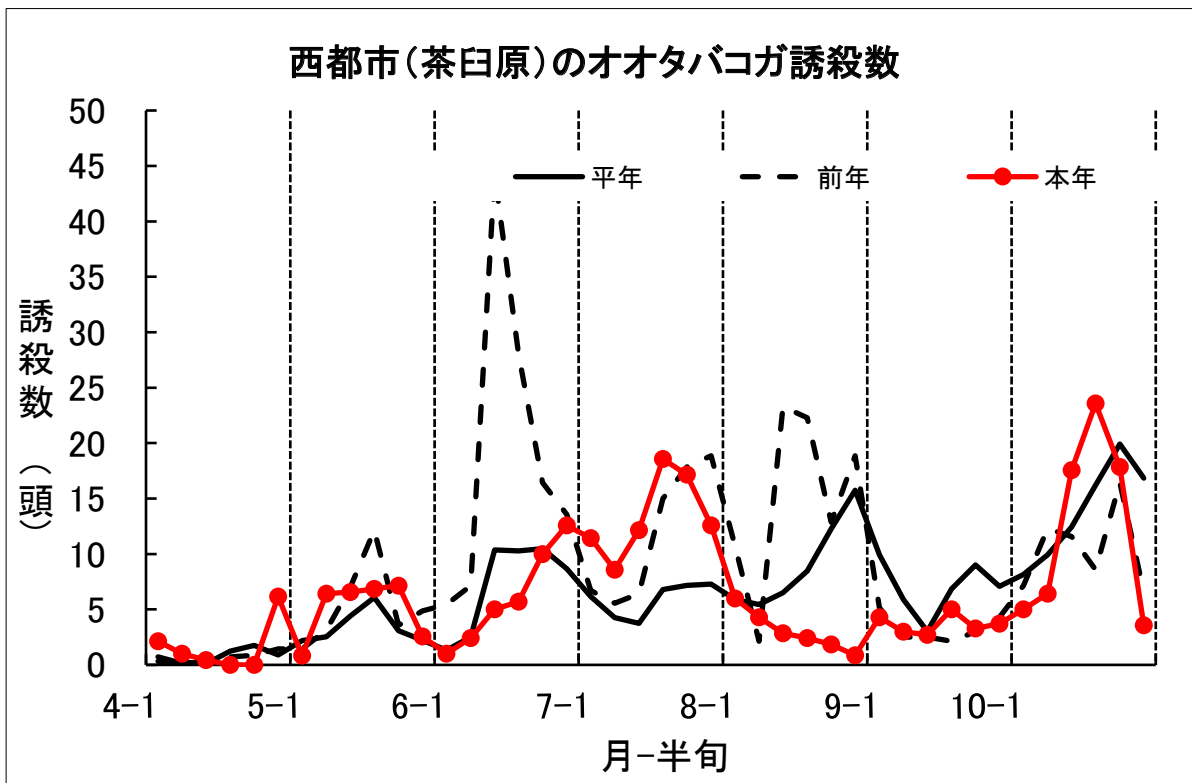
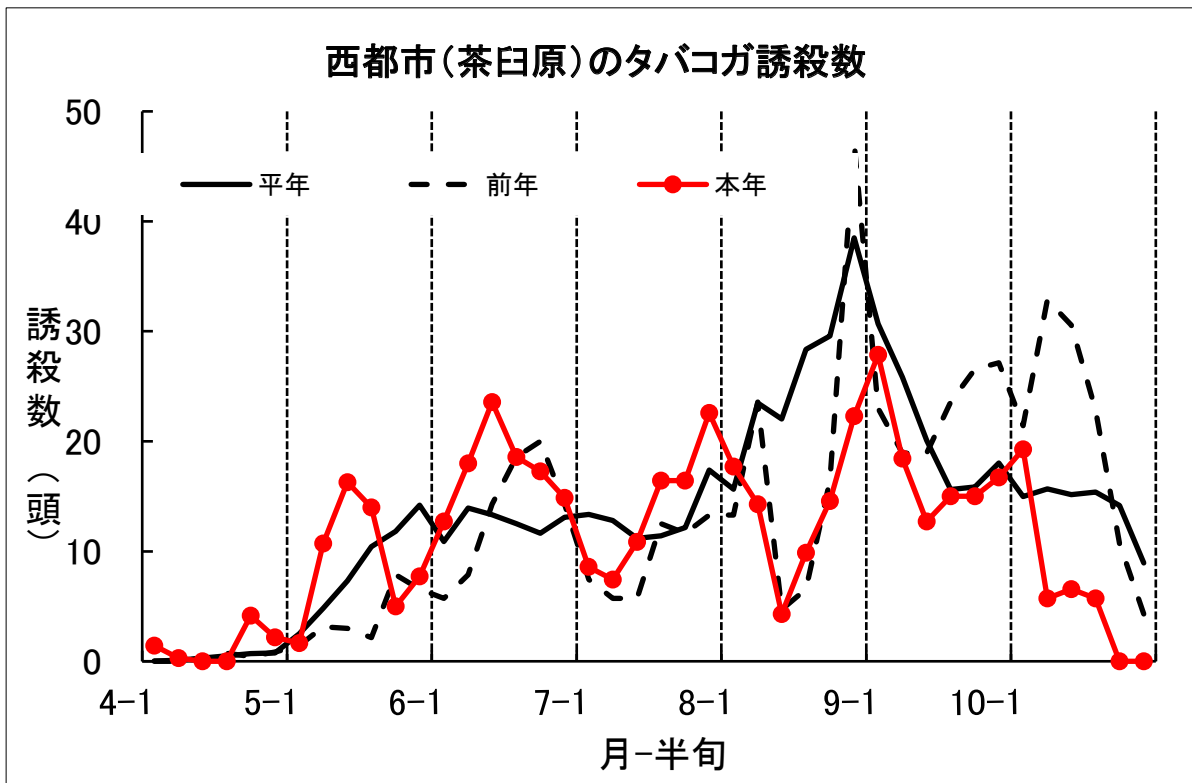
(5) タバコガ・オオタバコガの誘殺状況

(単位：頭)

月	半旬	タバコガ			オオタバコガ		
		本年	平年	前年	本年	平年	前年
4	1	1	0.0	0	2	0.3	1
	2	0	0.1	0	1	0.3	0
	3	0	0.3	0	0	0.1	0
	4	0	0.5	1	0	1.2	1
	5	4	0.7	0	0	1.8	1
	6	2	0.8	1	6	0.9	1
	計	8	2.4	2	10	4.6	4
5	1	2	2.5	1	1	2.2	1
	2	11	4.8	3	6	2.5	3
	3	16	7.3	3	7	4.4	7
	4	14	10.4	2	7	6.1	12
	5	5	11.8	8	7	3.1	4
	6	8	14.2	7	3	2.2	5
	計	55	51.1	24	30	20.5	32
6	1	13	10.9	6	1	1.3	5
	2	18	13.9	8	2	2.5	7
	3	24	13.3	14	5	10.4	44
	4	19	12.5	19	6	10.3	28
	5	17	11.6	20	10	10.5	16
	6	15	13.1	14	13	8.7	14
	計	105	75.4	81	37	43.6	115
7	1	9	13.3	7	11	6.2	7
	2	7	12.8	6	9	4.3	6
	3	11	11.2	6	12	3.7	6
	4	16	11.4	13	19	6.8	15
	5	16	12.2	12	17	7.2	18
	6	23	17.4	13	13	7.3	19
	計	82	78.3	56	80	35.4	70
8	1	18	15.6	13	6	5.9	11
	2	14	23.5	24	4	5.4	2
	3	4	22.0	5	3	6.5	23
	4	10	28.4	7	2	8.5	22
	5	15	29.6	16	2	12.3	13
	6	22	38.5	47	1	15.8	19
	計	83	157.6	112	18	54.3	90
9	1	28	30.7	23	4	9.9	5
	2	18	25.8	19	3	5.9	3
	3	13	20.1	19	3	3.0	3
	4	15	15.6	24	5	6.8	2
	5	15	15.8	27	3	9.0	3
	6	17	18.0	27	4	7.1	4
	計	106	126.1	138	22	41.8	20
10	1	19	15.0	21	5	8.1	7
	2	6	15.7	33	6	9.9	12
	3	7	15.1	31	18	12.4	12
	4	6	15.4	23	24	16.2	9
	5	0	14.2	11	18	19.9	16
	6	0	8.9	4	4	16.8	7
	計	37	84.2	123	74	83.5	63

※「-」は欠測、本年、前年の数値は小数点以下を四捨五入しており、計が合わないことがあります。

※※フェロモントラップ設置地点：西都市茶臼原



タバコガ、オオタバコガのフェロモントラップ誘殺状況 (2021年)

(6) コブノメイガの誘殺状況

(単位：頭)

	6 月			7 月			8 月		
	都城	えびの	佐土原	都城	えびの	佐土原	都城	えびの	佐土原
1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
2	0	0	0	0	0	0	0	0	0
3	0	0	0	0	0	0	1	0	0
4	0	0	0	0	0	0	0	0	3
5	0	0	0	0	0	0	0	0	0
半旬計	0	0	0	0	0	0	1	0	3
6	0	0	0	0	0	0	0	0	0
7	0	0	0	0	0	0	0	0	0
8	0	0	0	0	0	0	0	0	0
9	0	0	0	0	0	0	0	0	0
10	0	0	0	0	0	0	2	0	0
半旬計	0	0	0	0	0	0	2	0	0
11	0	0	0	0	0	0	6	1	1
12	0	0	0	0	0	0	5	0	1
13	0	0	0	0	0	0	6	0	0
14	0	0	0	0	0	0	2	0	0
15	0	0	0	0	3	0	1	0	0
半旬計	0	0	0	0	3	0	20	1	2
16	0	0	0	0	0	0	7	0	0
17	0	0	0	0	0	0	6	5	0
18	0	0	0	0	0	1	8	2	0
19	0	0	0	0	0	0	4	2	0
20	0	0	0	0	0	0	2	0	0
半旬計	0	0	0	0	0	1	27	9	0
21	0	0	0	0	0	0			0
22	0	0	0	0	0	0			0
23	0	0	0	0	0	0			0
24	0	0	0	0	0	0			0
25	0	0	0	0	0	0			1
半旬計	0	0	0	0	0	0			1
26	0	0	0	0	0	0			0
27	0	0	0	0	0	0			0
28	0	0	0	0	0	0			0
29	0	0	0	0	0	0			0
30	0	0	0	0	0	0			0
31				0	0	0			5
半旬計	0	0	0	0	0	0			5
月計	0	0	0	0	3	1	50	10	11

6)果樹カメムシ類の誘殺状況

(1)予察灯における誘殺状況

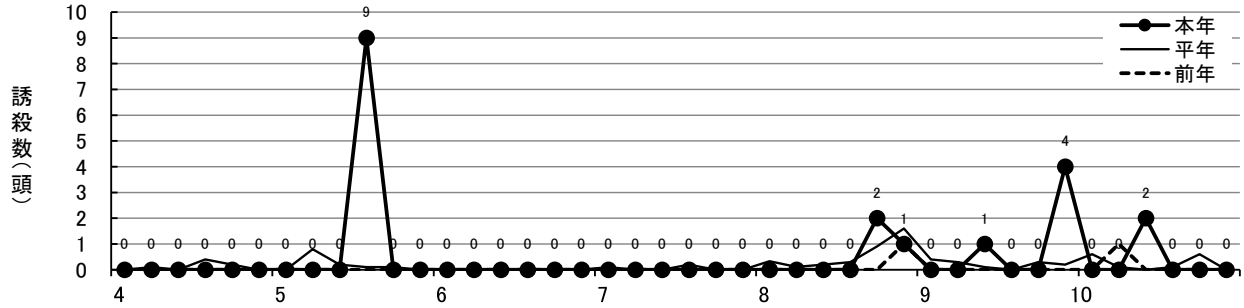
①チャバネアオカメムシの誘殺状況

(単位:頭)

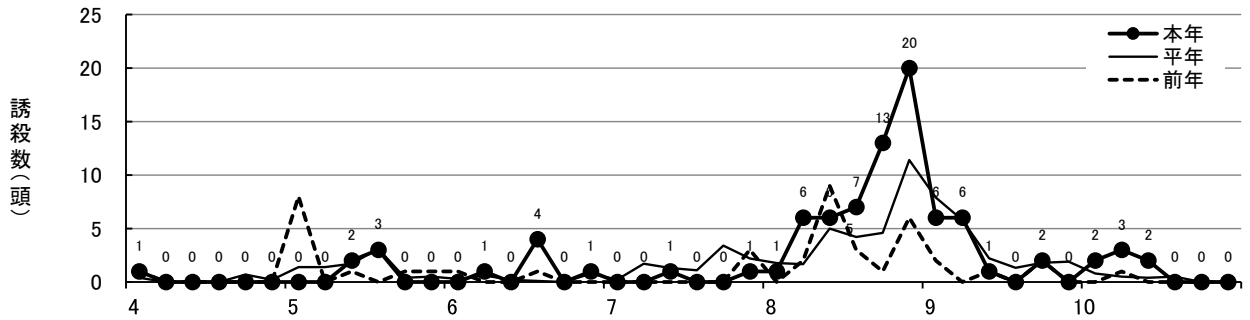
月	半旬	佐土原			国 富			延 岡			都 城			日 南		
		本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年	平年	前年
4	1	0	0.0	0	1	0.4	1	0	0.2	0	0	0.0	0	0	1.1	0
	2	0	0.1	0	0	0.0	0	0	0.1	0	0	0.0	0	0	0.0	0
	3	0	0.0	0	0	0.0	0	0	0.3	0	0	0.0	0	0	0.0	0
	4	0	0.4	0	0	0.0	0	0	0.5	0	0	0.1	0	0	0.3	0
	5	0	0.2	0	0	0.7	0	0	0.2	0	0	0.2	0	0	0.0	0
	6	0	0.0	0	0	0.2	0	0	0.3	0	0	0.0	0	0	0.0	0
	計	0	0.7	0	1	1.3	1	0	1.7	0	0	0.3	0	0	1.4	0
5	1	0	0.0	0	0	1.4	8	0	2.2	0	0	0.4	2	0	0.4	0
	2	0	0.8	0	0	1.4	0	0	2.4	0	4	0.4	2	0	0.8	1
	3	0	0.2	0	2	1.7	1	4	4.1	0	6	0.2	0	0	0.3	1
	4	9	0.1	0	3	3.1	0	1	7.6	0	0	1.9	2	0	0.1	0
	5	0	0.1	0	0	0.4	1	0	0.8	0	0	0.4	1	0	0.1	0
	6	0	0.0	0	0	0.5	1	0	0.7	0	0	0.1	1	0	0.2	0
	計	9	1.2	0	5	8.5	11	5	17.8	0	10	3.4	8	0	1.9	2
6	1	0	0.0	0	0	0.3	1	0	0.4	0	0	0.1	1	0	0.3	2
	2	0	0.0	0	1	0.6	0	2	0.7	0	1	0.5	3	0	0.1	0
	3	0	0.0	0	0	0.2	0	0	0.9	0	1	0.4	0	1	0.5	2
	4	0	0.0	0	4	0.1	1	0	0.3	0	3	0.4	3	0	1.4	0
	5	0	0.0	0	0	0.0	0	0	0.8	0	0	0.3	0	0	1.1	1
	6	0	0.0	0	1	0.8	0	0	1.1	0	1	0.5	2	3	2.0	4
	計	0	0.0	0	6	2.0	2	2	4.2	0	6	2.2	9	4	5.4	9
7	1	0	0.1	0	0	0.2	0	0	1.8	0	1	0.7	2	13	2.1	3
	2	0	0.0	0	0	1.7	0	0	6.1	0	0	14.0	0	4	3.0	0
	3	0	0.0	0	1	1.3	0	0	14.1	0	2	1.1	1	4	4.8	7
	4	0	0.2	0	0	1.1	0	0	4.9	0	4	1.0	3	0	4.3	0
	5	0	0.0	0	0	3.4	0	1	7.3	0	4	1.5	2	0	4.2	1
	6	0	0.0	0	1	2.2	3	0	5.1	0	5	0.3	0	1	6.6	2
	計	0	0.3	0	2	9.9	3	1	39.3	0	16	18.6	8	22	25.0	13
8	1	0	0.3	0	1	1.8	0	2	1.7	0	7	0.7	0	7	3.7	3
	2	0	0.1	0	6	1.7	2	5	4.1	5	9	1.7	2	7	9.7	6
	3	0	0.2	0	6	5.0	9	9	8.5	3	1	2.7	2	8	14.9	12
	4	0	0.3	0	7	4.2	3	3	8.9	11	0	2.8	2	15	16.6	12
	5	2	0.9	0	13	4.6	1	18	17.3	6	10	3.2	2	8	13.3	8
	6	1	1.6	1	20	11.4	6	22	22.5	5	7	4.7	17	7	13.2	8
	計	3	3.4	1	53	28.6	21	59	63.0	30	34	15.7	25	52	71.4	49
9	1	0	0.4	0	—	7.9	2	—	13.7	0	—	3.0	0	7	8.7	7
	2	0	0.3	0	—	5.8	0	—	11.5	2	—	2.3	4	2	7.0	3
	3	1	0.1	0	1	2.2	1	9	8.2	2	1	0.7	1	6	5.9	1
	4	0	0.0	0	0	1.3	0	14	2.7	2	0	0.8	0	7	4.2	9
	5	0	0.3	0	2	1.8	2	2	5.8	0	0	1.4	0	2	4.4	3
	6	4	0.2	0	0	1.9	0	3	1.3	0	1	2.1	0	3	3.7	1
	計	5	1.3	0	3	21.0	5	28	43.2	6	2	10.2	5	27	33.9	24
10	1	0	0.6	0	2	0.8	0	0	1.8	0	0	1.2	1	0	3.4	5
	2	0	0.1	1	3	0.5	1	3	0.8	0	0	0.2	0	5	6.6	4
	3	2	0.0	0	2	0.4	0	1	0.4	0	0	0.4	0	4	2.0	1
	4	0	0.1	0	0	0.5	0	0	0.0	0	0	0.1	0	0	0.6	0
	5	0	0.6	0	0	0.0	0	0	0.1	0	0	0.2	0	0	0.7	0
	6	0	0.0	0	0	0.0	0	0	0.0	0	0	0.0	0	0	0.1	0
	計	2	1.4	1	7	2.2	1	4	3.1	0	0	2.1	1	9	13.4	10
合計	19	8.3	2	77	73.5	44	99	172.2	36	68	52.6	56	114	152.4	107	

※「—」は欠測

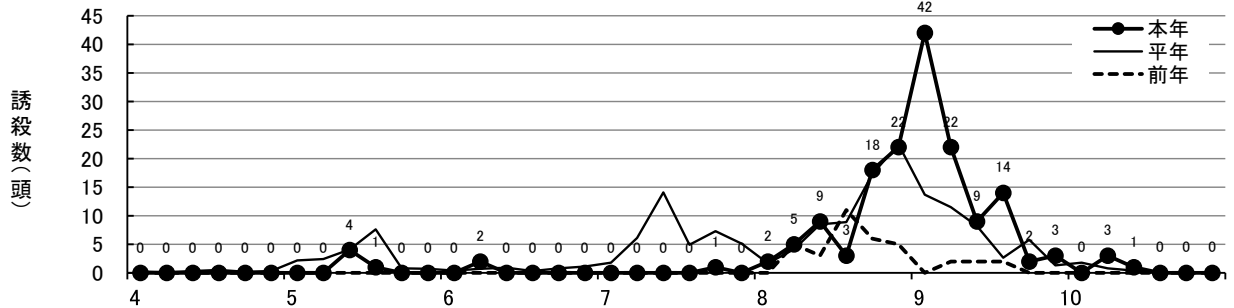
佐土原



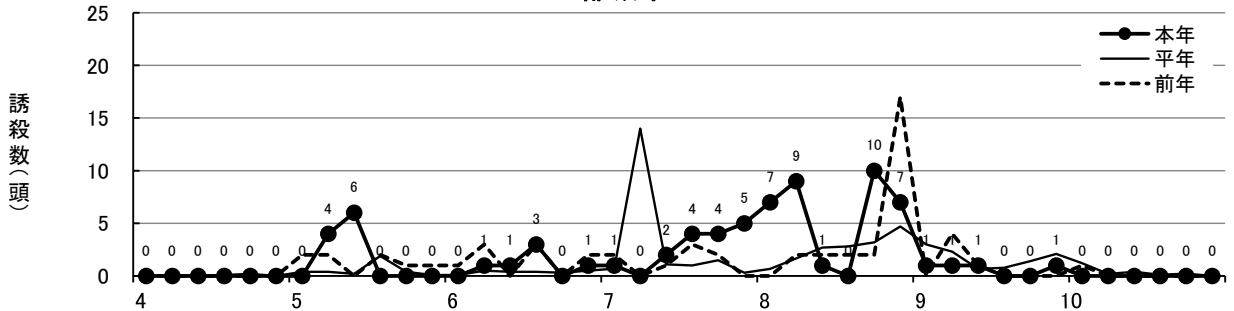
国富町



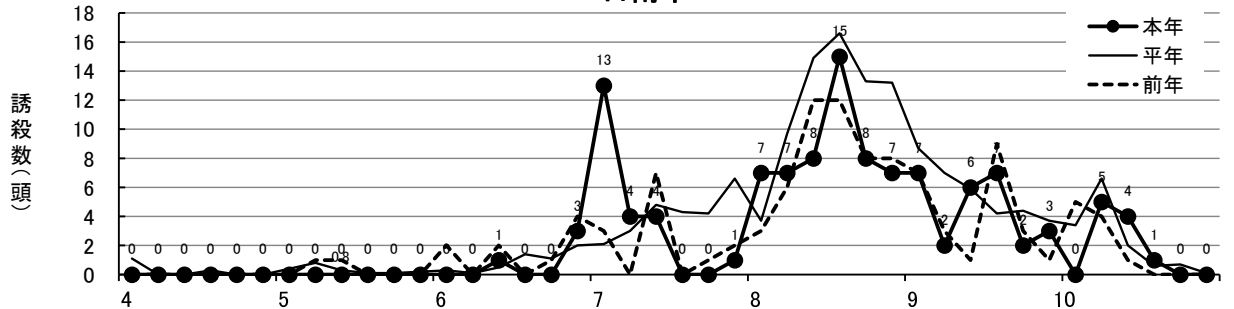
延岡市



都城市



日南市



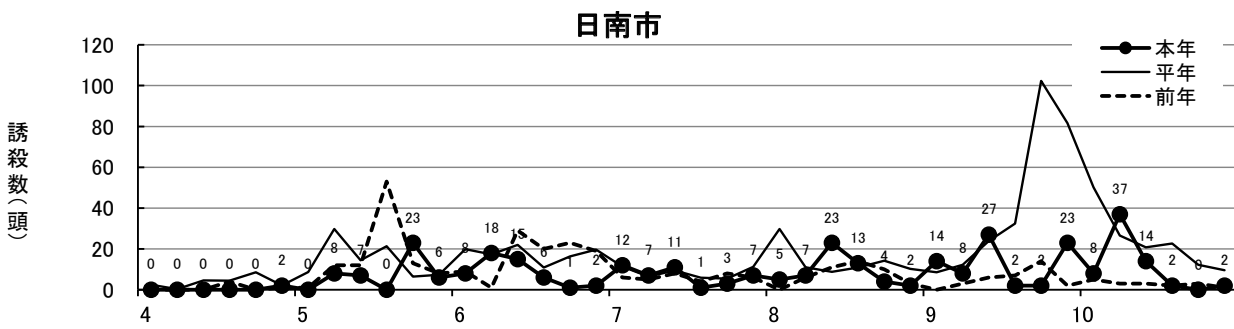
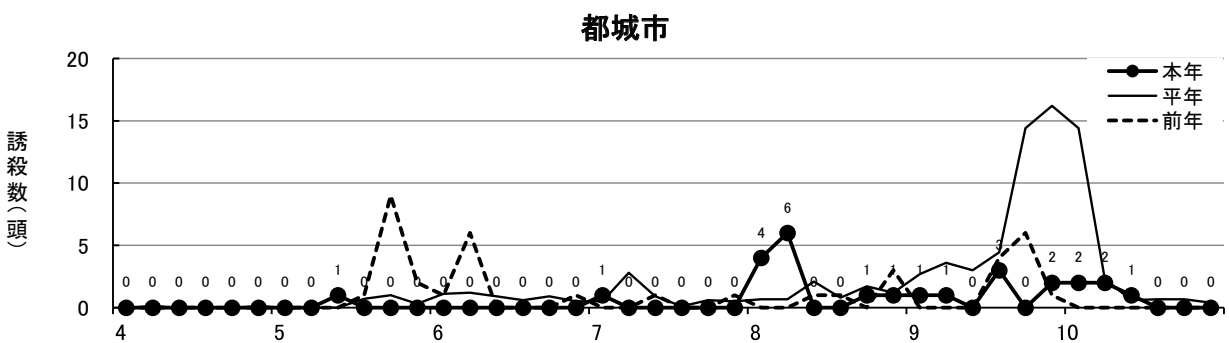
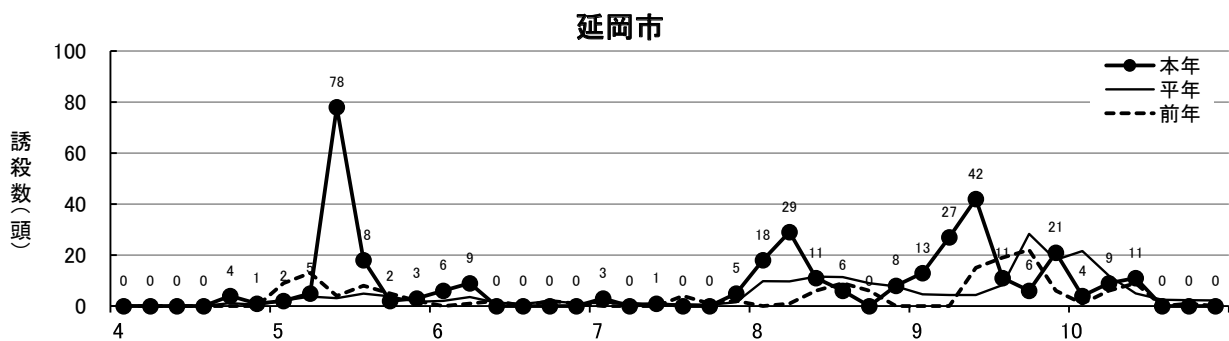
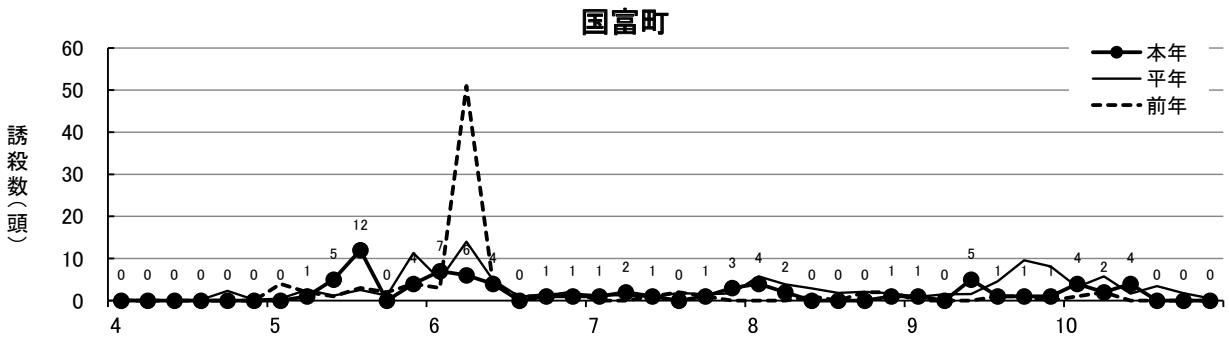
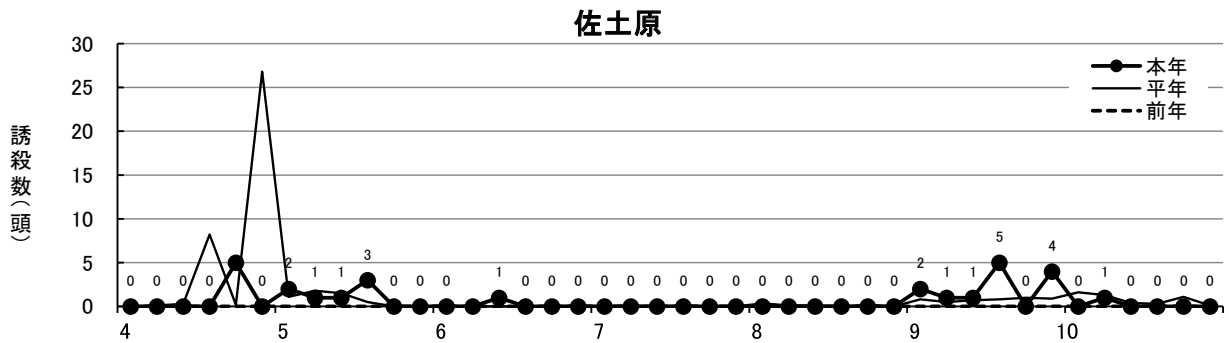
チャバネアオカメムシの予察灯における誘殺状況(2021年)

②ツヤアオカメムシの誘殺状況

(単位:頭)

月	半旬	佐土原			国 富			延 岡			都 城			日 南		
		本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年	平年	前年
4	1	0	0.0	0	0	0.3	0	0	0.3	0	0	0.0	0	0	2.5	0
	2	0	0.1	0	0	0.0	0	0	0.0	0	0	0.1	0	0	0.3	0
	3	0	0.3	0	0	0.0	0	0	0.1	0	0	0.0	0	0	4.6	0
	4	0	8.2	0	0	0.2	0	0	0.1	0	0	0.0	0	0	4.4	4
	5	5	0.2	0	0	2.3	0	4	1.1	0	0	0.0	0	0	8.6	0
	6	0	26.8	0	0	0.2	0	1	0.5	0	0	0.1	0	2	2.1	1
	計	5	35.6	0	0	3.0	0	5	2.1	0	0	0.2	0	2	22.5	5
5	1	2	1.1	0	0	0.5	4	2	2.1	9	0	0.0	0	0	8.7	1
	2	1	1.8	0	1	2.6	2	5	3.7	13	0	0.0	0	8	29.8	12
	3	1	1.5	0	5	1.2	1	78	3.1	4	1	0.0	0	7	14.4	12
	4	3	0.5	0	12	2.5	3	18	4.9	8	0	0.7	1	0	21.3	53
	5	0	0.0	0	0	1.2	2	2	3.8	5	0	1.0	9	23	6.4	13
	6	0	0.0	0	4	11.3	4	3	1.7	2	0	0.3	2	6	7.3	8
	計	7	4.9	0	22	19.3	16	108	19.3	41	1	2.0	12	44	87.9	99
6	1	0	0.1	0	7	5.0	3	6	2.0	0	0	1.1	1	8	19.9	9
	2	0	0.0	0	6	14.0	51	9	3.5	1	0	1.2	6	18	17.3	1
	3	1	0.0	0	4	4.9	4	0	1.3	2	0	0.9	0	15	22.0	29
	4	0	0.0	0	0	0.9	1	0	0.9	0	0	0.6	0	6	10.9	20
	5	0	0.0	0	1	1.6	1	0	1.9	2	0	0.9	0	1	16.3	23
	6	0	0.1	0	1	1.7	2	0	1.1	1	0	0.5	1	2	19.7	19
	計	1	0.2	0	19	28.0	62	15	10.7	6	0	5.2	8	50	106.1	101
7	1	0	0.0	0	1	1.2	0	3	1.2	0	1	0.5	0	12	11.3	6
	2	0	0.1	0	2	1.3	0	0	1.2	0	0	2.8	0	7	6.5	5
	3	0	0.0	0	1	0.8	1	1	0.7	0	0	0.9	1	11	9.4	8
	4	0	0.1	0	0	1.8	2	0	0.7	4	0	0.1	0	1	5.9	4
	5	0	0.0	0	1	1.5	1	0	0.5	1	0	0.6	0	3	5.5	8
	6	0	0.0	0	3	1.7	0	5	1.5	2	0	0.5	1	7	11.2	6
	計	0	0.2	0	8	8.3	4	9	5.8	7	1	5.4	2	41	49.8	37
8	1	0	0.3	0	4	5.8	0	18	9.8	0	4	0.7	0	5	29.8	0
	2	0	0.1	0	2	3.9	0	29	9.7	1	6	0.7	0	7	11.0	6
	3	0	0.1	0	0	2.9	1	11	11.5	6	0	2.1	1	23	8.8	11
	4	0	0.0	0	0	1.8	0	6	11.4	9	0	0.8	1	13	10.9	14
	5	0	0.2	0	0	2.1	2	0	9.0	6	1	1.7	0	4	14.2	10
	6	0	0.0	0	1	1.7	2	8	7.7	0	1	1.2	3	2	10.2	3
	計	0	0.7	0	7	18.2	5	72	59.0	22	12	7.1	5	54	84.9	44
9	1	2	0.8	0	—	0.9	0	—	4.6	0	—	2.7	0	14	8.5	0
	2	1	0.5	0	—	1.5	0	—	4.3	0	—	3.6	0	8	12.2	3
	3	1	0.7	0	5	1.6	0	42	4.3	15	0	3.0	0	27	23.9	6
	4	5	0.8	0	1	4.6	1	11	8.2	19	3	4.4	4	2	32.4	7
	5	0	1.0	0	1	9.6	1	6	28.3	22	0	14.4	6	2	102.3	14
	6	4	0.9	0	1	8.1	0	21	18.1	6	2	16.2	1	23	81.6	2
	計	13	4.7	0	8	26.2	2	80	67.9	62	5	44.3	11	76	260.9	32
10	1	0	1.6	0	4	3.2	1	4	21.6	1	2	14.4	0	8	50.2	5
	2	1	1.3	0	2	5.8	2	9	11.9	6	2	2.3	0	37	26.5	3
	3	0	0.4	0	4	1.7	0	11	5.0	9	1	0.6	0	14	20.8	3
	4	0	0.3	0	0	3.4	0	0	2.4	0	0	0.7	0	0	22.7	2
	5	0	1.1	0	0	1.8	0	0	2.3	1	0	0.7	0	0	12.2	3
	6	0	0.1	0	0	0.6	0	0	2.2	0	0	0.4	0	2	9.5	1
	計	1	4.8	0	10	16.4	3	24	45.5	17	5	19.0	0	61	141.9	17
合計		27	51.1	0	74	119.4	92	313	210.3	155	24	83.3	38	328	754.0	335

※「—」は欠測



ツヤアオカメムシの予察灯における誘殺状況(2021年)

(2) 合成集合フェロモンによる誘殺状況

① チャバネアオカメムシ

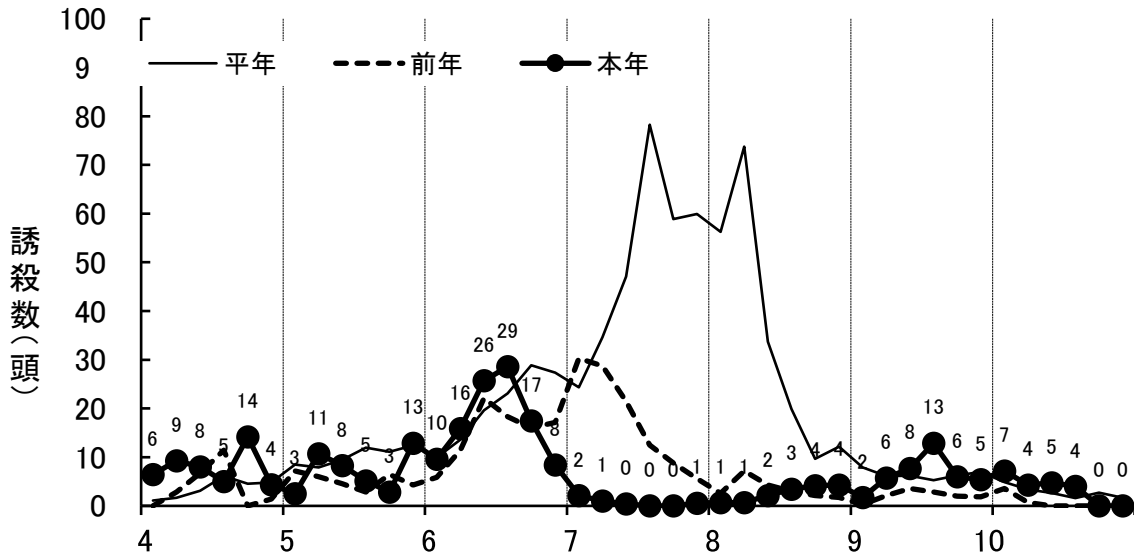
(単位:頭)

月	半月	延 岡			都 農			佐土原		
		本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年	平年	前年
4	1	6	1.1	0	2	2.1	0	0		0
	2	9	1.7	3	6	3.8	0	0		0
	3	8	3.1	7	5	3.5	2	0		0
	4	5	6.1	11	4	9.5	6	0		1
	5	14	4.5	0	3	11.2	9	4		0
	6	4	4.8	1	11	9.3	3	1		2
	計		47	21.3	22	30	39.4	20	5	
5	1	3	8.5	7	34	53.5	9	0		10
	2	11	7.9	6	9	63.0	4	13		3
	3	8	9.5	5	28	92.3	3	16		7
	4	5	11.9	3	26	42.8	3	13		15
	5	3	11.1	6	3	26.5	1	4		1
	6	13	12.4	4	14	35.7	1	2		4
	計		42	61.2	31	114	313.8	20	48	
6	1	10	9.9	6	7	37.8	2	4		5
	2	16	13.6	11	16	31.8	5	5		7
	3	26	19.6	22	31	32.6	9	6		5
	4	29	23.1	18	29	69.8	6	6		3
	5	17	28.9	16	14	125.9	7	4		2
	6	8	27.3	17	3	177.8	16	3		6
	計		106	122.4	91	101	475.7	46	29	
7	1	2	24.4	30	0	165.5	8	8		5
	2	1	34.6	29	1	193.7	12	4		4
	3	0	47.1	21	0	194.8	20	2		4
	4	0	78.2	13	0	157.5	13	1		7
	5	0	58.9	9	0	201.3	7	1		5
	6	1	59.9	6	0	203.3	5	4		4
	計		4	303.1	107	1	1116.1	65	20	
8	1	1	56.3	3	1	116.3	4	4		1
	2	1	73.8	7	3	86.3	4	1		1
	3	2	33.7	4	5	40.2	3	4		10
	4	3	19.9	3	7	25.5	2	2		9
	5	4	9.7	2	8	17.9	1	2		4
	6	4	12.1	2	8	11.6	0	8		1
	計		15	205.4	21	32	297.9	13	21	
9	1	—	7.9	0	—	8.7	0	—		0
	2	—	6.1	2	—	5.6	0	—		0
	3	8	6.2	4	3	6.5	1	1		1
	4	13	5.2	3	9	10.7	1	0		0
	5	6	6.3	2	25	14.0	2	1		1
	6	5	7.0	2	35	18.2	3	2		1
	計		32	38.6	13	72	63.6	7	4	
10	1	7	4.9	4	44	14.0	1	4		0
	2	4	3.3	1	17	10.7	0	1		0
	3		2.6			9.6				
	4		1.6			6.7				
	5		2.7			4.6				
	6		1.7			2.3				
	計		11	16.9	4	61	47.9	1	4	
合計		258	769.0	290	412	2354.5	172	131		128

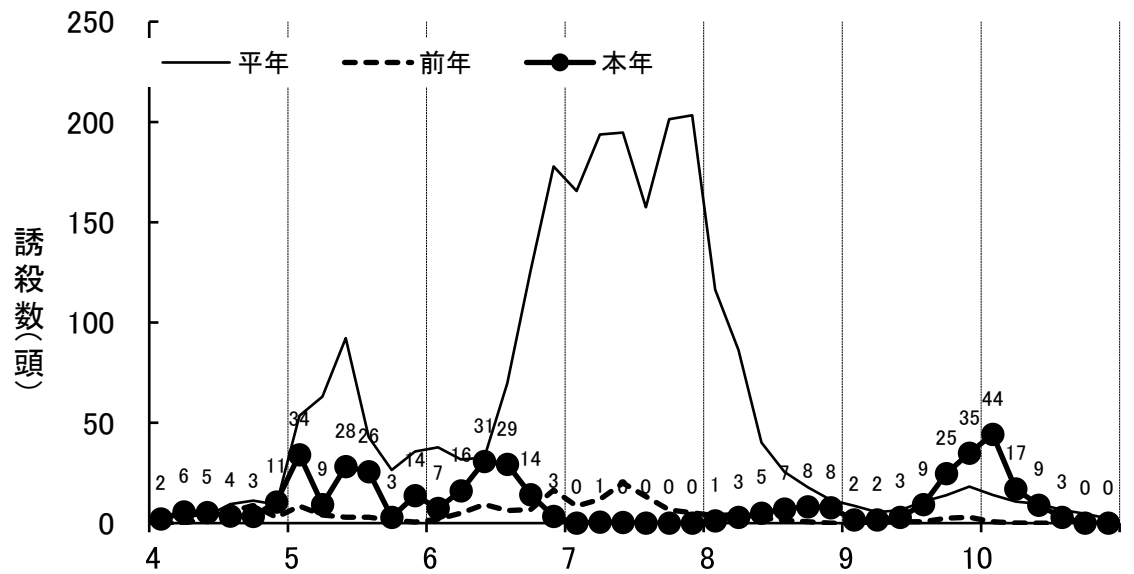
※「—」は欠測、本年、前年の数値は小数点以下を四捨五入しており、合計が合わないことがあります。

※佐土原はH28(2016)年から開始

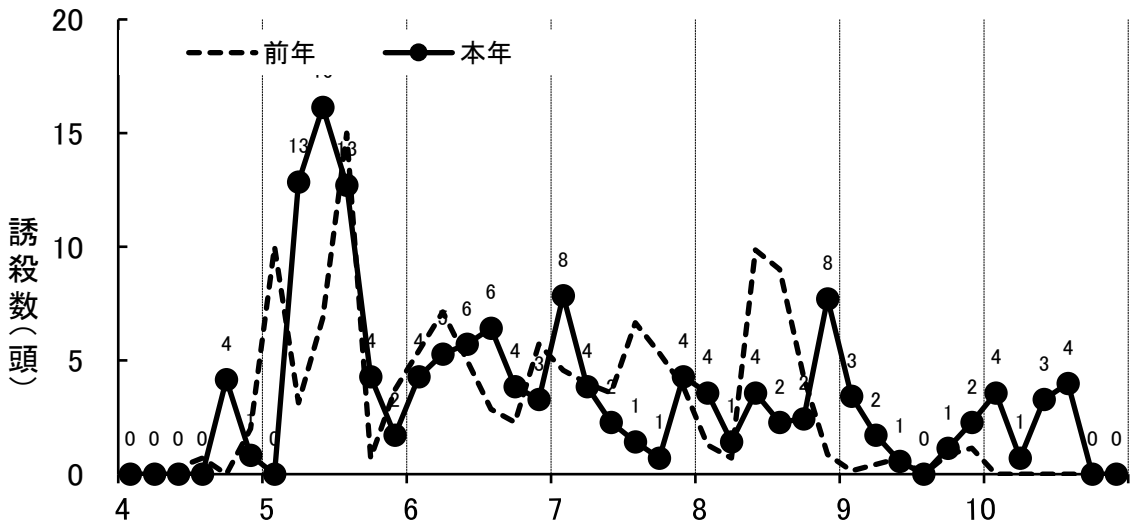
延岡市



都農町



佐土原



チャバネアオカメムシのフェロモンラップ誘殺状況(2021年)

② ツヤアオカメムシ

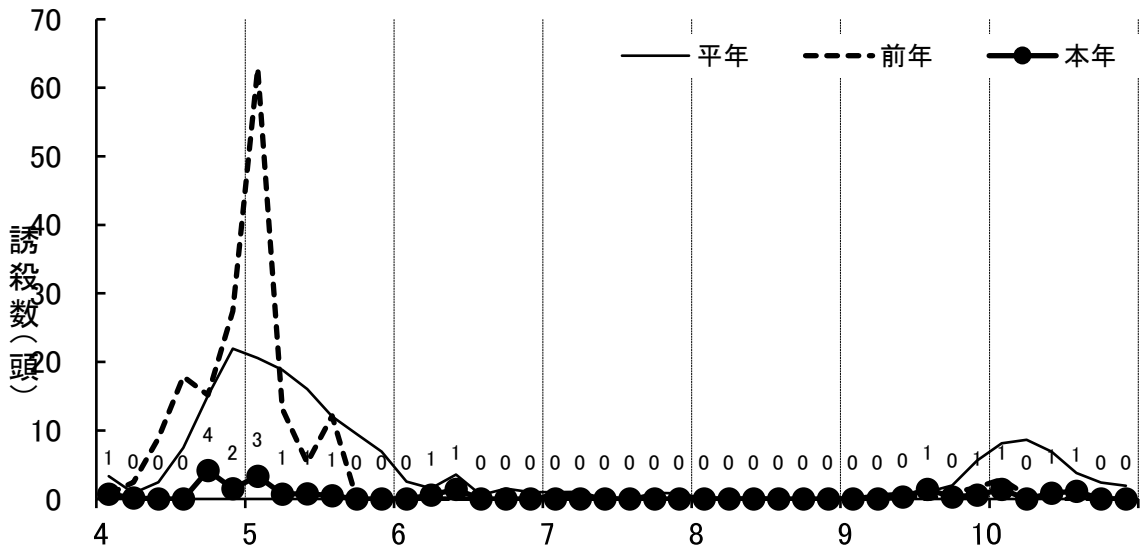
(単位:頭)

月	半旬	延 岡			都 農			佐土原		
		本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年	平年	前年
4	1	1	3.3	1	0	0.6	0	0		0
	2	0	0.8	2	2	0.6	0	0		0
	3	0	2.5	9	1	0.4	1	0		0
	4	0	7.5	18	0	0.6	2	0		1
	5	4	15.1	15	0	1.0	2	0		0
	6	2	21.9	27	3	11.5	2	0		1
	計	7	51.1	72	6	14.7	7	0		2
5	1	3	20.6	63	8	4.9	11	0		4
	2	1	18.8	13	6	3.5	3	1		1
	3	1	16.0	5	6	4.2	1	1		1
	4	1	12.0	12	5	2.2	1	1		1
	5	0	9.5	0	1	1.6	1	0		0
	6	0	6.9	0	0	2.3	1	0		0
	計	5	83.9	93	26	18.6	17	3		7
6	1	0	2.5	0	0	2.8	1	0		0
	2	1	1.6	0	0	1.3	0	0		0
	3	1	3.5	0	1	0.4	0	0		0
	4	0	0.6	0	0	0.3	0	0		0
	5	0	1.5	0	0	0.6	0	0		0
	6	0	1.0	0	0	1.1	0	0		0
	計	2	10.8	0	1	6.6	1	0		0
7	1	0	1.0	1	0	1.4	0	0		0
	2	0	1.1	0	0	1.1	0	0		0
	3	0	0.0	0	0	0.3	1	0		0
	4	0	0.0	0	0	0.1	0	0		1
	5	0	0.9	0	0	0.1	1	0		0
	6	0	0.8	0	0	0.3	0	0		0
	計	0	3.8	1	0	3.3	2	0		1
8	1	0	0.1	0	0	0.3	0	0		0
	2	0	0.0	0	0	0.0	0	0		0
	3	0	0.0	0	0	0.0	0	0		0
	4	0	0.2	0	0	0.0	0	0		0
	5	0	0.0	0	0	0.0	0	0		0
	6	0	0.1	0	0	0.0	0	0		0
	計	0	0.4	0	0	0.3	0	0		0
9	1	—	0.2	0	—	0.1	0	—		0
	2	—	0.4	0	—	0.2	0	—		0
	3	0	0.6	1	0	0.3	0	0		0
	4	1	1.0	0	1	2.0	3	0		0
	5	0	2.0	1	14	7.1	5	3		2
	6	1	5.6	2	16	29.4	10	2		3
	計	3	9.7	4	31	39.0	18	5		4
10	1	1	8.1	3	14	59.0	24	0		2
	2	0	8.6	1	36	47.6	5	0		0
	3		6.9			36.2				
	4		3.8			18.6				
	5		2.4			16.1				
	6		1.9			4.9				
	計	1	31.8	3	50	182.4	28	0		3
合計		18	191.4	174	114	264.9	73	8		17

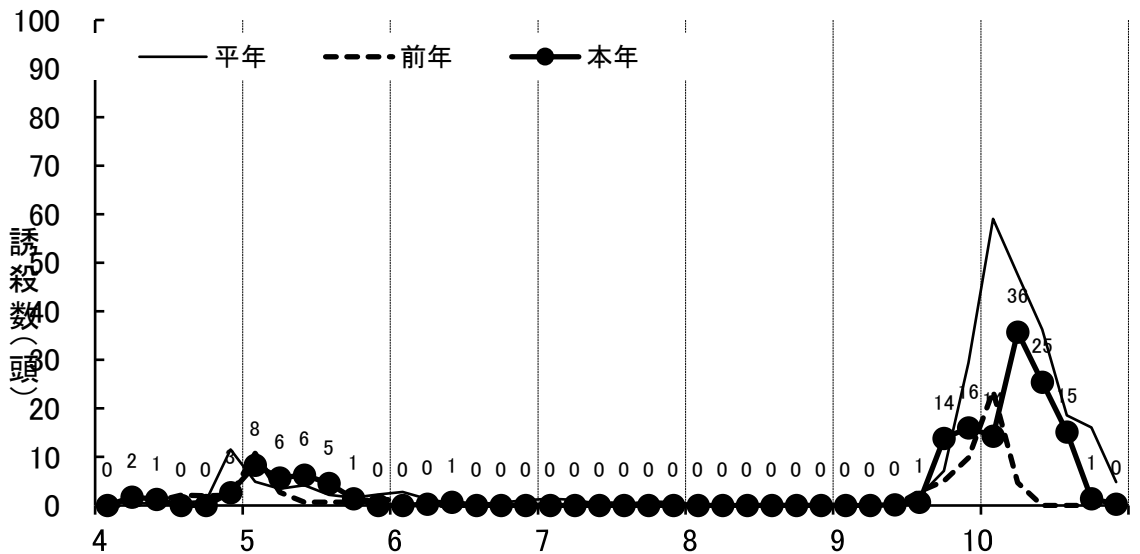
※「—」は欠測、数値は小数点以下を四捨五入しており、合計が合わないことがあります。

※佐土原はH28(2016)年から開始

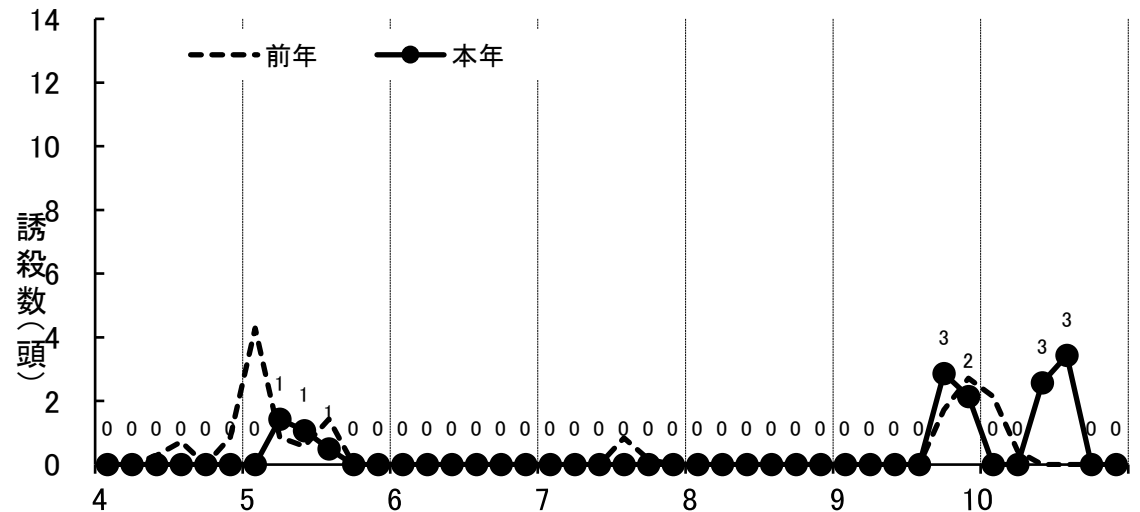
延岡市



都農町



佐土原



ツヤアオカメムシのフェロモントラップ誘殺状況(2021年)

7) 農作物有害動植物の発生及び防除状況

(1) 発生経過、発生原因及び防除の概要

農作物名	病害虫名	発生時期	発生量	発生面積 (ha)	発生経過の概要	発生要因の解析	防除の概要
早期水稲	葉いもち	平年: 遅い 前年: 並	平年: 並 前年: やや少	1,469ha	初確認は6月8日(平年:5月26日、前年6月9日)。6月下旬の発生面積率及び発生程度(発病度)はいずれも平年並の発生であった。	今年は、梅雨入りが平年より早く、6月以降いもち病に好適な気象条件が続く時期もあったが、防除時期に(6月下旬頃)に降雨が少なく、比較的適期防除が行われたとみられる。	育苗箱施薬、初発前の粒剤散布及び初発時の液剤散布。
	穂いもち	平年: 並 前年: 並	平年: 並 前年: 並	1,469ha	7月中旬の発生面積率、発生程度(発病度)はいずれも平年並の発生であった。		穂揃い期に防除。
	紋枯病	平年: 並 前年: 並	平年: 並 前年: 少	734ha	6月中旬から確認され、発生面積率及び発生程度(発病度)はいずれも調査期間を通して平年並で推移した。	上記と同じく、比較的適期防除が行われたものとみられる。	穂揃い期に防除。
	イネミズゾウムシ	平年: 並 前年: 並	平年: 並 前年: 並	2,944ha	5月の発生面積率は平年比少、発生程度(被害度、百株虫数)は平年並みであった。	-	育苗箱施薬、粒剤の水面施用。
	スクミリンゴガイ	平年: 並 前年: 並	平年: 並 前年: 少	1,287ha	4~5月の発生面積率は平年比やや少、発生程度(㎡当たり貝数)は平年並で推移した。	冬季に寒波の影響を断続的に受けたため、越冬生貝が近年に比べ減少したと推測される。	粒剤の水面施用。貝の採取・冬季の耕起及び石灰窒素の散布。
	カメムシ類	平年: 並 前年: 並	平年: やや少 前年: 少	1,833ha	6~7月の発生面積率及び発生程度(20回振り虫数)は平年並~やや少で推移した。	上記同様、越冬個体が近年に比べ減少したと推測される。また、6月下旬から7月上旬にかけて、比較的適期防除が行われたものとみられる。	穂揃い期とその7~10日後の2回防除を徹底。
普通期水稲	葉いもち	平年: 並 前年: 並	平年: 多 前年: 多	6,215ha	本田での発生は7月中旬から確認された。7月中旬までは平年並の発生で推移していたものの、7月下旬から発生が増加し、8月下旬の発生面積率は平年比多、発生程度(発病度)は平年比やや多の発生であった。	6月以降いもち病に好適な気象条件が続いていたことに加え、8月上旬~中旬にかけて降雨が続き、適期に防除ができなかったことが考えられる。また、今年は8月の気温が平年よりも低く推移し、あわせて降水量も多かったことから、いもち病に好適な条件が続き、上位葉・穂への進展が助長されたと推測される。	育苗箱施薬、初発前の粒剤散布及び初発時の粉剤・液剤散布。
	穂いもち	平年: 並 前年: 並	平年: やや多 前年: やや多	6,693ha	9月中旬の発生面積率は平年並み、発生程度(発病穂率)は平年比やや多の発生であった。		穂ばらみ期と穂揃い期に防除。
	紋枯病	平年: 並 前年: 並	平年: やや多 前年: やや多	4,780ha	8月中旬から確認され、9月中旬の発生面積率及び発生程度(発病度)はいずれも平年比やや多であった。	8月下旬~9月上旬に、気温が平年より高めで推移したことで発生が助長されたと推測される。	穂ばらみ期の防除。
	もみ枯細菌病	平年: - 前年: -	平年: やや少 前年: 並	516ha	10月中旬に発生が確認され、発生面積及び発生程度(発病穂率)はいずれも平年並であった。	-	出穂直前~出穂期の防除。
	内穎褐変病	平年: 並 前年: 並	平年: 少 前年: 並	478ha	9月中旬から確認され、9月中旬の発生面積率は平年比やや少、発生程度(発病穂率)は平年比少であった。	-	-

農作物名	病害虫名	発生時期	発生量	発生面積 (ha)	発生経過の概要	発生要因の解析	防除の概要
普通期水稻 (続き)	セジロウンカ	平年:早い 前年:並	平年:やや少 前年:やや少	7,140ha	予察灯への初飛来確認は5月19日(平年6月7日、前年5月18日)であった。 普通期本田では7月中旬から確認され、8月下旬まで平年より少ない発生で推移し、9月中旬は平年並の発生であった。	予察灯での初飛来確認以降、数頭レベルで断続的に誘殺が確認され、9月に入り数百頭の誘殺を確認した予察灯もあったが、総じてみると今年の誘殺数は平年よりやや少なく推移した。	育苗箱施薬。飛来虫と次世代幼虫の防除。出穂期のウンカ類防除。
	トビイロウンカ	平年:早い 前年:早い	平年:少 前年:少	0ha	予察灯への初飛来確認は、5月12日(平年6月26日、前年6月27日)であった。 普通期本田では、防除センターが実施する調査においては発生未確認であったが、普及センターが実施する調査では極一部のほ場で数頭が確認された。	初飛来は平年より早かったものの、その後の誘殺は平年より少なかった。	育苗箱施薬。飛来虫と次世代幼虫の防除。出穂期のウンカ類防除。
	ヒメトビウンカ	平年:並 前年:並	平年:並 前年:並	9,321ha	7月中旬から確認され、7~9月の発生面積率及び発生程度(20回振り虫数)はいずれも平年並~少で推移した。	—	育苗箱施薬。出穂期のウンカ類防除。
	ツマグロヨコバイ	平年:並 前年:並	平年:やや少 前年:並	5,020ha	6月中旬から確認され、6~9月の発生面積率及び発生程度(20回振り虫数)はいずれも平年並~少で推移した。	—	育苗箱施薬。
	コブノメイガ	平年:遅い 前年:遅い	平年:やや少 前年:少	1,912ha	フェロモントラップでの初誘殺は、7月15日(平年6月24日、前年6月11日)であった。 普通期本田では7月下旬から被害が確認され、8月下旬までは平年並~やや少の発生であったが、9月中旬に一部で被害がやや目立った。	フェロモントラップでの初誘殺は平年より遅く、一部地域で8月中旬以降平年よりやや多い誘殺が確認されたものの、総じてみると平年より誘殺数は少なかった。	育苗箱施薬。発蛾最盛期の粒剤防除及びウンカ類との同時防除の粉剤・液剤防除。
	イネミズウムシ	平年:並 前年:並	平年:やや多 前年:やや多	1,499ha	6月中旬の発生面積率は平年比やや多、発生程度(被害度)は平年比多であった。	—	育苗箱施薬、粒剤の水面施用。
	スクミリンゴガイ	平年:並 前年:並	平年:並 前年:やや少	1,499ha	6月中旬の発生面積率は平年比やや少、発生程度(m ² 当貝数)は平年並の発生であった。	—	粒剤の水面施用。貝の採取・冬季の耕起
	カメムシ類	平年:並 前年:並	平年:やや少 前年:やや少	4,063ha	8月中旬は平年比やや多の発生であったが、8月下旬以降平年並~少で推移した。	出穂期、穂ぞろい期防除の徹底。	穂揃い期とその7~10日後の防除。
ダイズ	べと病	平年:並 前年:並	平年:やや多 前年:やや多	187ha	9~10月の発生面積率は平年並、発生程度(発病度)は平年比やや多~並で推移した。	—	種子消毒の徹底。
	葉焼病	平年:— 前年:—	平年:— 前年:—	0ha	発生未確認。	—	種子消毒の徹底。
	ハスモントウ	平年:並 前年:並	平年:並 前年:やや多	186ha	8~10月の発生面積率と発生程度(食害度)はいずれも平年並~やや少で推移した。	—	若齢期の防除。
	カメムシ類	平年:並 前年:並	平年:やや多 前年:やや多	93ha	9月中旬から発生が見られ、9月中旬は平年比やや多の発生であったが、その後は平年並に落ち着いた。	—	さやの肥大期の防除。

農作物名	病害虫名	発生時期	発生量	発生面積 (ha)	発生経過の概要	発生要因の解析	防除の概要
サツマイモ	イモキハガ	平年:並 前年:並	平年:並 前年:並	1,007ha	8~9月の発生面積率と発生程度(被害葉率)は、いずれも平年並~やや少で推移した。	-	被害初期の防除。
	ナカシロシタハ	平年:並 前年:並	平年:並 前年:並	2,768ha	8~9月の発生面積率と発生程度(被害葉率)はいずれも平年並~やや少で推移した。	-	つる先の1~3葉に食害痕が見られる被害初期の防除。
	ハスモンヨトウ	平年:並 前年:並	平年:やや多 前年:やや多	2,768ha	8~9月の発生面積率と発生程度(被害葉率)はいずれも平年並~やや少で推移したものの、一部地域で甚発生ほ場が確認された。	-	他の害虫との同時防除。
ジャガイモ	疫病	平年:- 前年:-	平年:並 前年:並	0ha	発生未確認。	-	種芋の更新。初発前の予防防除。
	アブラムシ類	平年:並 前年:並	平年:並 前年:並	121ha	4月中旬の発生面積率は平年並、発生程度(寄生度)は平年比やや少の発生であった。	-	初発時の防除。
	ニジュウヤホシテントウ	平年:並 前年:並	平年:やや多 前年:やや多	81ha	4月中旬は平年より多い発生であったものの、5月中旬は平年並に落ち着いた。	-	幼虫分散前の防除。
	ハスモンヨトウ	平年:- 前年:-	平年:並 前年:並	0ha	発生未確認。	-	若齢期の防除。
カンキツ	そうか病	平年:早い 前年:並	平年:並 前年:少	66ha	葉、果実ともに平年並みの発生であった。 初発は、葉で4月8日(平年比-20日)、果実で7月13日(平年比+38日)であった。	適期防除と病葉除去の不徹底	春梢発芽期、落弁期、幼果期の農薬防除。
	黒点病	平年:遅い 前年:並	平年:並 前年:多	659ha	平年比やや少~並で推移した(9月中旬の果実における発生ほ場率55%、平均発病度5.9)。 初発は、葉では6月11日(平年比+25日)、果実で7月13日(平年比+17日)であった。	初発が遅く、梅雨期以降の降水量は、8月が多く、防除適期を逃したが、各月とも平年並~やや少であった。	落花期以降の定期的な防除。 枯れ枝の除去。剪定くずの適切な処理。
	かいよう病	平年:早い 前年:早い	平年:やや多 前年:やや多	263ha	葉は5・7月が平年比多、その他は平年比やや少~並で推移した。果実は平年並~多の発生で推移した。 (果実における8月の発生ほ場率は16.7%、発病度は0.2) 初発は、葉で4月9日(平年比-47日)、果実で7月9日(平年比+14日)であった。	新梢の剪定が不徹底の園地で発生が多かった。ミカンハモグリガは平年並の発生であった。	発芽直前、開花直前、落花期の防除。 強風対策として防風垣、防風ネットを設置する。
	ミカンハダニ	平年:並 前年:並	平年:やや少 前年:並	329ha	越冬時期の生息密度は平年比やや少で、発生面積及び発生程度は、平年比やや少~並で推移した。 9月の発生ほ場率は28%、寄生葉率は5.8%。	7・8月の多雨 適期防除の徹底 夏期マシン油の散布徹底	発生初期の防除徹底。 同一系統薬剤の運用を避ける。 冬季、夏期にマシン油乳剤を利用する。
	チャノキイロアザミウマ	平年:遅い 前年:並	平年:並 前年:並	0ha	6~9月の巡回調査において、発生は認められなかった。	適期防除の徹底	落花期から9月までの防除。
	ミカンハモグリガ	平年:遅い 前年:遅い	平年:並 前年:やや少	132ha	6月から発生が確認されたが、発生量は平年比少~並で推移した。 6月の発生ほ場率11%、寄生葉率0.4%。	適期防除の不徹底	適期防除の徹底 新梢をだたらと発生させないような肥培管理
	アブラムシ類	平年:並 前年:並	平年:多 前年:やや多	199ha	5・6月に発生が確認された。6月の発生は多で発生ほ場率17%、寄生新梢率1%であった。	5~6月が高温で推移し、降水量は平年並であった。	新梢伸長期における薬剤防除

農作物名	病害虫名	発生時期	発生量	発生面積 (ha)	発生経過の概要	発生要因の解析	防除の概要
カンキツ (続き)	カメムシ類	平年:並 前年:並	平年:やや少 前年:並	387ha	予察灯調査では、ツヤアオカメムシは4月中旬、チャバネアオカメムシは4月上旬から誘殺され、ツヤアオカメムシが5月中旬と9月中旬、チャバネアオカメムシが8月下旬～9月上旬に誘殺ピークがみられた。フェロモントラップ調査では、ツヤアオカメムシが5月上旬と10月上旬、チャバネアオカメムシが6月中旬と10月上旬にピークがみられた。月別誘殺数は、両種とも平年並かそれ以下で推移した。果樹園への飛来は早い地域で8月上旬確認された。	ヒノキ毬果の量は平年より多い傾向。	園内の発生状況の把握に努め、飛来を確認したら直ちに防除を行う。
チャ	炭疽病	平年:遅い 前年:遅い	平年:やや多 前年:やや多	749ha	6月から発生量が増加し9月(発生ほ場率56%)はやや多であったが、それ以外は平年比やや少～並で推移した。	5月中旬以、降雨が続いたり曇りの日が多かった。	二番茶・秋芽生育期の防除
	もち病	平年:並 前年:並	平年:並 前年:並	166ha	山間部の一部ほ場で5～9月に発生が確認されたが(発生ほ場率13%)、発生量は平年並であった。	7月の降水量は平年より多かったが、日照時間平年並みであった。	二番茶・秋芽の萌芽期から二・三葉期に、炭疽病との同時防除
	輪斑病	平年:並 前年:並	平年:やや多 前年:やや多	333ha	5月から発生が確認され、9月がやや多であった(発生ほ場率25%)、発生量は平年並～やや多で推移した。	5月中旬以、降雨が続いたり曇りの日が多かった。	摘採直後(3日以内)の防除 摘採機の洗浄
	チャノコカクモンハマキ	平年:遅い 前年:—	平年:やや多 前年:やや多	84ha	今年度は9月の巡回調査で発生が初確認され、発生量は平年比やや多となった(発生ほ場率6%)。	適期防除の実施 近年の発生は減少傾向にある	成虫発生最盛期の10～14日後が防除適期 チャハマキとの同時防除
	チャハマキ	平年:— 前年:—	平年:並 前年:やや少	0ha	巡回調査では、発生が確認されなかった。	適期防除の実施	チャノコカクモンハマキとの同時防除
	チャノホソガ	平年:やや早い 前年:やや早い	平年:並 前年:並	753ha	5月から発生から確認され、8月に発生ピーク(発生ほ場率53%)となったが、発生量は平年並～やや少で推移した。	適期防除の実施	三角葉巻前の防除となるよう、成虫の発生最盛期の約10日後に防除する。 ただし、遅効性の脱皮阻害剤は成虫発生最盛期の5日後の産卵期に散布する。
	カンザワハダニ	平年:並 前年:並	平年:並 前年:やや少	614ha	越冬後の寄生密度は平年並であった。その後、9月までの発生量は平年比少～並で推移した。	9月までは発生ピークは見られなかった。、一般的には有効薬剤の散布により発生が抑えられた。	産卵開始期(2月下旬～3月上旬)及び越冬前(10月中～下旬)の薬剤防除 同一系統薬剤の連用を避ける
	チャノミドリヒメヨコバイ	平年:並 前年:並	平年:多 前年:並	626ha	5・6月の発生は平年比多(発生ほ場率47%)で推移したが、その後は平年比やや少～並で推移した。	5～6月は発生が多くなったが、その後は適期防除により平年並以下の発生に抑えられた。	二番茶・三番茶開花期と秋芽の防除。 チャノキイロアザミウマとの同時防除。
	チャノキイロアザミウマ	平年:並 前年:並	平年:やや少 前年:やや多	548ha	期間を通して平年比少～並で推移した。発生量のピークは6月で発生面積率41%であった。	6月にピークはあったが、その後は適期防除により平年並以下の発生に抑えられた。	二番茶・三番茶開花期と秋芽の防除。 チャノミドリヒメヨコバイとの同時防除。
	クワシロカイガラムシ	平年:並 前年:並	平年:並 前年:並	391ha	6月に発生が増加したが(発生ほ場率29%)、全体的には平年並の発生で推移した。ほ場間差が大きく、県南ほ場で甚発生ほ場もみられた。	適期防除を逸した一部ほ場で多発したものの、一般的には有効薬剤による適期防除により平年並の発生に抑えた。	孵化最盛期に合わせた防除 中切り後の防除の徹底

農作物名	病害虫名	発生時期	発生量	発生面積 (ha)	発生経過の概要	発生要因の解析	防除の概要
令和3年産 冬春キュウリ R2.9～R3.6 (栽培期間)	べと病	平年:並 前年:やや早い	平年:やや多 前年:やや多	202ha	10月の調査開始時より発生が確認され、その後発生を抑えることができないまま、通年発生が確認された。発生面積率、程度ともに増加し続け、4月の発生面積率は100%となった。	肥培管理及び湿度管理の不徹底 発生初期防除の不徹底 草勢管理	薬剤による防除
	灰色かび病	平年:— 前年:—	平年:並 前年:並	0ha	栽培期間を通して発生は見られなかった。	初期防除の徹底 罹病残渣の早期除去	薬剤による防除 罹病果の持ち出し
	うどんこ病	平年:やや遅い 前年:並	平年:やや多 前年:少	49ha	定植直後の10月に微発生を確認し、11月、12月は平年比多の発生となった。その後は、薬剤散布による防除や、発生ほ場の栽培終了時期に伴って県内の発生量も減少した。	肥培管理及び湿度管理の不徹底 発生初期防除の不徹底 草勢管理	薬剤による防除
	褐斑病	平年:— 前年:—	平年:少 前年:少	0ha	栽培期間を通して発生は見られなかった。	初期防除の徹底	初期防除の徹底 薬剤による防除
	ミナミキイロアザミウマ	平年:やや遅い 前年:並	平年:やや少 前年:少	41ha	黄化えそ病等ウイルス病の媒介虫対策として、定植時の粒剤施用等が徹底されてきたことから、栽培期間を通して、概ね平年並以下の発生で推移した。	定植時～定植初期の薬剤防除の不徹底 薬剤感受性の低下	定植時の粒剤施用 薬剤のローテーション散布 防虫ネットの設置
	ハスモンヨトウ	平年:遅い 前年:並	平年:やや多 前年:並	6ha	期間中その他の月で発生は確認されなかったものの、4月に一部のほ場で平年比多の発生を確認した。	施設開放時の侵入防止対策等の不備	防虫ネットの設置 若齢期防除の実施
令和3年産 冬春ピーマン R2.9～R3.6 (栽培期間)	モザイク病	平年:— 前年:—	平年:並 前年:並	0ha	栽培期間を通して発生は見られなかった。	早期抜根等の実施	土壌消毒の実施 抵抗性品種の導入 媒介昆虫の防除
	斑点病	平年:やや遅い 前年:やや早い	平年:やや少 前年:多	77ha	12月に発生面積率が増加し、平年比多となった。1月の調査時にはやや発生が減少していたものの、4月まで発生が続いた。発生程度は平年並程度であったが、県内全域で発生が見られた。	施設内の湿度管理 初期防除の不徹底	薬剤による防除 施設内湿度の適正管理 罹病葉の持ち出し
	うどんこ病	平年:やや早い 前年:やや早い	平年:並 前年:多	70ha	例年発生が少ない10月から発生が確認され、平年比多となった。その後は平年並の発生量で推移したが、3月に発生が増加し、発生量が平年比多となった。	初期防除の不徹底	薬剤による防除 注意報第9号(R2.12.24)発表
	灰色かび病	平年:— 前年:—	平年:並 前年:並	0ha	栽培期間を通して発生は見られなかった。	初期防除の徹底 罹病果の早期除去	薬剤による防除
	ミナミキイロアザミウマ	平年:やや遅い 前年:並	平年:少 前年:並	7ha	栽培期間を通して、発生が抑えられ、発生量は平年比やや少以下で推移した。	初期防除の徹底 効果の高い化学薬剤の散布 天敵利用	防虫ネットの設置 薬剤による防除 生物農薬等の活用
	ヒラズハナアザミウマ	平年:並 前年:並	平年:やや多 前年:やや少	143ha	定植直後より発生し、10月は平年並の発生であったが、11月以降平年比やや多から多の発生で推移した。3月～4月の発生量は、前年に比べて急激な増加はみられなかった。	薬剤感受性の低下 発生初期の対応の遅れ 天敵スワルスキーカブリダニ利用時に有効な殺虫剤の使用が制限される。	防虫ネットの設置 注意報第8号(R2.12.24)発表 防除情報第7号(R2.10.2)発表
令和3年産 冬春トマト R2.9～R3.6 (栽培期間)	灰色かび病 (10～1月葉、2～4月果実)	平年:遅い 前年:—	平年:並 前年:やや多	6ha	3月以降、果実への発生が確認され、4月の発生は平年比やや多となった。	施設内管理の徹底 草勢管理の徹底	薬剤による防除

農作物名	病害虫名	発生時期	発生量	発生面積 (ha)	発生経過の概要	発生要因の解析	防除の概要
冬春トマト (続き)	葉かび病	平年:遅い 前年:並	平年:やや少 前年:やや少	13ha	前年同様、1月に初めて発生が確認され、栽培期間を通して平年並以下の発生となった。	施設内の湿度管理 初期防除の徹底	薬剤による防除 抵抗性品種の導入 罹病葉の持ち出し
	黄化葉巻病	平年:— 前年:—	平年:並 前年:少	0ha	栽培期間を通して発生は見られなかった。	タバコナジラミ類防除の徹底 罹病株除去の徹底	媒介昆虫の防除 罹病株の除去及び適正処分
	タバコナジラミ	平年:並 前年:並	平年:やや多 前年:やや少	56ha	定植直後から発生がみられ、12月に平年比やや多の発生を確認し、その後増加傾向となった。3月、4月に急激に増加し、平年比多の発生となった。	育苗～定植初期における防除の不徹底 進入防止対策の不備	防虫ネットの設置 薬剤による防除 薬剤のローテーション散布
	ハモグリバエ類	平年:— 前年:—	平年:並 前年:並	0ha	栽培期間を通して発生は確認されなかった。	効果の高い化学薬剤の散布	初期防除の徹底 薬剤による防除
令和3年産 冬春イチゴ R2.9～R3.5 (栽培期間)	うどんこ病	平年:並 前年:並	平年:やや少 前年:やや多	8ha	定植直後から葉での発生がみられ、1月以降果実での発生も確認されたが、栽培期間を通して平年並以下の発生であった。	夏季の高温による越冬量の減少 親株床での防除の徹底 初期防除の徹底	薬剤による防除 初期防除の徹底 古葉、罹病葉の持ち出し
	灰色かび病	平年:— 前年:—	平年:並 前年:やや少	0ha	栽培期間を通して発生は確認されなかった。	初期防除の徹底 罹病残渣の早期除去	薬剤による防除 罹病果の持ち出し
	炭疽病	平年:やや遅い 前年:やや遅い	平年:やや少 前年:やや少	2ha	11月に平年比やや多の発生となり、1月以降発生は確認されなかった。	育苗期間の防除の徹底 健全株の選抜 育苗期間中の降水量が少なかった	健全苗の選抜の徹底 罹病株及び周辺株の除去
	ハダニ類	平年:並 前年:やや早い	平年:並 前年:やや少	20ha	親株での発生量は平年比少であった。本ほでの発生量は、1月にやや増加したものの栽培期間を通して平年並以下であった。	効果の高い薬剤が少ない	薬剤による防除 早期発見によるスポット防除
	ハスモンヨトウ	平年:並 前年:並	平年:並 前年:並	8ha	期間中、減少傾向が続いたが、例年発生が急激に少なくなる12月にも発生ほ場が確認され、平年比多となった。その後は平年並の発生を確認した。	侵入防止対策の不備 初期防除の不徹底	薬剤による防除 防虫ネットの設置
	ヒラズハナアザミウマ	平年:遅い 前年:遅い	平年:やや多 前年:多	7ha	1月まで発生未確認であったが、2月に急激な発生の増加が確認され、平年比やや多の発生となった。発生ほ場では、その後も発生量の増加が見られた。	初期防除の不徹底 ミツバチ導入期間において殺虫剤の使用が困難	薬剤による防除
令和3年産 秋冬ダイコン R2.9～R2.12 (栽培期間)	萎黄病	平年:— 前年:—	平年:並 前年:少	0ha	栽培期間を通して発生は確認されなかった。	—	高温期の播種を避ける 連作を避ける
	軟腐病	平年:並 前年:並	平年:並 前年:やや多	199ha	栽培期間を通して平年並の発生であった。	初期防除の不徹底 発病株の放置	排水を良くする

農作物名	病害虫名	発生時期	発生量	発生面積 (ha)	発生経過の概要	発生要因の解析	防除の概要
秋冬ダイコン (続き)	コナガ	平年:並 前年:並	平年:並 前年:やや少	100ha	栽培期間を通して平年並の発生であった。	初期防除の不徹底 薬剤感受性の低下	薬剤による防除
	ダイコンサルハムシ	平年:並 前年:並	平年:多 前年:多	299ha	10月の発生量は平年比多となった。その後は適切な防除がなされ、翌月の発生量は平年比少であった。	初期防除の不徹底	薬剤による防除

(2) 発生面積及び防除面積等

農作物名	作付面積 (ha)	病害虫名	程度別発生面積 (ha)				計	防除面積 (ha)		被害面積 (ha)	平年発生 面積(ha)	備考	
			甚	多	中	少		実	延				
早期水稲	6,070	苗立枯病	0	0	0	0	0	(同) 6,009	(同) 6,009	0	0		
		苗いもち	0	0	0	0	0	(同) 5,584	(同) 5,584	0	-		
		葉いもち	0	0	182	1,287	1,469	(同) 5,584	(同) 11,169	182	2,561		
		穂いもち	0	0	0	1,469	1,469	(同) 5,584	(同) 11,169	0	2,112		
		紋枯病	0	0	0	734	734	(同) 2,732	(同) 2,732	0	2,327		
		白葉枯病	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		ばか苗病	0	0	0	0	0	(同) 5,463	(同) 5,463	0	0		
		心枯線虫病	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-	
		〃 (種)	0	0	0	0	0	(同) 6,009	(同) 6,009	0	-		
		ごま葉枯病	0	0	0	1,287	1,287	0	0	0	0	406	
		黄化萎縮病	0	0	0	0	0	0	0	6,079	0	0	
		縞葉枯病	0	0	0	0	0	0	486	0	0	0	
		黒すじ萎縮病	0	0	0	0	0	0	-	-	0	0	
		萎縮病	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		黄萎病	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		もみ枯細菌病	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1,875	
		〃 (種)	0	0	0	0	0	0	(同) 6,009	(同) 6,009	0	-	
		内穎褐変病	0	0	0	0	0	0	-	-	0	3,503	
		稲こうじ病	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		ニカメイチュウ第1世代	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-	
		ニカメイチュウ第2世代	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-	
		セジロウンカ	0	0	0	5,147	5,147	(同) 486	(同) 486	0	3,583		
トビイロウンカ	0	0	0	0	0	(同) 486	(同) 486	0	119				
ヒメトビウンカ	370	1,469	1,105	2,574	5,518	(同) 486	(同) 486	2,944	6,068				
ツマグロヨコバイ	0	0	0	2,944	2,944	(同) 486	(同) 486	0	4,634				
イネハモクリハエ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-			

農作物名	作付面積 (ha)	病害虫名	程度別発生面積 (ha)				計	防除面積 (ha)		被害面積 (ha)	平年発生面積(ha)	備考
			甚	多	中	少		実	延			
早期水稲		イネヒメハモク ^リ ハ ^エ	0	0	0	0	0	0	0	0	-	
		イネカラバエ	0	0	0	4,487	4,487	0	0	0	0	
		イネドロオイムシ	0	0	0	0	0	(同) 1,032	(同) 1,032	0	-	
		イネゾウムシ	0	0	0	0	0	(同) 1,032	(同) 1,032	0	525	
		イネクロカメムシ	0	0	996	4,981	5,977	#DIV/0!	(同) #DIV/0!	996	0	
		斑点米カメムシ類	0	182	182	1,469	1,833	(同) 1,032	(同) 3,642	364	3,167	
		イネツトムシ	0	0	0	0	0	0	0	0	-	
		フタオビコヤガ	0	0	0	0	0	0	0	0	-	
		イネヨトウ	0	0	0	0	0	0	0	0	-	
		アワヨトウ	0	0	0	0	0	0	0	0	-	
		コブノメイガ	0	0	0	0	0	0	0	0	909	
		イネミズゾウムシ	0	0	0	2,944	2,944	(同) 1,032	(同) 1,032	0	2,944	
	スクミリンゴガイ	0	0	370	1,287	1,657	(同) 486	(同) 486	370	1,657		
普通期水稲	9,800	苗立枯病	0	0	0	0	0	(同) 9,702	(同) 9,702	0	-	
		苗いもち	0	0	0	0	0	(同) 9,016	(同) 9,702	0	-	
		葉いもち	0	0	1,195	5,020	6,215	(同) 9,016	(同) 18,032	1,195	5,563	
		穂いもち	0	0	717	5,976	6,693	(同) 9,016	(同) 18,032	717	6,821	
		紋枯病	0	0	478	4,302	4,780	(同) 6,860	(同) 6,860	478	4,669	
		白葉枯病	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		ばか苗病	0	0	0	0	0	(同) 8,820	(同) 8,820	0	-	
		心枯線虫病	0	0	0	0	0	0	0	0	-	
		“(種)	0	0	0	0	0	(同) 9,702	(同) 9,702	0	-	
		ごま葉枯病	0	0	1,195	3,346	4,541	(同) 0	(同) 0	1,195	3,416	
		黄化萎縮病	0	0	0	0	0	0	0	0	-	
		縞葉枯病	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		黒すじ萎縮病	0	0	0	0	0	-	-	0	0	
		萎縮病	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
黄萎病	0	0	0	0	0	0	0	0	0			

農作物名	作付面積 (ha)	病害虫名	程度別発生面積 (ha)				計	防除面積 (ha)		被害面積 (ha)	平年発生 面積(ha)	備 考
			甚	多	中	少		実	延			
普通期水稻		もみ枯細菌病	0	0	0	516	516	(同) 0	(同) 0	0	3,058	
		〃 (種)	0	0	0	0	0	(同) 9,702	(同) 9,702	0	-	
		内穎褐変病	0	0	0	478	478	0	0	0	5,749	
		稲こうじ病	239	717	956	478	2,390	(同) 6,860	(同) 6,860	1,912	2,228	
		ニカメイチュウ第1世代	0	0	0	0	0	(同) 4,802	(同) 4,802	0	-	
		ニカメイチュウ第2世代	0	0	0	0	0	(同) 0	(同) 0	0	-	
		セジロウンカ	0	0	0	7,410	7,410	(同) 9,702	(同) 19,208	0	9,215	
		トビイロウンカ	0	0	0	0	0	(同) 9,702	(同) 19,208	0	7,446	
		ヒメトビウンカ	0	956	3,824	4,541	9,321	(同) 9,702	(同) 19,208	4,780	9,720	
		ツマグロヨコバイ	0	0	0	5,020	5,020	(同) 9,702	(同) 19,208	0	7,880	
		イネハモク`リハ`エ	0	0	0	0	0	0	0	0	-	
		イネヒメハモク`リハ`エ	0	0	0	0	0	0	0	0	-	
		イネカラバエ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		イネドロオイムシ	0	0	0	0	0	(同) 1,666	(同) 1,666	0	-	
		イネゾウムシ	0	0	0	0	0	(同) 1,666	(同) 1,666	0	-	
		イネクロカメムシ	0	0	0	0	0	(同) #DIV/0!	(同) #DIV/0!	0	0	
		斑点米カメムシ類	0	239	956	2,868	4,063	(同) 4,998	(同) 5,880	1,195	5,082	
		イネツトムシ	0	0	0	0	0	0	0	0	-	
		フタオビコヤガ	0	0	0	0	0	0	0	0	-	
		イネヨトウ	0	0	0	0	0	0	0	0	-	
	アワヨトウ	0	0	0	0	0	0	0	0	-		
	コブノメイガ	0	0	0	1,912	1,912	(同) 7,840	(同) 7,840	0	3,535		
	イネミズゾウムシ	0	0	372	1,127	1,499	(同) 1,666	(同) 1,666	372	1,263		
	スクミリンゴガイ	0	0	1,127	372	1,499	(同) 784	(同) 784	1,127	3,163		
ダイズ	218	紫斑病	0	0	0	0	0	0	0	0	41	
		さび病	0	0	0	0	0	0	0	0	15	
		立枯性病害	0	0	0	0	0	0	0	0	-	
		べと病	0	0	0	187	187	0	0	0	193	

農作物名	作付面積 (ha)	病害虫名	程度別発生面積 (ha)				計	防除面積 (ha)		被害面積 (ha)	平年発生面積(ha)	備考	
			甚	多	中	少		実	延				
ダイズ		葉 焼 病	0	0	0	0	0	0	0	0	21		
		モザイク病	0	0	0	0	0	0	0	0	4		
		アブラムシ病	0	0	0	0	0	(同)	153	(同)	153	0	32
		タネバエ	0	0	0	0	0		#VALUE!		#VALUE!	0	0
		コガネムシ類	0	0	62	156	218	(同)	153	(同)	153	62	143
		ハスモンヨトウ	0	0	93	93	186	(同)	153	(同)	153	93	238
		ハダニ類	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		タリス`サヤタマハ`エ	0	0	0	32	32	0	0	0	0	0	0
		マメヒメサヤムシカ`	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		マメシンクイガ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	8
		シロイチモシ`マタ`ラメイカ`	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	12
		カメムシ類	0	0	0	93	93	(同)	153	(同)	153	0	195
ウコンノメイガ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
サツマイモ	3,020	ナカジロシタバ	755	252	503	1,258	2,768	(同)	2,537	(同)	5,013	1,510	3,189
		ハスモンヨトウ	755	252	503	1,258	2,768	(同)	2,537	(同)	5,013	1,510	3,189
		イモコガ	0	0	0	1,007	1,007	(同)	2,537	(同)	5,013	0	1,770
ジャガイモ	403	疫 病	0	0	0	0	0	(同)	242	(同)	484	0	137
		アブラムシ類	0	0	0	121	121	(同)	242	(同)	484	0	325
		ニシ`ユウヤホシテントウ	0	0	0	81	81	(同)	242	(同)	484	0	139
カンキツ	1,185 温州 555 晩柑 630	そうか病(春葉)	0	0	0	0	0	830	830	0	56		
		そうか病(果実)	0	0	0	66	66	830	1,660	0	121		
		黒点病(果実)	0	0	66	593	659	830	2,490	66	907		
		かいよう病(春葉)	0	0	0	263	263	830	830	0	184		
		かいよう病(果実)	0	0	0	198	198	830	830	0	136		
		日焼け炭疽病	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
		ミカンハダニ	0	0	66	263	329	(同)	1,185		4,148	66	610
		ミカンサビダニ	0	0	0	66	66	(同)	1,185	(同)	4,148	0	486
		チャノキイロアサ`ミウマ	0	0	0	0	0	0	1,067		3,201	0	32

農作物名	作付面積 (ha)	病害虫名	程度別発生面積 (ha)				計	防除面積 (ha)		被害面積 (ha)	平年発生面積(ha)	備考	
			甚	多	中	少		実	延				
		ミカンハモグリガ	0	0	0	132	132	132	198	0	462		
カンキツ		アブラムシ類	0	0	66	133	199	199	199	66	304		
		カメムシ類	0	0	0	387	387	387	387	0	486		
チャ	1,330	炭疽病	0	0	84	665	749	1,330	4,655	84	877		
		もち病	0	0	0	166	166	(同)	1,330	(同)	1,330	0	196
		網もち病	0	0	0	0	0	(同)	1,330	(同)	4,655	0	0
		輪斑病	0	0	0	333	333	1,330	2,660	0	260		
		チャノコカクモンハマキ	0	0	0	84	84	(同)	1,330	(同)	4,655	0	36
		チャハマキ	0	0	0	0	0	(同)	1,330	(同)	4,655	0	45
		チャノホソガ	0	0	0	753	753	(同)	1,330	(同)	4,655	0	811
		カンザワハダニ	0	102	205	307	614	1,330	3,325	307	710		
		チャノミドリヒメヨコハ`イ	0	0	78	548	626	(同)	1,330	(同)	4,655	78	0
		チャノキイロアサ`ミウマ	0	0	0	548	548	(同)	1,330	(同)	4,655	0	861
		クワシロカイカ`ラムシ	0	0	157	234	391	466	699	157	513		
		カスミカメ類	0	0	0	102	102	200	200	0	626		
冬春キュウリ (R2.9~R3.6)	350	べと病	11	21	55	125	213	333	1,665	88	154		
		炭そ病	0	0	0	0	0	147	294	0	0		
		疫病	0	0	0	0	0	140	140	0	0		
		灰色かび病	0	0	0	0	0	140	140	0	2		
冬春キュウリ (R2.9~R3.6)		うどんこ病	3.69	9	4	35	51	350	1,400	16	97		
		褐斑病	0	0	0	0	0	336	1,008	0	32		
		斑点細菌病	0	0	0	0	0	88	176	0	0		
		モザイク病	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
		ミナミキイロアザミウマ	0	0	11	32	43	333	1,998	11	134		
		アブラムシ	0	0	0	0	0	140	140	0	2		
冬春ピーマン (R2.9~R3.6)	186	疫病	0	0	0	0	0	78	78	0	0		
		斑点病	0	2	5	69	76	149	596	7	49		
		斑点細菌病	0	0	0	0	0	37	37	0	0		

農作物名	作付面積 (ha)	病害虫名	程度別発生面積 (ha)				計	防除面積 (ha)		被害面積 (ha)	平年発生 面積(ha)	備考
			甚	多	中	少		実	延			
		うどんこ病	0	0	17	52	69	164	492	17	65	
冬春ピーマン (R2.9~R3.6)		灰色かび病	0	0	0	0	0	47	94	0	0	
		モザイク病	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		アブラムシ類	0	0	2	0	2	93	186	2	6	
		タバコガ	0	0	0	0	0	102	204	0	1	
		ミナミキイロアザミウマ	0	0	0	7	7	180	1,260	0	58	
		ヒラズハナアザミウマ	16.653	43	50	31	140	180	1,260	109	94	
冬春トマト (R2.9~R3.6)	130 (含ミニ)	疫病	0	0	0	0	0	98	392	0	3	
		灰色かび病	0	0	2	4	6	117	234	2	15	
		葉かび病	0	0	0	13	13	91	273	0	20	
		コナジラミ類	4	4	7	41	56	130	910	15	58	
		ハモグリバエ類	0	0	0	0	0	107	214	0	4	
		モザイク病	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		アブラムシ類	0	0	0	0	0	59	118	0	1	
		ハスモンヨトウ	0	0	0	0	0	59	118	0	11	
冬春イチゴ (R2.9~R3.5) 冬春イチゴ (R2.9~R3.5)	55	灰色かび病	0	0	0	0	0	48	96	0	4	
		うどんこ病	0	0	1	7	8	55	110	1	23	
		炭そ病	0	0	0	2	2	14	28	0	7	
		アブラムシ類	0	1	1	14	15	55	165	2	25	
		ハダニ類	0	1	5	14	19	55	220	5	41	
		ハスモンヨトウ	0	0	1	7	8	55	110	1	7	
秋冬ダイコン (R2.9~12)	997	モザイク病	0	0	0	0	0	0	0	0	237	
		アブラムシ類	0	0	0	98	98	618	618	0	709	
		キスジノミハムシ	0	0	0	98	98	199	199	0	137	

8) 有害動植物発生予察事業実施状況

(1) 発表情報一覧(警報、注意報、特殊報、防除情報)

情報の種類	番号	発令月日	対象作物	対象病害虫	情報内容
注意報	1	R3. 6月22日	サツマイモ	サツマイモ基腐病	次ページ以降を参照
特殊報	1	5月10日	トマト ミニトマト	トマト黄化病	
	2	8月17日	ファレノプシス	ファレノプシス株枯病	
	3	12月14日	トマト	トマトキバガ	
防除情報	1	4月13日	サツマイモ	サツマイモ基腐病	
	2	5月28日	施設野菜(キュウリ、ピーマン、トマト、イチゴ)	施設野菜の病害虫(主にアザミウマ類、コナジラミ類、ハダニ類)	
	3	5月28日	サツマイモ	サツマイモ基腐病	
	4	6月7日	飼料用トウモロコシ他	ツマジロクサヨトウ	
	5	6月22日	サトイモ	サトイモ疫病	
	6	6月29日	チャ	チャノミドリヒメヨコバイ	
	7	8月3日	イネ	いもち病	
	8	11月29日	チャ	カンザワハダニ	
	9	11月29日	冬春ピーマン	微少害虫	
	10	R4. 1月28日	キュウリ	ウイルス、ウイルス病媒介虫	
11	3月1日	冬春イチゴ	ヒラズハナアザミウマ		

6 0 1 1 - 1 2 5 8
令和 3 年 6 月 2 2 日

各関係機関の長
各病害虫防除員 殿

宮崎県病害虫防除・肥料検査センター所長

令和3年度病害虫発生予察注意報第1号について

令和3年度病害虫発生予察注意報第1号を発表したので送付します。

令和3年度病害虫発生予察注意報第1号

本年産かんしょ栽培において、サツマイモ基腐病の発生が散見されています。

今後の発生拡大を防止するため、発病株の除去や薬剤防除など適切な対策を実施しましょう。

- 1 病害虫名 : サツマイモ基腐病
- 2 作物名 : かんしょ
- 3 発生地域 : 県下全域（県北地域を除く）
- 4 発生量 : ー

5 注意報の根拠

- (1) 5月中旬に青果用かんしょの複数のほ場において、サツマイモ基腐病の発生が確認された（令和3年度病害虫防除情報第3号、5月28日発表参照）。
- (2) その後、原料用かんしょにおいても、本ほでの発生が確認されており、県内各地で本病の発病が散見されている。
- (3) 九州南部の向こう1か月（6月19日～7月18日）予報から、平年同様に曇りや雨が多い見通しであるため（鹿児島地方气象台6月17日発表）、本病の蔓延に好適な環境が続くと予想される。
また、昨年実施した発生消長調査では、梅雨時期に発病が急激に増加する傾向が見られたことから（図1）、今後、更なる発生拡大が懸念される。

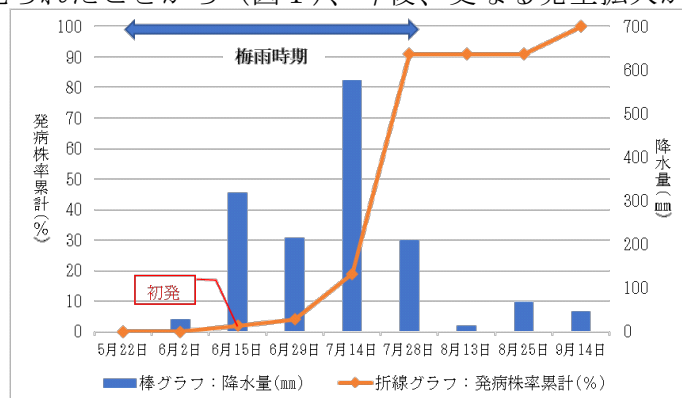


図1 サツマイモ基腐病の甚発生ほ場における発生推移（2020年調査、4月下旬定植）



図2 発病株の様子（左：茎葉の萎れ、右：株元の黒変）

6 防除上の注意

- (1) 定植後に発病した株は、病斑部に大量の胞子を形成し、降雨等により周辺に拡がることから、ほ場での発生の有無をこまめに確認する。発病株を見つけた場合は、早急に抜き取り、その場でビニール袋などに入れてほ場外に持ち出し、適切に処分する。
- (2) 発病株を除去した後は、周辺株への伝染を予防するため、登録のある薬剤による予防散布を全面的に行う。なお、散布する際は、株元にしっかりと薬液がかかるよう注意する。
- (3) 特に長雨により発生が助長されやすいため、晴れ間を利用して薬剤散布を行う。また、畝間に停滞水が生じるような大雨や台風の後も、排水を促し、速やかに薬剤散布を行い、二次伝染による蔓延を防止する。
- (4) 2021年4月現在、2種の銅剤（ジーファイン水和剤、Zボルドー）とアミスター20フロアブルが登録されているので、使用基準に従って適切に散布する（表1）。
- (5) 薬剤防除にあたっては、銅剤による予防を基本とし、アミスター20フロアブルは耐性菌が発生するリスクがあるため、連用しないよう注意すること。
- (6) 無人航空機による散布を行う際は、気象条件の変化を随時確認しながら、飛散（ドリフト）が起こらないよう十分注意する。

表1 サツマイモ基腐病に対する茎葉散布の登録農薬（2021年4月1日現在）

薬剤名	希釈倍数	使用回数	使用時期	使用方法
ジーファイン水和剤	1,000倍	—	収穫前日まで	散布
Zボルドー	500倍	—	—	散布
アミスター20フロアブル	2,000倍	3回以内	収穫14日前まで	散布
	32倍	3回以内	収穫14日前まで	無人航空機による散布

- サツマイモ基腐病の生態や防除対策の詳細については、農研機構のHPに掲載されている「サツマイモ基腐病の発生生態と防除対策」を参照する。
- 6月1日から8月31日までの3か月間、農薬危害防止運動を実施します。農薬散布にあたっては、ラベル表示の確認を十分に行い、農薬使用基準を遵守し、危害防止に努めましょう。

《連絡先》宮崎県総合農業試験場 病虫害防除・肥料検査課
 （病虫害防除・肥料検査センター） 阿萬・久野
 TEL：0985-73-6670 FAX：0985-73-2127
 E-mail：byogaichu-hiryo@pref.miyazaki.lg.jp

6 0 1 1 - 1 1 4 5
令和 3 年 5 月 1 0 日

各関係機関の長
各病虫害防除員 殿

宮崎県病虫害防除・肥料検査センター所長

令和 3 年度病虫害発生予察特殊報第 1 号について

令和 3 年度病虫害発生予察特殊報第 1 号を発表したので送付します。

令和 3 年度病虫害発生予察特殊報第 1 号

1 病虫害名：トマト黄化病

2 病原ウイルス名：トマト退緑ウイルス (*Tomato chlorosis virus*: T o C V)

3 作物名：トマト・ミニトマト

4 発生確認の経過

- 1) 令和 3 年 (2021年) 3 月、県内の施設栽培トマトほ場 1 戸において、葉が黄化する症状が認められた (図 1、2)。また、別の施設栽培ミニトマトほ場 1 戸でも同様の症状が確認された (図 3、4)。現場ほ場より検体を採取し、宮崎県総合農業試験場において R T - P C R 法によるウイルス検定を行った結果、両検体ともに、本県未発生のトマト退緑ウイルス (T o C V) によるトマト黄化病であることが判明した。
- 2) 本病は、平成 20 年 (2008 年) に栃木県で初めて確認され、九州、関東、中部、四国を中心に 21 都県で確認されている。

5 病徴

- 1) 本病の初期症状は、下位葉から中位葉の一部で葉脈間が退緑黄化し、斑状の黄化葉となる。
- 2) 症状が進むと葉脈に沿った部分を残して葉全体が黄化し、えそ症状が現れる。
- 3) 本病の黄化症状は苦土欠乏症に似ており判別が難しい。
- 4) 発病株では生育が抑制され、収量が減少する傾向にある。

6 病原ウイルスの特徴

- 1) 本ウイルスは、クリニウイルス属に属し、タバココナジラミ (バイオタイプ B 及び Q) 及びオンシツコナジラミが媒介する。
- 2) 本ウイルスを吸汁したコナジラミ類は、数時間から数日間ウイルス媒介能を有する。
- 3) 本ウイルスが属するクリニウイルス属ウイルスは、経卵伝染、汁液伝染、種子伝染、

土壌伝染はしないとされている。

7 防除対策

- 1) 媒介虫であるコナジラミ類の防除を徹底する。なお、農薬で防除する際は、同一系統の薬剤の連用を避け、ローテーション散布を心がける。
- 2) 施設の開口部に防虫ネット（0.4mm以下）を設置する。
- 3) 発病株は直ちに抜き取り、ほ場外に持ち出し適切に処分する。
- 4) コナジラミ類の増殖を防ぐため、施設内及び施設周辺の雑草を除去する。
- 5) 施設外にコナジラミ類を分散させないため、栽培終了時にはハウスを密閉し、コナジラミ類を死滅させる。



図1 施設内の発生状況（トマト）



図2 葉の黄化症状（トマト）



図3 施設内の発生状況（ミニトマト）



図4 葉の黄化症状（ミニトマト）

《連絡先》

宮崎県総合農業試験場 病害虫防除・肥料検査課
（病害虫防除・肥料検査センター） 久野・椎葉
TEL : 0985-73-6670 FAX : 0985-73-2127
E-mail : byogaichu-hiryo@pref.miyazaki.lg.jp
ホームページ : <http://www.jpnpn.ne.jp/miyazaki>

6 0 1 1 - 1 3 9 2
令和 3 年 8 月 1 7 日

各関係機関の長
各病害虫防除員 殿

宮崎県病害虫防除・肥料検査センター所長

令和 3 年度病害虫発生予察特殊報第 2 号について

令和 3 年度病害虫発生予察特殊報第 2 号を公表したので送付します。

令和 3 年度病害虫発生予察特殊報第 2 号

1 病害虫名：ファレノプシス株枯病

Neocosmospora solani (Mart.) L. Lombard & Crous
(無性世代：*Fusarium solani* (Mart.) Sacc)

2 作物名：ファレノプシス

3 発生確認の経過

- 1) 令和 3 年 (2021 年) 6 月、県内の施設栽培ファレノプシスにおいて、葉の基部が灰白色～黒褐色に変色し、葉全体が萎れ、その後落葉する症状が認められた。現場ほ場より検体を採取、菌を分離し、農林水産省門司植物防疫所に同定を依頼した結果、本病であることが判明した。
- 2) 本病は、昭和 63 年 (1988 年) に沖縄県の施設栽培ファレノプシス及びドリテノプシスで初めて確認された。その後、栃木県、熊本県で確認されている。

4 病徴

- 1) 葉では、はじめ基部に変色、腐敗し、葉全体が萎れ、やがて枯死する。根では乾腐症状を呈し、黒褐色に変色する。病勢が激しい場合は株全体が萎凋枯死する。
- 2) 病斑部の表面にはしばしば赤褐色の子のう殻が形成され、多湿時には白色の菌糸も確認される。
- 3) 苗での発生が多く、大きな株が短期間で枯死に至ることは少ないが、株全体の生育は劣る。

5 病原菌の特徴

- 1) 糸状菌の一種で子のう菌類に属し、有性世代では赤褐色の子のう殻を形成する。内部には子のうを形成し、その中に子のう胞子を 8 個形成する。無性世代では楕円～紡錘形の小分生子及び鎌形の大分生子を形成する。

6 防除対策

- 1) 本病に対する登録農薬はないため、発病株は見つけ次第は場外に持ち出し、適切に処分する。発病株の植え込み資材についてもほ場外で適切に処分し、再利用はしない。
- 2) 栽培管理に使用する器具などは消毒して使用する。



図1 確認された発病株



図2 病斑部表面に形成された子のう殻



図3 病斑上の子のう殻と菌糸

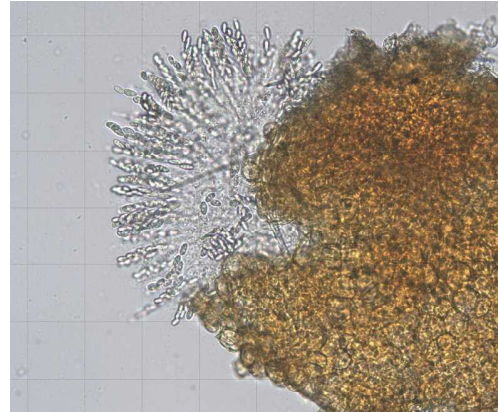


図4 子のう殻と子のう



図5 子のうと子のう胞子

《連絡先》

宮崎県総合農業試験場 病害虫防除・肥料検査課
(病害虫防除・肥料検査センター) 久野・椎葉

TEL : 0985-73-6670 FAX : 0985-73-2127

E-mail : byogaichu-hiryo@pref.miyazaki.lg.jp

ホームページ : <http://www.jpnpn.ne.jp/miyazaki>

6 0 1 1 - 1 6 3 9
令和 3 年 1 2 月 1 4 日

各関係機関の長
各病害虫防除員 殿

宮崎県病害虫防除・肥料検査センター所長

令和 3 年度病害虫発生予察特殊報第 3 号について

令和 3 年度病害虫発生予察特殊報第 3 号を発表したので送付します。

令和 3 年度病害虫発生予察特殊報第 3 号

1 病害虫名：トマトキバガ (チョウ目キバガ科)

Tuta absoluta (Meyrick)

2 作物名：トマト

3 発生確認の経過

令和 3 年 (2021 年) 12 月、県内の一部の施設栽培トマトほ場において、葉の薄皮化及び白～褐変症状と果実の穿孔症状が発生し、症状が発生した葉や果実において、乳白色～緑白色でやや桃色がかったイモムシ型の幼虫の寄生が確認された。また、当該ほ場では、暗色で細長い小さなガの成虫が確認され、トマトキバガであることが疑われたため、上記の幼虫及び成虫を採集し、農林水産省門司植物防疫所に同定を依頼し、その結果トマトキバガであることが判明した。

4 国内外の発生状況

本種は南アメリカ原産であるが、平成 18 年 (2006 年) にスペインへの侵入が確認され、ヨーロッパ、アフリカ、中央アメリカ、西アジア、アラビア半島、インド、ネパール、東南アジアに分布を拡大し、令和 3 年 5 月までに、新たに台湾、中国、中央アジア諸国などでの発生が確認されている。また、国内では、令和 3 年 10 月に熊本県で初めて確認されている。

5 形態及び生態の特徴

(1) 形態

成虫は翅を閉じた静止時で体長 5～7 mm (前翅長 5 mm 弱、開張^{※1} 約 10 mm)。前翅は灰褐色で黒色斑が散在する。後翅は一様に黒色である。幼虫は終齢で約 8 mm に達する。体色は淡緑色～淡赤白色で、前胸の背面後縁に狭い黒色横帯を有する。

※1 翅を左右に広げたときの両方の翅の先端から先端までの長さ

(2) 生態

ア 1年に複数回の世代が発生し、繁殖能力が高い。発生世代数は環境条件によって異なり、南米では年に10~12世代発生することが報告されている。

イ 卵から成虫になるまでの期間は24~38日程で、気温が低い時期は更に期間が延びる。また、発育下限温度は8℃と推定されている。

ウ 成虫は夜行性で、日中は葉の間に隠れていることが多い。

エ 雌は一生のうちに平均で約260個の卵を産み、寄主植物の葉の裏面などに卵を産み付ける。

オ 幼虫では1齢から4齢までの生育ステージがあり、4齢幼虫は土中や葉の表面で蛹化する。

(3) 被害

トマトにおいて、葉では、内部に幼虫が潜り込んで食害し、葉肉内に孔道が形成される。食害部分は表面だけが残って薄皮状になり、白~褐変した外観となる。果実では、幼虫が穿孔侵入して内部組織を食害するため、果実表面に数mm程度の穿孔痕が生じるとともに、食害部分の腐敗が生じ、果実品質が著しく低下する。

(4) 寄主植物

トマト、ナス、タバコ、バレイショなどのナス科植物が主要な寄主植物であるが、マメ科のインゲンマメも寄主植物として確認されている。

(5) その他

海外では、ピレスロイド系やジアミド系などの殺虫剤に対する抵抗性を獲得した個体群の発生が報告されている。

6 防除対策

(1) 現在、トマトキバガに対する登録農薬はないが、植物防疫法第29条第1項に基づく措置として、別紙に記載された農薬による防除を行う。なお、薬剤防除にあたっては、薬剤抵抗性の発達を防ぐため、系統の異なる薬剤のローテーション散布を行う。

(2) ほ場内をよく見回り、見つけ次第捕殺する。

(3) 除去した被害株や被害果などを野外に放置すると、それが発生源となり、周囲に拡散する恐れがあるため、除去する場合は、薬剤を散布し、寄生した成幼虫が死滅したことを確認して、速やかに土中に深く埋却する。または、ビニール袋などに入れて一定期間密閉し、寄生した成幼虫を全て死滅させ、適切に処分する。

(4) トマトキバガの発生が疑われる場合は、総合農業試験場病害虫防除・肥料検査課(病害虫防除・肥料検査センター：0985-73-6670)に連絡する。



図1 幼虫の食害による被害葉



図2 幼虫の食害による被害果



図3 トマトキバガ幼虫（前胸背面後縁の黒色横帯）



図4 トマトキバガ成虫（静止時）

《連絡先》

宮崎県総合農業試験場 病害虫防除・肥料検査課
(病害虫防除・肥料検査センター) 久野・椎葉

TEL : 0985-73-6670 FAX : 0985-73-2127

E-mail : byogaichu-hiryo@pref.miyazaki.lg.jp

ホームページ : <http://www.jpnpn.ne.jp/miyazaki>

トマトキバガに対しては 以下の農薬を使用して防除を行ってください。

以下に記載した農薬はトマトキバガに対して登録はありませんが、植物防疫法第29条第1項の規定による防除を行うために使用が可能です。

また、使用にあたっては購入した農薬の適用作物、使用方法、使用時期、散布液量、希釈倍数使用量、使用回数を守ることで、出荷停止等、流通に支障が出ることもありません。

なお、マルハナバチなどに影響のある農薬も含まれるため、農薬の選定に当たっては十分注意してください。

○ トマト

農薬の種類	使用方法	希釈倍数 使用量	使用時期	散布液量	本剤の 使用回数	RAC コード	系統名	チョウ目 登録	ハモグリバ 工類登録
アクリナトリン・スピロメシフェン水和剤	散布	2000倍	収穫前日まで	100～300L/10a	2回以内	3A 23	ピレスロイド系 ピレトリン系 テトロン酸及びテトラ ミン酸誘導体	○	-
アクリナトリン水和剤	散布	1000倍	収穫前日まで	150～300L/10a	3回以内	3A	ピレスロイド系 ピレトリン系	○	-
イソキサチオン粉剤	土壌表面散布土 壌混和処理	6kg/10a	は種時又は植付 時		2回以内	1B	有機リン系	○	-
インドキサカルブ水和剤	散布	2000倍	収穫前日まで	100～300L/10a	2回以内	22A	オキサジアジン系	○	-
エマメクチン安息香酸塩・ ルフェスロン水和剤	散布	1500倍	収穫前日まで	100～300L/10a	2回以内	6 15	アベルメクチン系 ミルベマイシン系 ベンゾイル尿素系	○	○
エマメクチン安息香酸塩乳 剤	散布	2000倍	収穫前日まで	100～300L/10a	5回以内	6	アベルメクチン系 ミルベマイシン系	○	○
クロマフェノジド水和剤	散布	1000～2000倍	収穫前日まで	100～300L/10a	3回以内	18	ジアシル-ヒドラジン 系	○	-
クロラントラニプロール 水和剤	散布	2000倍	収穫前日まで	100～300L/10a	3回以内	28	ジアミド系	○	○
クロラントラニプロール 粒剤	株元散布	1g/株	育苗期後半～定 植時		1回	28	ジアミド系	○	○
クロルフェナビル水和剤	散布	2000倍	収穫前日まで	100～300L/10a	3回以内	13	ピロール系 ジニトロフェノール系 スルフルアミド	○	○
クロルフルアズロン乳剤	散布	2000倍	収穫前日まで	100～300L/10a	3回以内	15	ベンゾイル尿素系	○	-
シアントラニプロール・ チアメトキサム粒剤	株元散布	2g/株	鉢上げ時～育苗 期後半		1回	28 4A	ジアミド系 ネオニコチノイド系	○	○
シアントラニプロール水 和剤	散布	2000～4000倍	収穫前日まで	100～300L/10a	3回以内	28	ジアミド系	○	○
スピネトラム水和剤	散布	2500～5000倍	収穫前日まで	100～300L/10a	2回以内	5	スピノシン系	○	○
スピノサド水和剤	散布	5000倍	収穫前日まで	100～300L/10a	2回以内	5	スピノシン系	○	○
ダイアジノン粒剤	土壌混和	6～9kg/10a	は種時又は植付 時		2回以内	1B	有機リン系	○	-
ダイアジノン粒剤	全面土壌混和又 は作条土壌混和	4～6kg/10a	は種時又は定植 時		2回以内	1B	有機リン系	○	-
テトラニプロール水和剤	散布	2500～5000倍	収穫前日まで	100～300L/10a	3回以内	28	ジアミド系	○	○
テフルベンズロン乳剤	散布	2000倍	収穫前日まで	100～300L/10a	2回以内	15	ベンゾイル尿素系	○	-
ノバルロン乳剤	散布	2000～3000倍	1番花の開花まで	100～300L/10a	4回以内	15	ベンゾイル尿素系	○	○
ピリダリル水和剤	散布	1000倍	収穫前日まで	100～300L/10a	2回以内	UN		○	○
フルキサメタミド乳剤	散布	2000倍	収穫前日まで	100～300L/10a	2回以内	30	メタジアミド系 イソオキサゾリン系	○	○
フルフェノクスロン乳剤	散布	2000～4000倍	収穫前日まで	100～300L/10a	4回以内	15	ベンゾイル尿素系	○	○
フルベンジアミドくん煙剤	くん煙	くん煙室容積 400m3(床面積200 ㎡×高さ2m)当り 50g	収穫前日まで		2回以内	28	ジアミド系	○	-
フルベンジアミド水和剤	散布	2000～4000倍	収穫前日まで	100～300L/10a	2回以内	28	ジアミド系	○	-
ベルメトリン粒剤	株元散布	3kg/10a	生育初期		3回以内	3A	ピレスロイド系 ピレトリン系	○	-
メタフルミゾン水和剤	散布	1000～2000倍	収穫前日まで	100～300L/10a	3回以内	22B	セミカルバゾン系	○	-
メトキシフェノジド水和剤	散布	2000～4000倍	収穫前日まで	100～300L/10a	2回以内	18	ジアシル-ヒドラジン 系	○	-
ルフェスロン乳剤	散布	2000～3000倍	収穫前日まで	100～300L/10a	4回以内	15	ベンゾイル尿素系	○	○
レビメクチン乳剤	散布	2000倍	収穫前日まで	100～300L/10a	3回以内	6	アベルメクチン系 ミルベマイシン系	○	○
還元澱粉糖化物・クロチア ニンジ・ピリダリル・ベル メトリン・マンデストロピ ン水和剤	散布	原液	収穫前日まで		2回以内	4A 3A UN	ネオニコチノイド系 ピレスロイド系 ピレトリン系	○	-
脂肪酸グリセリド・スピノ サド水和剤	散布	1000倍	収穫前日まで	100～300L/10a	2回以内	5	スピノシン系	○	○

○ ミニトマト

農薬の種類	使用方法	希釈倍数 使用量	使用時期	散布液量	本剤の 使用回数	RAC コード	系統名	チョウ目 登録	ハモグリバ 工類登録
アクリナトリン・スピロメシフェン水和剤	散布	2000倍	収穫前日まで	100~300L/10a	2回以内	3A 23	ビレスロイド系 ピレトリン系 テトロン酸及びテトラ ミン酸誘導体	○	-
アクリナトリン水和剤	散布	1000倍	収穫前日まで	150~300L/10a	2回以内	3A	ビレスロイド系 ピレトリン系	○	-
イソキサチオン粉剤	土壌表面散布土 壌混和处理	6kg/10a	は種時又は植付 時		2回以内	1B	有機リン系	○	-
エマメクテン安息香酸塩・ ルフェヌロン水和剤	散布	1500倍	収穫前日まで	100~300L/10a	2回以内	6 15	アベルメクテン系 ミルベマイシン系 ベンゾイル尿素系	○	○
エマメクテン安息香酸塩乳 剤	散布	2000倍	収穫前日まで	100~300L/10a	5回以内	6	アベルメクテン系 ミルベマイシン系	○	○
クロマフェノジド水和剤	散布	1000~2000倍	収穫7日前まで	100~300L/10a	3回以内	18	ジアシルヒドラジン 系	○	-
クロラントラニプロール 水和剤	散布	2000倍	収穫前日まで	100~300L/10a	3回以内	28	ジアミド系	○	○
クロルフェナビル水和剤	散布	2000倍	収穫前日まで	100~300L/10a	3回以内	13	ピロール系 ジニトロフェノール系 スルフルラミド	○	○
クロルフルアズロン乳剤	散布	2000倍	収穫前日まで	100~300L/10a	3回以内	15	ベンゾイル尿素系	○	-
シアントラニプロール・ チアメトキサム粒剤	株元散布	2g/株	鉢上げ時~育苗 期後半		1回	28 4A	ジアミド系 ネオニコチノイド系	○	○
シアントラニプロール水 和剤	散布	2000~4000倍	収穫前日まで	100~300L/10a	3回以内	28	ジアミド系	○	○
スピネトラム水和剤	散布	2500~5000倍	収穫前日まで	100~300L/10a	2回以内	5	スピノシン系	○	○
スピノサド水和剤	散布	5000倍	収穫前日まで	100~300L/10a	2回以内	5	スピノシン系	○	○
テトラニプロール水和剤	散布	2500~5000倍	収穫前日まで	100~300L/10a	3回以内	28	ジアミド系	○	○
テフルベンズロン乳剤	散布	2000倍	収穫前日まで	100~300L/10a	2回以内	15	ベンゾイル尿素系	○	-
ノバルロン乳剤	散布	2000~3000倍	1番花の開花まで	100~300L/10a	4回以内	15	ベンゾイル尿素系	○	○
ピリダリル水和剤	散布	1000倍	収穫前日まで	100~300L/10a	2回以内	UN		○	○
フルキサメタミド乳剤	散布	2000倍	収穫前日まで	100~300L/10a	2回以内	30	メタジアミド系 イソキサゾリン系	○	○
フルフェノクスロン乳剤	散布	2000~4000倍	収穫前日まで	100~300L/10a	2回以内	15	ベンゾイル尿素系	○	○
フルベンジアミド水和剤	散布	2000~4000倍	収穫前日まで	100~300L/10a	2回以内	28	ジアミド系	○	-
ベルメトリン粒剤	株元散布	3kg/10a	生育初期		1回	3A	ビレスロイド系 ピレトリン系	○	-
メタフルミゾン水和剤	散布	1000~2000倍	収穫前日まで	100~300L/10a	3回以内	22B	セミカルバゾン系	○	-
ルフェヌロン乳剤	散布	2000~3000倍	収穫前日まで	100~300L/10a	2回以内	15	ベンゾイル尿素系	○	○
レピメクテン乳剤	散布	2000倍	収穫前日まで	100~300L/10a	3回以内	6	アベルメクテン系 ミルベマイシン系	○	○
脂肪酸グリセリド・スピ ノサド水和剤	散布	1000倍	収穫前日まで	100~300L/10a	2回以内	5	スピノシン系	○	○

6011-1031
令和3年4月13日

各関係機関の長
各病害虫防除員 殿

宮崎県病害虫防除・肥料検査センター所長

令和3年度病害虫防除情報第1号

サツマイモ基腐病について、各地域の発生状況を把握しながら適切な防除指導をお願いします。

サツマイモ育苗ほ場においてサツマイモ基腐病の発生が確認されています。

今後の発生拡大防止のため、苗消毒を徹底しましょう。

- 1 作物名 かんしょ
- 2 病害虫名 サツマイモ基腐病

3 本病の特徴

本病は、主に感染苗のほ場への持ち込みや、土壌中に残った前年の被害残渣により発症する。特に、未発生地への侵入は、見かけ上健全だが本病原菌に感染している苗や種イモを介しての拡大が懸念される。本病においては、採苗位置を上げ、苗消毒を徹底することで発病リスクを低下できることが分かっており、苗消毒の徹底が発生拡大防止のため重要である。

4 苗消毒のポイント

- (1) 苗床に本病が発生した場合、症状のある株は速やかにハウス外に持ち出し、適切に処分する。
- (2) ベンレート水和剤またはベンレートT水和剤20を用いて、必ず苗消毒を行う。また、消毒液は充分量を準備し、使用する当日に調整したものをを用いる(表1)。
- (3) 採苗の際は、苗床の地際部から5cm以上離して採取し、採苗時のハサミはこまめに消毒(火炎滅菌または丁寧な洗浄と拭き取り)する。

表1 サツマイモ基腐病に対する苗消毒の登録農薬(2021年4月1日現在)

薬剤名	希釈倍数	使用回数	使用時期	使用方法
ベンレート水和剤	500~1,000倍	1回	植付前	30分間苗基部浸漬
ベンレートT水和剤20	200倍	1回	植付前	30分間さし苗基部浸漬

5 本ぼにおける対策のポイント

(1) 定植後に発病した株は、症状の進展とともに、病斑部に大量の胞子を形成し、降雨等により周辺に拡がることから、ほ場での発生の有無をこまめに確認し、発病株の早期発見・除去に努める(図1)。発病株を見つけた場合は、早急に抜き取り、その場でビニール袋などに入れてほ場外に持ち出し、適切に処分する。



図1 株元の病斑部

(2) 周辺株への伝染を予防するため、銅剤での予防散布を行う。散布の際は、株元にしっかり薬液がかかるよう注意する。

2021年4月現在、2種の銅剤(ジーファイン水和剤、Zボルドー)とアミスター20フロアブルが登録されているので、使用基準に従って適切に散布する(表2)。

(3) 薬剤防除にあたっては、銅剤での予防を基本とし、アミスター20フロアブルは、耐性菌が発生するリスクがあるため、連用しないよう注意すること。

表2 サツマイモ基腐病に対する茎葉散布の登録農薬 (2021年4月1日現在)

薬剤名	希釈倍数	使用回数	使用時期	使用方法
ジーファイン水和剤	1,000倍	—	収穫前日まで	散布
Zボルドー	500倍	—	—	散布
アミスター20フロアブル	2,000倍	3回以内	収穫14日前まで	散布
	32倍	3回以内	収穫14日前まで	無人航空機による散布

《連絡先》 宮崎県総合農業試験場 病害虫防除・肥料検査課
 (病害虫防除・肥料検査センター) 阿萬・久野
 TEL : 0985-73-6670 FAX : 0985-73-2127
 E-mail : byogaichu-hiryo@pref.miyazaki.lg.jp

各関係機関の長
各病害虫防除員 殿

宮崎県病害虫防除・肥料検査センター所長

令和3年度病害虫防除情報第2号

施設野菜の病害虫対策について、各地域の発生状況を把握しながら適切な防除指導をお願いします。

栽培終了時の蒸し込みと残さ処理を適切に行い、次期作付けのための病害虫対策を徹底しましょう。

- 1 作物名 施設野菜（キュウリ、ピーマン、トマト、イチゴ）
- 2 病害虫名 施設野菜の病害虫（主にアザミウマ類、コナジラミ類、ハダニ類、土壌病害虫）
- 3 発生状況（経過）

施設野菜の4月の巡回調査結果は以下のとおりであった（イチゴは3月調査）。

（1）冬春キュウリ

ミナミキイロアザミウマ（10月～4月の発生程度：平年よりやや少）

4月：発生面積率：11.1%（前年66.6%、平年68.8%） 平年より少
100葉当たり虫数：11.4頭（前年54.3頭、平年167.7頭） 平年より少

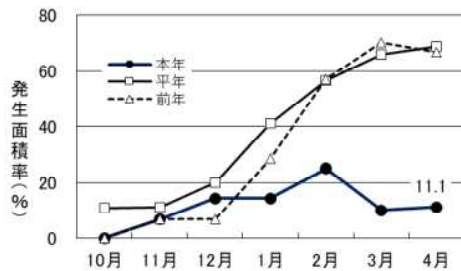


図1 発生面積率の推移

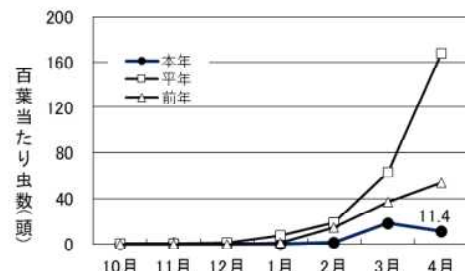


図2 100葉当たり虫数の推移

黄化えそ病（MYSV）（10月～4月の発生程度：平年並）

4月：発生面積率：11.1%（前年22.2%、平年14.7%） 平年並
発病株率：0.3%（前年3.3%、平年0.6%） 平年並

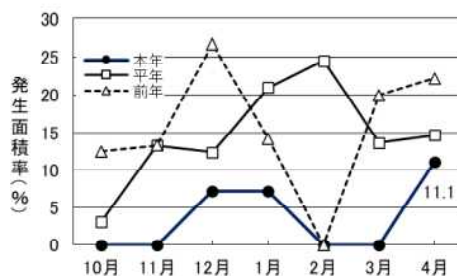


図3 発生面積率の推移

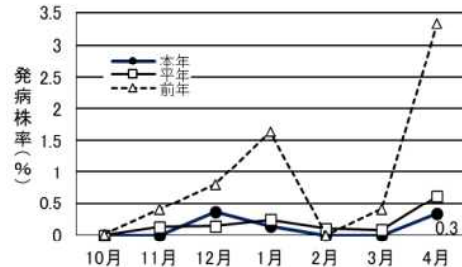


図4 発病株率の推移

(2) 冬春ピーマン

ミナミキイロアザミウマ (10月～4月の発生程度：平年より少)

4月：発生面積率：9.1% (前年0%、平年35.9%) 平年よりやや少
 10花当たり虫数：0.1頭 (前年0頭、平年1.7頭) 平年よりやや少

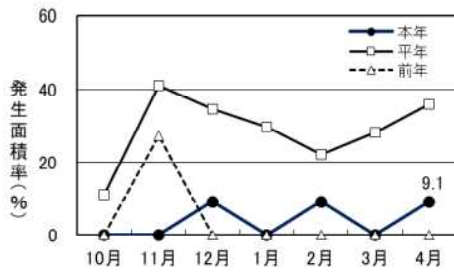


図5 発生面積率の推移

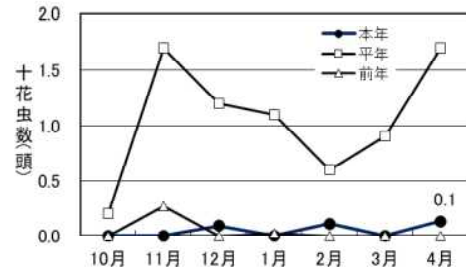


図6 10花当たり虫数の推移

ヒラズハナアザミウマ (10月～4月の発生程度：平年よりやや多)

4月：発生面積率：91.0% (前年81.8%、平年60.9%) 平年より多
 10花当たり虫数：26.0頭 (前年68.9頭、平年23.9頭) 平年よりやや多

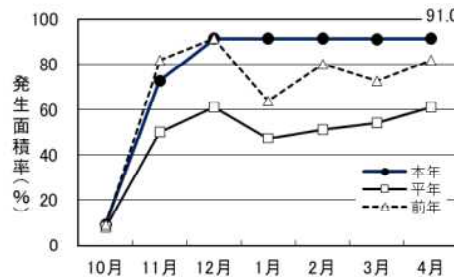


図7 発生面積率の推移

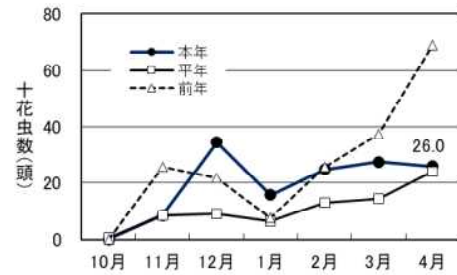


図8 10花当たり虫数の推移

(3) 冬春トマト

タバココナジラミ (10月～4月の発生程度：平年よりやや多)

4月：発生面積率：60.0% (前年44.4%、平年39.7%) 平年より多
 100葉当たり虫数：67.1頭 (前年14.7頭、平年7.4頭) 平年より多

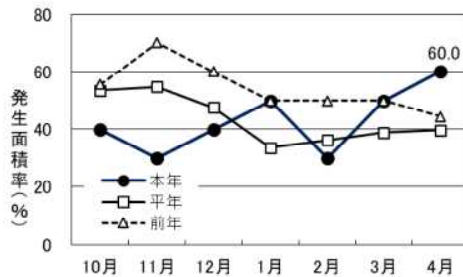


図9 発生面積率の推移

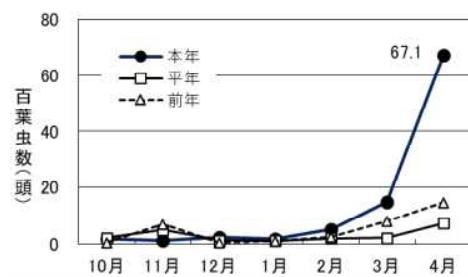


図10 100葉当たり虫数の推移

(4) イチゴ (3月調査)

ハダニ類 (10月～3月の発生程度：平年並)

3月：発生面積率：33.3% (前年49.9%、平年76.1%) 平年より少
 寄生株率：14.8% (前年15.8%、平年26.6%) 平年より少

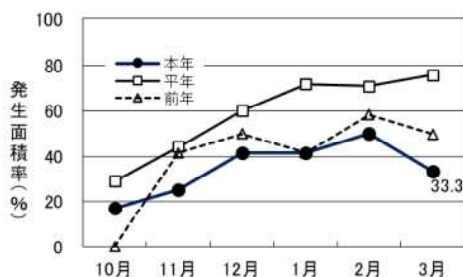


図11 発生面積率の推移

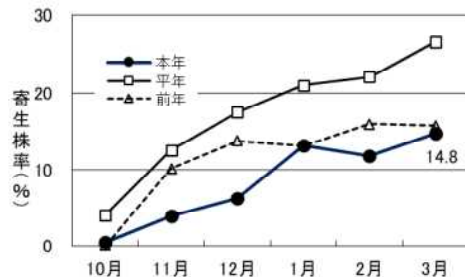


図12 寄生株率の推移

ヒラズハナアザミウマ (10月～3月の発生程度：平年より多)

3月：発生面積率：25.0% (前年0%、平年23.5%)

寄生花率：7.2% (前年0%、平年4.0%)

平年並
平年よりやや多

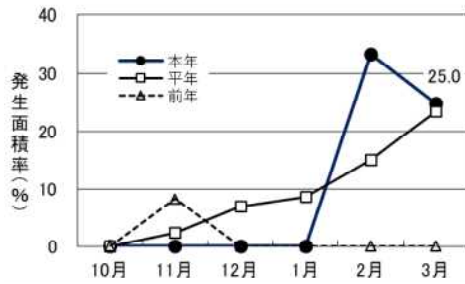


図13 発生面積率の推移

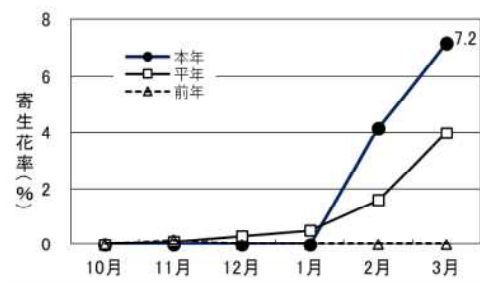


図14 寄生花率の推移

4 防除上の注意

1) アザミウマ類、コナジラミ類、ハダニ類

- ① いずれの害虫も薬剤感受性の低下が報告されるなど、栽培期間中の防除が困難となってきた。次作での発生を抑制するためには、栽培終了時の施設外への飛散を防止し、感受性低下個体群の野外への定着を防ぐことが重要である。
- ② 微小害虫が媒介するウイルス病(表1)の防除対策では、特に周辺へのウイルス拡散防止を目的に、栽培終了時には必ず防除と蒸し込みを行い、生き残った害虫を死滅させる。具体的には、対象の害虫に対する薬剤防除を行った上で、施設を密閉して20日間程度蒸し込む。
- ③ ほ場周辺やほ場内の雑草は害虫の発生・増殖源となるので、ハウス内外、栽培地周辺の除草を徹底する。

表1 各作物における主なウイルス病および媒介虫

作物	病害(ウイルス)	媒介虫
キュウリ	黄化えそ病(MYSV)	ミナミキイロアザミウマ
	退緑黄化病(CCYV)	タバココナジラミ
トマト	黄化葉巻病(TYLCV)	タバココナジラミ
ミニトマト	黄化病(ToCV)	コナジラミ類
	黄化えそ病(TSWV)	アザミウマ類
ピーマン	黄化えそ病(TSWV)	アザミウマ類

2) 土壌病害虫

- ① 作物残さは施設外に持ち出し適切に処分する。残さ処理の終わったほ場は、改良太陽熱消毒法などによりほ場の隅々まで土壌消毒を行う。天候不順などで、改良太陽熱消毒法の防除効果が十分に望めない時は、薬剤による土壌消毒を実施する。
 - ② 土壌病害が発生したほ場で、くん蒸剤などの土壌消毒剤を使用する場合は、残さを分解させた後に処理することで高い防除効果が得られる。
 - ③ 施設内で使用した資材・農機具などについても消毒を行うなど、徹底して病原菌や線虫など土壌病害虫の密度を減らすことが重要である。
- 6月1日から8月31日までの3か月間、農薬危害防止運動を実施します。農薬散布にあたっては、ラベル表示の確認を十分に行い、農薬使用基準を遵守し、危害防止に努めましょう。

《連絡先》

宮崎県総合農業試験場 病虫害防除・肥料検査課
 (病虫害防除・肥料検査センター) 椎葉・久野
 TEL : 0985-73-6670 FAX : 0985-73-2127
 E-mail : byogaichu-hiryo@pref.miyazaki.lg.jp
 ホームページ : http://www.jppn.ne.jp/miyazaki

各関係機関の長
各病害虫防除員 殿

宮崎県病害虫防除・肥料検査センター所長

令和3年度病害虫防除情報第3号

サツマイモ基腐病について、各地域の発生状況を把握しながら適切な防除指導をお願いします。

本年産サツマイモ栽培において、本ほでのサツマイモ基腐病の発生が確認されました。

今後の発生拡大が懸念されますので、発病株の除去や薬剤防除など適切な対策を実施しましょう。

1 作物名 かんしょ

2 病害虫名 サツマイモ基腐病

3 発生状況(経過)

- (1) 5月中旬に青果用サツマイモの複数のほ場（品種：高系14号）において、サツマイモ基腐病の発生が確認された（図1）。
- (2) 今年は、九州南部の梅雨入りが平年より早く、今後、本病に好適な条件が長く続くことが予想され、本ほでの発生拡大が懸念される。



図1 確認された発病株
(地際数cm離れた上部から発病)



図2 典型的な発病株
(地際から発病)

4 防除上の注意

【本ほ】

- (1) 定植後に発病した株は、病斑部に大量の胞子を形成し（図3）、降雨等により周辺に拡がることから、ほ場での発生の有無をこまめに確認する。発病株を見つけた場合は、早急に抜き取り、その場でビニール袋などに入れてほ場外に持ち出し、適切に処分する。
- (2) 発病株を除去した後は、周辺株への伝染を予防するため、登録のある薬剤による予防散布を全面的に行う。なお、散布する際は、株元にしっかりと薬液がかかるよう注意する。
- (3) 特に長雨により発生が助長されやすいため、晴れ間を利用して薬剤散布を行う。また、畝間に停滞水が生じるような大雨や台風の後も、速やかに薬剤散布を行い、二次伝染による蔓延を防止する。

- (4) 2021年4月現在、2種の銅剤（ジーファイン水和剤、Zボルドー）とアミスター20フロアブルが登録されているので、使用基準に従って適切に散布する（表1）。
- (5) 薬剤防除にあたっては、銅剤による予防を基本とし、アミスター20フロアブルは耐性菌が発生するリスクがあるため、連用しないよう注意すること。



図3 病斑部に形成した分生子殻（左）及び孢子（右）

表1 サツマイモ基腐病に対する茎葉散布の登録農薬（2021年4月1日現在）

薬剤名	希釈倍数	使用回数	使用時期	使用方法
ジーファイン水和剤	1,000倍	—	収穫前日まで	散布
Zボルドー	500倍	—	—	散布
アミスター20フロアブル	2,000倍	3回以内	収穫14日前まで	散布
	32倍	3回以内	収穫14日前まで	無人航空機による散布

【これから定植するほ場】

- (1) 苗床に本病が発生した場合、症状のある株は速やかにハウス外に持ち出し、適切に処分する。
- (2) 採苗の際は、苗床の地際部から5cm以上離して採取し、採苗時のハサミはこまめに消毒（火炎滅菌または丁寧な洗浄と拭き取り）する。
- (3) ベンレート水和剤またはベンレートT水和剤20を用いて、必ず苗消毒を行う。また、消毒液はラベルに記載してある濃度を遵守の上、十分な量を準備し、使用する当日に調整したものを用いる（表2）。
- (4) 本病は、排水不良のほ場で発生しやすいため、本ほの排水対策を徹底する。

表2 サツマイモ基腐病に対する苗消毒の登録農薬（2021年4月1日現在）

薬剤名	希釈倍数	使用回数	使用時期	使用方法
ベンレート水和剤	500～1,000倍	1回	植付前	30分間苗基部浸漬
ベンレートT水和剤20	200倍	1回	植付前	30分間さし苗基部浸漬

《連絡先》宮崎県総合農業試験場 病害虫防除・肥料検査課
 （病害虫防除・肥料検査センター） 阿萬・久野
 TEL：0985-73-6670 FAX：0985-73-2127
 E-mail：byogaichu-hiryo@pref.miyazaki.lg.jp

各関係機関の長
各病害虫防除員 殿

宮崎県病害虫防除・肥料検査センター所長

令和3年度病害虫防除情報第4号

ツマジロクサヨトウについて、各地域の発生状況を把握しながら適切な防除指導をお願いします。

ツマジロクサヨトウの飛来が確認されました。 今後の発生に注意して適切な防除を行ってください。

1 作物名 飼料用トウモロコシ、ソルガム、スイートコーン

2 病害虫名 ツマジロクサヨトウ

3 発生状況（経過）

- (1) 県内6ヶ所に設置しているフェロモントラップ調査において、5月に5頭（新富町、都城市、宮崎市）の誘殺が確認されている（表1）。
- (2) 高原町の飼料用トウモロコシ栽培ほ場において当該害虫のものと考えられる卵塊が確認され（図1）、今後幼虫（図2）の発生及び作物の食害（図3）が顕在化することが予想される。

表1 県内フェロモントラップにおける
誘殺頭数（6月2日現在）

設置地点	3月	4月	5月
宮崎市 佐土原町	0	0	1
宮崎市 田野町	0	0	0
都城市 母智丘	0	0	2
三股町 蓼池	0	0	0
西都市 茶臼原	0	0	1
新富町 新田	0	0	3



図1 確認された卵塊



図2 ツマジロクサヨトウ幼虫
（令和2年5月15日採取）



図3 飼料用トウモロコシでの食害(全体、拡大)
（令和2年5月15日撮影）

4 防除上の注意

- (1) 生育初期に多発すると減収につながると考えられるので、生育初期からほ場をよく見回り、幼虫と食害の早期発見に努め、発生を確認した場合は、農薬による防除を実施する。
- (2) 発生は8月下旬以降急激に増加し（図4）、特に飼料用トウモロコシの2作目で食害が顕著に見られるため（表2）、今後の発生に注意する。
- (3) 農薬の使用にあたっては、散布は無風又は風が弱い時に行うなど近隣に影響が少ない天候や時間帯を選び、風向、防除器具のノズルの向き等にも十分注意し、農薬の飛散（ドリフト）に留意する。

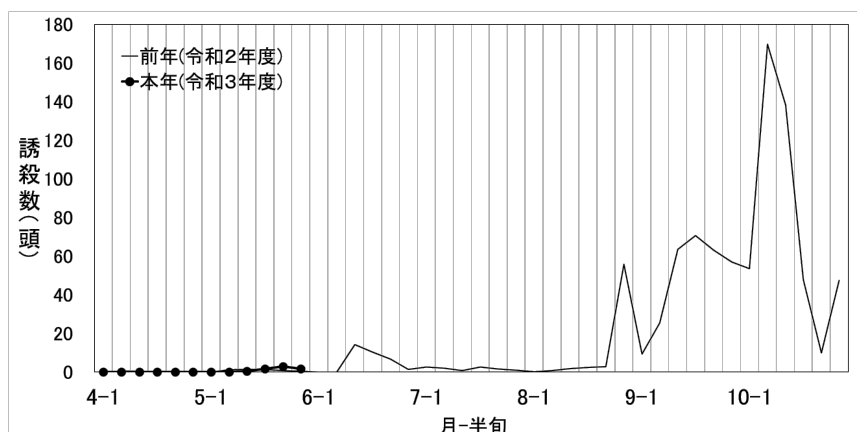


図4 県内のツマジロクサヨトウの発生消長（トラップ調査）

表2 飼料用トウモロコシ栽培ほ場における被害調査の結果（令和2年度実施）

地域	1作目					2作目				
	調査時期	調査ほ場数	被害ほ場数	被害ほ場率	被害株率	調査時期	調査ほ場数	被害ほ場数	被害ほ場率	被害株率
北諸県	7月上旬	36	8	22.2	0.8	9月上旬	19	19	100	55.2
西諸県	7月上旬	17	8	47.1	3.9	8月下旬	17	17	100	45.7
児湯	7月上旬	10	5	50.0	1.8	9月上旬	11	11	100	62.5
	合計(平均)	63	21	(33.3)	(2.2)	合計(平均)	47	47	(100)	(54.5)

- 6月1日から8月31日までの3か月間、農薬危害防止運動を実施します。農薬散布にあたっては、ラベル表示の確認を十分に行い、農薬使用基準を遵守し、危害防止に努めましょう。

《連絡先》

宮崎県総合農業試験場 病虫害防除・肥料検査課
 (病虫害防除・肥料検査センター) 椎葉・久野
 TEL : 0985-73-6670 FAX : 0985-73-2127
 E-mail : byogaichu-hiryo@pref.miyazaki.lg.jp
 ホームページ : <http://www.jpnp.ne.jp/miyazaki>

各関係機関の長
各病害虫防除員 殿

宮崎県病害虫防除・肥料検査センター所長

令和3年度病害虫防除情報第5号

サトイモ疫病について、各地域の発生状況を把握しながら適切な防除指導をお願いします。

県内のサトイモほ場において疫病の発生が確認されました。 今後の発生に注意して適切な防除を行ってください。

1 作物名 サトイモ

2 病害虫名 疫 病

3 発生状況（経過）

- (1) 6月2半旬に、県央部のサトイモほ場において疫病の初発生が確認された。
発生ほ場では、葉に疫病の病斑が見られたが（図1）、発病株率は低率であった。
- (2) 初確認の時期は、前年より遅く、前々年より早い。
（初発時期） 本年：6月2半旬 前年：5月4半旬 前々年：6月4半旬
- (3) 向こう1か月（6月19日から7月18日）の九州南部の季節予報（鹿児島地方気象台6月17日発表1か月予報）では、平年と同様に曇りや雨が多く、本病発生に好適な条件となる可能性がある。
- (4) 発病後は、例年7月から8月にかけて急速に蔓延することから（図3）、今後の発病の推移に注意が必要である。



図1 確認された病斑



図2 疫病菌の遊走子のう（令和元年撮影）

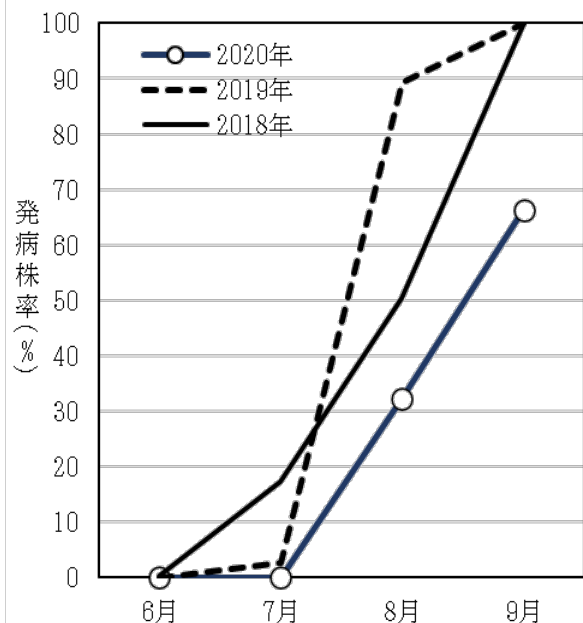


図3 巡回調査における発病株率の推移

4 本病の特徴

本病の病原菌である *Phytophthora colocasiae* は10～35℃で生育するが、27～30℃で最も良く増殖することから、夏期に曇雨天日が続くと急激に蔓延する。葉や葉柄上の病斑に形成した遊走子のうまたは遊走子が風雨により周囲へ飛散し、二次感染が起こる。

5 防除上の注意

- (1) 発病前からの定期的な薬剤散布が防除効果を向上させる。
ほ場をこまめに巡回し、発病前はマンゼブ水和剤による予防散布を実施する。発病後は治療効果のあるアミスルブロム・シモキサニル水和剤を散布し、その7日後にアゾキシストロビン水和剤を散布する。台風の前や長雨が予想される場合は、軟腐病予防と併せて炭酸水素ナトリウム・銅水和剤を散布する（表1参照）。
- (2) 薬剤散布に当たっては、必ず展着剤を加用し、株元まで十分量を散布する。
また、高温時の薬剤散布により葉害を生じることが確認されているので、日中の気温が高い時間の散布はできるだけ避ける。
- (3) アミスルブロム・シモキサニル水和剤およびアゾキシストロビン水和剤については、耐性菌が発生するリスクがあるため、連用しないよう注意する。
- (4) 排水不良のほ場では発生が助長されるので、ほ場外への排水を促すため、排水用の溝を必ず設置する。
- (5) 防除体系等の詳細については、「サトイモ疫病対策マニュアル（2021年版）」（宮崎県病害虫防除・肥料検査センターホームページ（www.jpnpn.ne.jp/miyazaki/）を参照する。

表1 サトイモ疫病に対する登録農薬（令和3年6月現在）

薬剤名	商品名	希釈倍率	散布液量	使用回数	使用時期
マンゼブ水和剤	ペンコゼブ水和剤	500倍	100-300 L/10a	2回以内	収穫7日前まで
アミスルブロム ・シモキサニル水和剤	ダイナモ 顆粒水和剤	2,000倍	100-300 L/10a	3回以内	収穫21日前まで
アゾキシストロビン 水和剤	アミスター20 フロアブル	2,000倍	100-300 L/10a	3回以内	収穫14日前まで
炭酸水素ナトリウム ・銅水和剤	ジーファイン 水和剤	1,000倍	150-500 L/10a	—	収穫前日まで

- 6月1日から8月31日までの3か月間、農薬危害防止運動を実施します。農薬散布にあたっては、ラベル表示の確認を十分に行い、農薬使用基準を遵守し、危害防止に努めましょう。

《連絡先》

宮崎県総合農業試験場 病害虫防除・肥料検査課
 （病害虫防除・肥料検査センター） 椎葉・久野
 TEL : 0985-73-6670 FAX : 0985-73-2127
 E-mail : byogaichu-hiryo@pref.miyazaki.lg.jp
 ホームページ : <http://www.jpnpn.ne.jp/miyazaki>

各関係機関の長
各病害虫防除員 殿

宮崎県病害虫防除・肥料検査センター所長

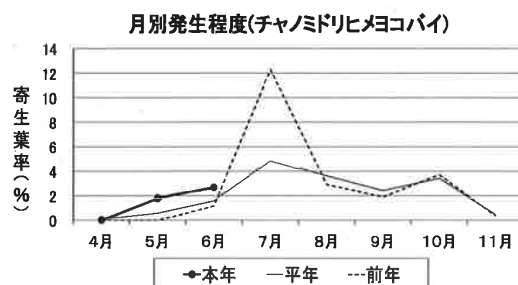
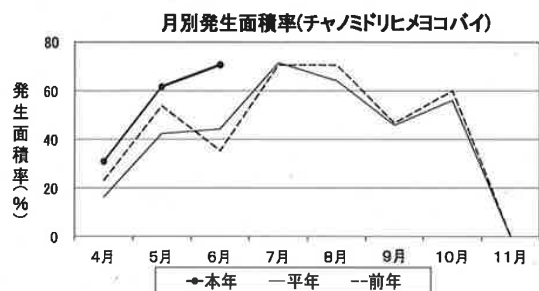
令和3年度病害虫防除情報第6号

チャノミドリヒメヨコバイについて、各地域の発生状況を把握しながら適切な防除指導をお願いします。

茶のチャノミドリヒメヨコバイが多くなっています。適期防除に努めてください。

- 1 作物名 茶
- 2 病害虫名 チャノミドリヒメヨコバイ
- 3 発生状況（経過）

- 1) 6月中旬の巡回調査の結果、チャノミドリヒメヨコバイの発生面積率は70.6%で平年（44.2%）に比べ多、寄生葉率は2.7%で平年（1.6%）に比べてやや多であった。先月から発生が多い状態が続いており注意が必要である。



4 防除上の注意

- 1) 今後、加害されると減収、品質低下が著しいため、萌芽期から開葉初期にかけて薬剤散布を行う。
- 2) 防除はチャノキイロアザミウマとの同時防除が行えるよう、どちらの害虫にも効果がある薬剤を選定するのが望ましい。

5 その他

- 1) 6月1日から8月31日の3か月間、農薬危害防止運動を実施しています。農薬散布にあたっては、ラベル表示の確認を十分に行い、農薬使用基準を遵守し、危害防止に努めましょう。

《連絡先》

宮崎県総合農業試験場 病害虫防除・肥料検査課
(病害虫防除・肥料検査センター) 榎本・久野
TEL : 0985-73-6670 Fax : 0985-73-2127
ホームページ : <http://www.jpnn.ne.jp/miyazaki>
E-mail : byogaichu-hiryo@pref.miyazaki.lg.jp

各関係機関の長
各病害虫防除員 殿

宮崎県病害虫防除・肥料検査センター所長

令和3年度病害虫防除情報第7号

いもち病について、各地域の発生状況を把握しながら適切な防除指導をお願いします。

いもち病の発生が増加しています。今後の発生に注意し、適切な防除を行いましょ。

1 作物名 普通期水稻

2 病害虫名 いもち病（葉いもち、穂いもち）

3 発生状況（経過）

- 7月中旬の巡回調査（41ほ場）における葉いもちの発生は平年並であったが、7月下旬の巡回調査では、発生面積率が46.3%（平年38.3%）、発病度が5.9（平年4.6）、発病株率が20.8%（平年15.8%）でいずれも平年よりやや多い発生であった（図1、2、3）。特に県北部の中山間地域で発生が多い（表1）。
- 向こう1か月の気象予報では、気温は平年並、降水量は平年より多いと予想されており、今後の発生拡大が懸念される（鹿児島地方気象台7月29日発表1ヶ月予報）。

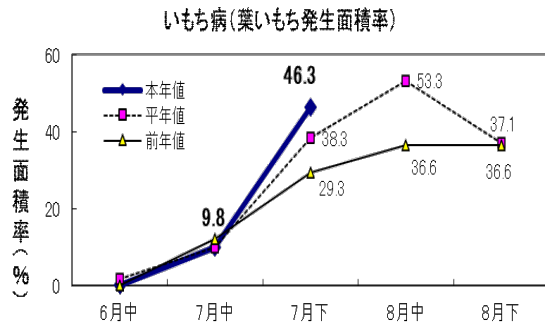


図1 巡回調査における発生面積率の推移

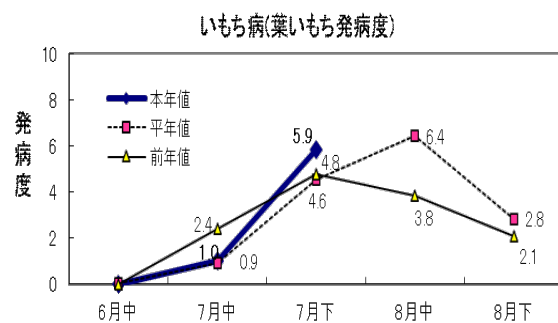


図2 巡回調査における発病程度の推移

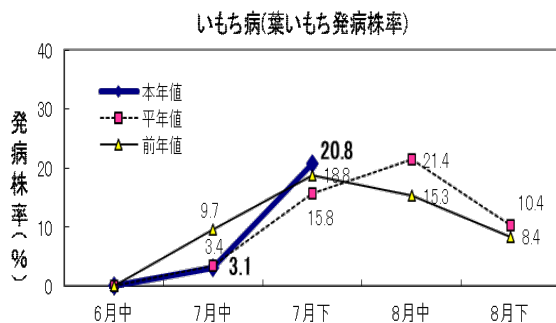


図3 巡回調査における発病株率の推移

表1 7月下旬の巡回調査における葉いもちの発生状況

	調査 地点数	程度別発生面積率 (%)				発生面 積率 (%)	発病度	発病株率 (%)
		甚	多	中	少			
東諸県	5	0.0	0.0	0.0	20.0	20.0(28.5)	3.0(1.9)	12.0(5.3)
北諸県	10	0.0	0.0	0.0	30.0	30.0(18.0)	0.7(0.8)	2.8(3.3)
西諸県	8	0.0	0.0	12.5	12.5	25.0(20.0)	6.9(1.0)	22.0(3.5)
東臼杵	10	0.0	0.0	40.0	30.0	70.0(58.0)	13.7(10.6)	48.8(35.0)
西臼杵	8	0.0	0.0	0.0	75.0	75.0(52.2)	3.3(5.4)	12.5(20.8)
全県	41	0.0	0.0	12.2	34.1	46.3(38.3)	5.9(4.6)	20.8(15.8)
R2	41	0.0	0.0	9.8	19.5	29.3(—)	4.8(—)	18.8(—)

※ () 内は平年値 (H23-R2)。

4 防除上の注意

- 1) 夏季の高温により、葉いもちの進行は一時的に抑制される可能性があるが、今後の気象条件によっては、穂いもちの発生が助長されるため、穂ばらみ後期と穂揃期の防除を徹底する。
- 2) 葉いもちが上位葉に発生している場合や、出穂期及びその後も降雨が続き、穂いもちの発生が予想される場合は、穂揃期の7～10日後にも追加防除を行う。
- 3) 雨の多い時は雨間散布を行い、防除適期を失しないようにする。
- 4) 穂肥を行う場合は、窒素過多になると本病に感染しやすくなるため、施肥量に注意するとともに、施肥後に病斑がみられた場合は速やかに防除する。
- 5) 同一系統の薬剤の連用は薬剤耐性菌の発生を助長することから、作用機構の異なる薬剤をローテーションで使用する。
- 6) 県内の一部地域ではストロビルリン系殺菌剤（以下、QoI剤）に対する感受性の低下したいもち病菌の発生が確認されているため、QoI剤の使用は年1回にとどめ、感受性の低下を助長しないように注意する。
- 7) BLASTAM（ブラスタム）による葉いもちの感染好適条件の出現状況については、下記を参照。

※<http://www.jpnp.ne.jp/miyazaki/800/300/suitou/r3/blastam202107.html>

5 その他

6月1日から8月31日の3か月間、農薬危害防止運動を実施しています。農薬散布にあたっては、ラベル表示の確認を十分に行い、農薬使用基準を遵守し、危害防止に努めましょう。

《連絡先》

宮崎県総合農業試験場病害虫防除・肥料検査課
 (病害虫防除・肥料検査センター) 阿萬
 TEL: 0985-73-6670 FAX: 0985-73-2127
 E-mail: byogaichu-hiryo@pref.miyazaki.lg.jp

各関係機関の長
各病害虫防除員 殿

宮崎県病害虫防除・肥料検査センター所長

令和3年度病害虫防除情報第8号

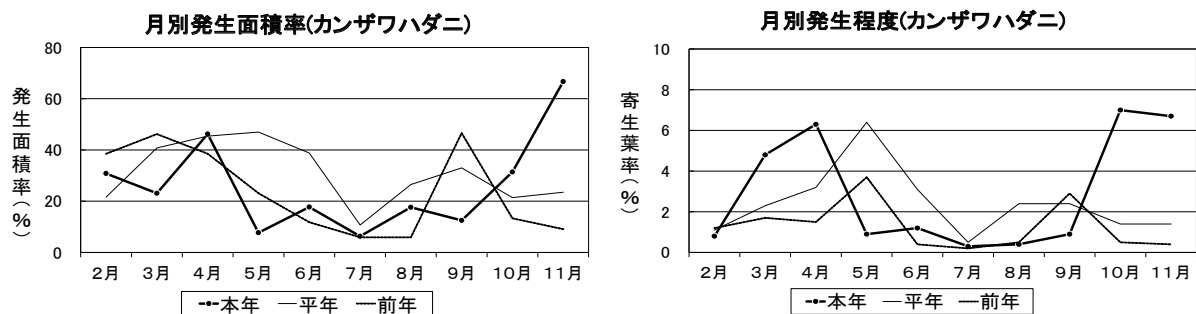
カンザワハダニについて、各地域の発生状況を把握しながら適切な防除指導をお願いします。

茶のカンザワハダニが多くなっています。適期防除に努めてください。

- 1 作物名 茶
- 2 病害虫名 カンザワハダニ

3 発生状況（経過）

11月中旬の巡回調査の結果、カンザワハダニの発生面積率は66.7%で平年（23.5%）に比べて多、寄生葉率は6.7%で平年（1.4%）に比べて多であった。先月から発生が多い状態が続いており注意が必要である。



4 防除上の注意

- (1) カンザワハダニの密度が高い茶園では、春先の発生量が多くなり、加害されると減収、品質低下が著しいため、2月頃までに薬剤散布を行う。
- (2) チャトゲコナジラミが多い茶園は、カンザワハダニとの同時防除が行えるよう、どちらの害虫にも効果のある薬剤を選定するのが望ましい。

5 その他

赤焼病が発生している茶園では、マシン油乳剤等が発生を助長するおそれがあるので注意する。

《連絡先》

宮崎県総合農業試験場 病害虫防除・肥料検査課
(病害虫防除・肥料検査センター) 榎本・久野
TEL : 0985-73-6670 Fax : 0985-73-2127
ホームページ : <http://www.jpnp.ne.jp/miyazaki>
E-mail : byogaichu-hiryo@pref.miyazaki.lg.jp

6011-1604
令和3年11月29日

各関係機関の長
各病害虫防除員 殿

宮崎県病害虫防除・肥料検査センター所長

令和3年度病害虫防除情報第9号

冬春ピーマンの微小害虫について、各地域の発生状況を把握しながら適切な防除指導をお願いします。

**冬春ピーマンにおける微小害虫の発生が増加しています。
今後の発生に注意し、適切な防除を行いましょう。**

- 1 作物名 冬春ピーマン
- 2 病害虫名 微小害虫
(ミナミキイロアザミウマ、ヒラズハナアザミウマ、タバココナジラミ)

3 発生状況(経過)

11月中旬の巡回調査におけるミナミキイロアザミウマの発生量は平年よりやや多く、ヒラズハナアザミウマ、タバココナジラミの発生量は平年より多く、いずれの害虫も県内全域で発生がみられた(表1)。

表1 11月中旬巡回調査における各種害虫の発生状況

害虫種	発生面積率(%)				発生量(頭)*			
	本年	前年	平年	平年比	本年	前年	平年	平年比
ミナミキイロアザミウマ	50.0	0	35.4	並	1.9	0	1.3	やや多
ヒラズハナアザミウマ	91.7	72.8	52.7	多	21.8	8.4	8.5	多
タバココナジラミ	75.0	72.8	58.3	多	30.8	3.6	5.6	多

*ミナミキイロアザミウマ、ヒラズハナアザミウマは10花当たり虫数、タバココナジラミは100葉当たり虫数を示す。

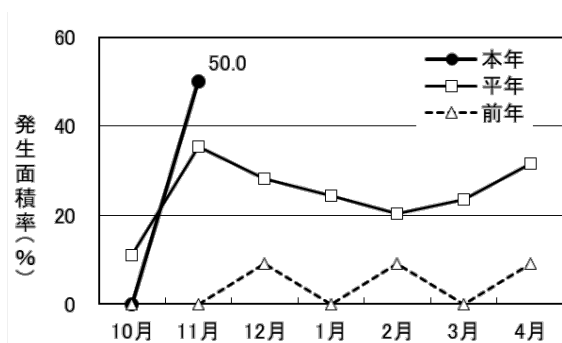


図1 ミナミキイロアザミウマの発生面積率

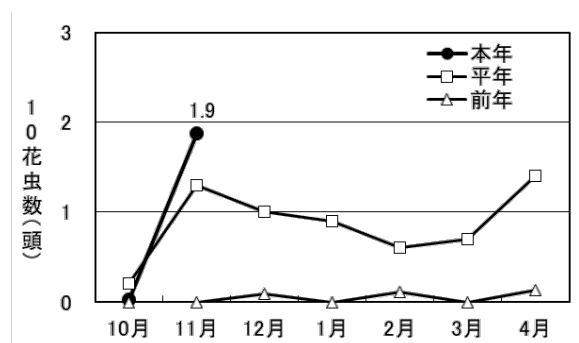


図2 ミナミキイロアザミウマの10花当たり虫数

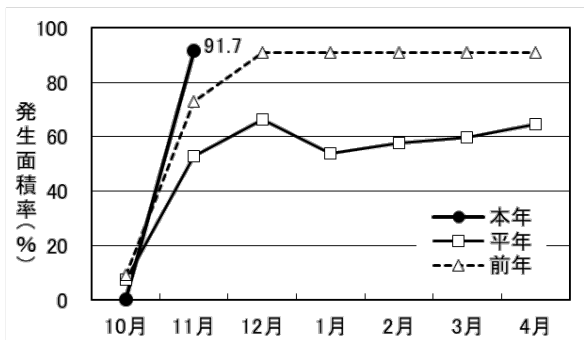


図3 ヒラズハナアザミウマの発生面積率

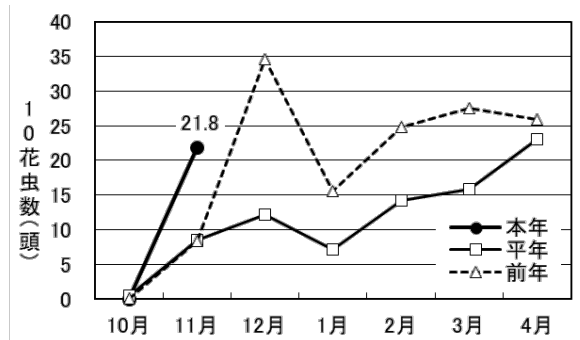


図4 ヒラズハナアザミウマの10花当たり虫数

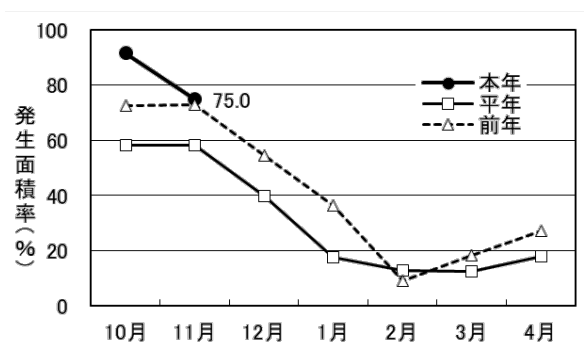


図5 タバココナジラミの発生面積率

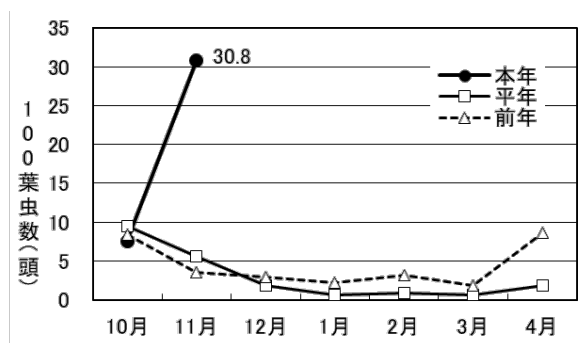


図6 タバココナジラミの100葉当たり虫数

4 防除上の注意

- (1) ミナミキイロアザミウマの成虫が10花当たり1頭程度寄生すると、販売等級格下げとなる果実が5%程度発生するので、発見したら早めに防除する。
- (2) ヒラズハナアザミウマは、花に存在し、花数が減少する時期が防除適期となるため、時期を逃さずに防除の徹底を図る。また、令和2年度の薬剤感受性検定の結果、ピーマンより採集したヒラズハナアザミウマは、複数薬剤に対する感受性の低下が確認されているため、薬剤の選択に留意する（令和2年度病害虫防除情報第7号）。
- (3) タバココナジラミは、特に下位葉が生息・増殖の場所となりやすいため、薬剤散布による防除とともに、不要な下位葉を除去することで密度低下を図る。
- (4) いずれの害虫も多発すると防除が困難になるため、低密度のうちに防除を実施し、薬剤散布後は防除効果に注意を払い、必要に応じて適宜追加防除を行う。
- (5) 天敵を導入している場合、それらに影響の少ない薬剤を選択して防除を行うこと。
- (6) 有効な薬剤に対する抵抗性の発達を回避する観点から、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を心がける。また、抵抗性発現の可能性が低い微生物農薬や物理的に窒息死させる気門封鎖剤を防除体系に組み込む。

《連絡先》

宮崎県総合農業試験場病害虫防除・肥料検査課
 (病害虫防除・肥料検査センター) 椎葉
 TEL: 0985-73-6670 FAX: 0985-73-2127
 E-mail: byogaichu-hiryo@pref.miyazaki.lg.jp

各関係機関の長 殿
各病害虫防除員

宮崎県病害虫防除・肥料検査センター所長

令和3年度病害虫防除情報第10号

冬春キュウリのウイルス病及びウイルスの媒介虫について、各地域の発生状況を把握しながら適切な防除指導をお願いします。

冬春キュウリにおいて、ウイルス病及びウイルスの媒介虫が増加しています。今後の発生に注意し、適切な防除を行いましょ。

- 1 作物名 冬春キュウリ
- 2 病害虫名 黄化えそ病 (MYSV)、ミナミキイロアザミウマ
退緑黄化病 (CCYV)、タバココナジラミ
- 3 発生状況 (経過)

(1) 1月中旬の巡回調査における黄化えそ病、退緑黄化病の発生面積率、発病株率は平年より多、媒介虫であるミナミキイロアザミウマ、タバココナジラミの発生面積率、100葉当たり虫数は平年よりやや多～多であった。

黄化えそ病 (MYSV)

発生面積率：50.0% (前年：7.1%、平年：20.0%) 平年より多
発病株率：1.1% (前年：0.1%、平年：0.3%) 平年より多

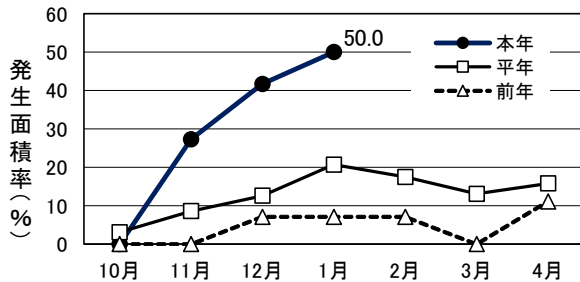


図1 黄化えそ病の発生面積率

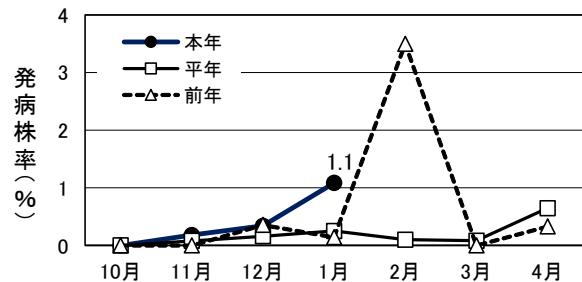


図2 黄化えそ病の発病株率

ミナミキイロアザミウマ

発生面積率：58.3% (前年：14.3%、平年：35.9%) 平年よりやや多
100葉当たり虫数：8.8頭 (前年：0.4頭、平年：6.4頭) 平年よりやや多

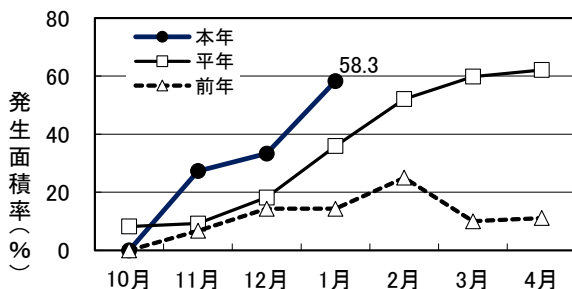


図3 ミナミキイロアザミウマの発生面積率

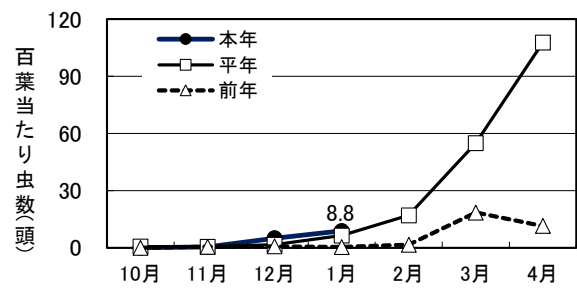


図4 ミナミキイロアザミウマの100葉当たり虫数

退緑黄化病 (CCYV)

発生面積率：58.3% (前年：35.7%、平年：16.5%) 平年より多
 発病株率：6.0% (前年：3.2%、平年：0.6%) 平年より多

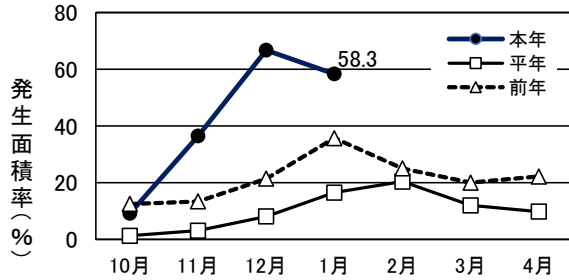


図5 退緑黄化病の発生面積率

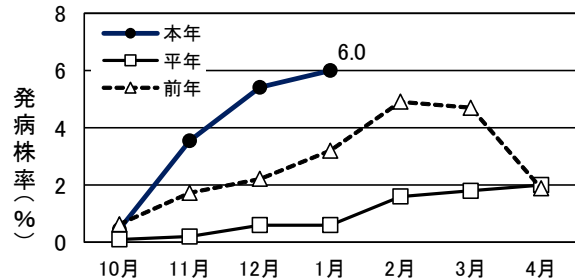


図6 退緑黄化病の発病株率

タバココナジラミ

発生面積率：33.3% (前年：21.4%、平年：24.7%) 平年よりやや多
 100葉当たり虫数：10.3頭 (前年：0.7頭、平年：1.2頭) 平年より多

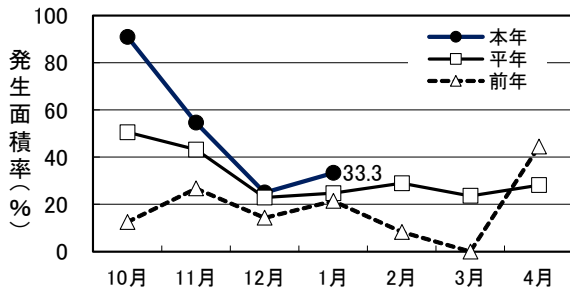


図7 タバココナジラミの発生面積率

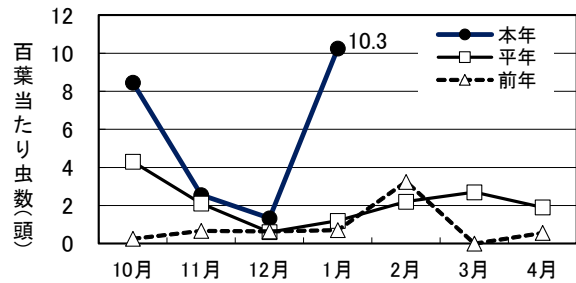


図8 タバココナジラミの100葉当たり虫数

4 防除上の注意

- (1) MYSVはミナミキイロアザミウマ、CCYVはタバココナジラミによって伝搬されるため、徹底した防除を行い密度低下に努める。
- (2) 施設内に有色粘着板を設置し、成虫を捕殺する。また、雑草は媒介虫の生息・増殖場所になるため、施設内及びほ場周辺の除草を徹底する。
- (3) 発病株は速やかに抜き取り、ほ場外に持出し適切に処分する。
- (4) 薬剤抵抗性の発達を防ぐため、同一系統薬剤の連用は避け、作用点の異なる薬剤のローテーション散布に努めるとともに、天敵や微生物殺虫剤を活用する。
- (5) 改植時の留意点
 - ①前作キュウリの栽培を終了する前に、殺虫剤散布を行い、媒介虫の密度低下に努める。
 - ②栽培が終了したらハウス内の除草を徹底するとともにキュウリを完全に抜根し、抜根後は蒸し込みを行う。
 - ③蒸し込み期間中は有色粘着板を設置し成虫を捕殺する。
 - ④後作キュウリの定植時には必ず粒剤もしくは灌注剤を施用する。
 - ⑤苗の購入の際には、病害虫の発生状況を十分確認する。また、苗の農薬散布履歴を確認し、育苗期に粒剤の施用がない場合には直ちに施用する。
 - ⑥低温時の土壌くん蒸剤の使用は薬害を生じやすいため、消毒期間を十分に確保する。また、薬剤の使用にあたってはラベル表示の確認を十分に行い、農薬使用基準を遵守する。

《連絡先》

宮崎県総合農業試験場病害虫防除・肥料検査課
 (病害虫防除・肥料検査センター) 椎葉
 TEL: 0985-73-6670 FAX: 0985-73-2127
 E-mail: byogaichu-hiryoo@pref.miyazaki.lg.jp

各関係機関の長 殿
各病害虫防除員

宮崎県病害虫防除・肥料検査センター所長

令和3年度病害虫防除情報第11号

冬春いちごのヒラズハナアザミウマについて、各地域の発生状況を把握しながら適切な防除指導をお願いします。

**冬春いちごにおいて、ヒラズハナアザミウマが増加しています。
今後の発生に注意し、適切な防除を行いましょ。**

- 1 作物名 冬春いちご
- 2 病害虫名 ヒラズハナアザミウマ
- 3 発生状況（経過）

- (1) 2月中旬の巡回調査におけるヒラズハナアザミウマの発生面積率は58.3%（平年13.0%）、寄生花率は8.0%（平年1.7%）、10花当たり虫数は2.2頭（平年0.4頭）で、いずれも平年より多であった（図1、2、3）。
- (2) 今後、気温の上昇に伴いハウス内の発生量及び野外からの飛び込み量が増加することが予想される。

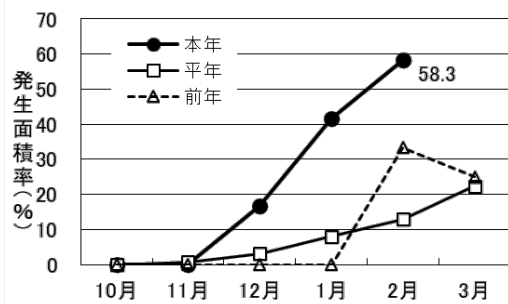


図1 巡回調査における発生面積率の推移

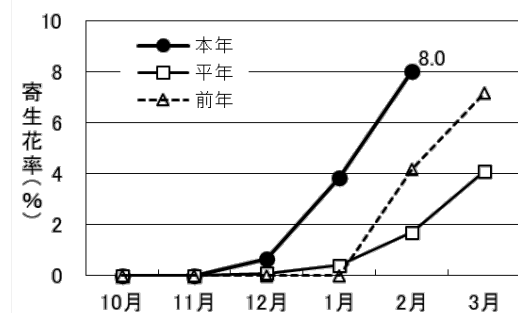


図2 巡回調査における寄生花率の推移

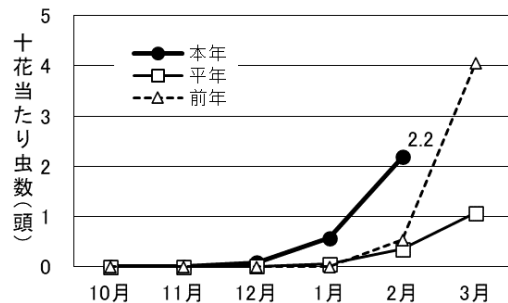


図3 巡回調査における10花当虫数の推移

4 防除上の注意

- (1) 本虫は花や果実に寄生し、食害されると果実品質が低下するため、早期発見に努め、成幼虫の寄生を発見したら早めに防除を行う。
- (2) 成虫の捕殺による密度抑制及び発生状況の把握を目的に、施設内に青色粘着板を

- 設置する。
- (3) 雑草は本虫の生育・増殖場所となるため、施設内及び施設周辺の除草を徹底する。
 - (4) 本虫が多発すると防除が困難になるため、発生初期からの防除を徹底するが、薬剤によっては感受性の低下が認められるため、薬剤の選定に注意する（表1）。
 - (5) 天敵及び授粉用ミツバチ（マルハナバチ等）に影響の少ない薬剤を選択して防除を行う。
 - (6) 有効な薬剤に対する抵抗性発現を回避する観点から、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を心掛ける。

表1 ヒラズハナアザミウマ雌成虫の各薬剤における補正死虫率（%）（2019～2021年）

薬剤名	IRAC コード	検定濃度 (倍)	採集年・場所				
			2019.5 Aほ場	2020.5 Bほ場	2020.5 Aほ場	2021.4 Bほ場	2021.5 Cほ場
アーデント水和剤	3A	1000	100	100	36	100	86
モスピラン顆粒水溶剤	4A	2000	60	32	42	58	39
スピノエース顆粒水和剤	5	5000	100	100	100	100	88
ディアナSC		2500	100	100	100	100	100
コテツフロアブル	13	2000	100	100	100	100	95
グレーシア乳剤	30	2000	94	91	92	91	96
ファインセーブフロアブル	34	1000	37	18	42	25	55
ベネビアOD	28	2000	57	3	34	43	21

検定はマンジャーセル法による薬液浸漬法を用いて行い、補正死虫率はAbbottの補正式*を用いて算出した。処理72時間後の結果を記載した。

*補正死虫率 = {(対照生存虫数 - 処理生存虫数) / 対照生存虫数} × 100

《連絡先》

宮崎県総合農業試験場病害虫防除・肥料検査課
 (病害虫防除・肥料検査センター) 椎葉
 TEL : 0985-73-6670 FAX : 0985-73-2127
 E-mail : byogaichu-hiryo@pref.miyazaki.lg.jp

2 特殊病虫害侵入警戒調査事業

1) ミバエ類侵入警戒調査

ミバエ類の侵入の危険性の高い地域（9地点）において、フェロモントラップ（ユーゲルアD8、メドフライコール）を設置し、ミバエ類の侵入警戒調査を実施した。また、中部・南那珂・児湯・東臼杵（南部・北部）の各農林振興局（普及センター）に委託し、気温が高い7～9月に計47地点で侵入警戒調査を実施した。

(1) 誘殺状況

トラップ設置場所	調査期間	誘殺数			調査機関
		チチュウカイ イミバエ	ミカンコ ミバエ	ウリミ バエ	
宮崎市 中部港湾事務所敷地内	4～12, 3月	0	0	0	防除・肥料センター
〃 総合農業試験場内果樹園	〃	0	0	0	〃
〃 清武町のミカン園	〃	0	0	0	〃
都農町 立野のミカン園	〃	0	0	0	〃
南郷町 谷之口のミカン園	〃	0	0	0	〃
日南市 東弁分のみかん園	〃	0	0	0	〃
日南市 大窪のみかん園	〃	0	0	0	〃
日向市 高森山のミカン園	〃	0	0	0	〃
門川町 牧山のミカン園	〃	0	0	0	〃
宮崎市 田吉 宮崎空港付近	〃	—	0	0	中部農林振興局
〃 青島 水産試験場内	〃	—	0	0	〃
〃 内海 守山神社付近	〃	—	0	0	〃
〃 内海 野島神社付近	〃	—	0	0	〃
〃 折生迫 青島小学校付近	〃	—	0	0	〃
日南市 油津港東岸壁手前公園	〃	0	0	0	南那珂農林振興局
〃 隈谷グラウンド付近	〃	0	0	0	〃
南郷町 虚空蔵島入口	〃	0	0	0	〃
〃 贄波神社境内	〃	0	0	0	〃
〃 亜熱帯作物支場入口	〃	0	0	0	〃
串間市 市木 石波海岸（幸島入口）	〃	0	0	0	〃
〃 宮之浦（漁港公園）	〃	0	0	0	〃
〃 都井港	〃	0	0	0	〃
〃 崎田（道路沿い雑木）	〃	0	0	0	〃
〃 新福島港	〃	0	0	0	〃
川南町 通浜（川南魚港周辺）	〃	—	0	0	児湯農林振興局
〃 〃	〃	—	0	0	〃
〃 〃	〃	—	0	0	〃

トラップ設置場所	調査期間	誘 殺 数			調査機関
		チチュウカイ イミバエ	ミカンコ ミバエ	ウリミ バエ	
川南町 〃	〃	—	0	0	児湯農林振興局
〃 〃	〃	—	0	0	〃
日向市 細島港みなとの森公園	〃	—	0	0	東臼杵農林振興局
門川町 庵川 庵川東公民館	〃	—	0	0	〃
〃 庵川 庵川神社	〃	—	0	0	〃
〃 尾末 門川漁協	〃	—	0	0	〃
〃 尾末 尾末神社	〃	—	0	0	〃
延岡市 浦城町 浦城養魚場付近旧道	〃	—	0	0	〃
〃 浦城町 浦城海水浴場付近	〃	—	0	0	〃
〃 須美江町須美江キャンプ場内	〃	—	0	0	〃
〃 熊野江 海水浴場	〃	—	0	0	〃
北浦町 下阿蘇オートキャンプ場付近	〃	—	0	0	〃
対象病害虫の調査総回数	チチュウカイイミバエ170回（10ヶ月×17か所） ウリミバエ・ミカンコミバエ780回（10ヶ月×月2回×39か所）				

(2) 調査結果

設置したフェロモントラップでは、対象ミバエ類の誘殺は確認されなかった。

(3) 令和2年度に誘殺のあった地点の初動対応について

ア.フェロモントラップの設置及び調査結果

フェロモントラップの設置

- ・発見地点から半径2km以内……17基（増設15基＋既設2基）
- ・発見地点から半径2～5km以内……6基（増設6基＋既設0基） 計23基設置

調査時期：令和2年8月17日～令和3年7月7日（誘殺確認日から3世代相当期間終了まで）

調査間隔

- ・発見地点から半径2km以内……調査開始後2週間は週2回、3～8週目は週1回、それ以降は2週間に1回実施。
- ・発見地点から半径2～5km以内……調査開始後8週間は週1回、それ以降は2週間に1回実施。

調査方法：各地点に誘引剤（増設トラップ：メチルオイゲノール単剤、既設トラップ：メチルオイゲノール・キュウルア混合剤）を入れたスタイナー型トラップを設置し、上記調査間隔で誘殺の有無を調査した。誘引剤は月1回交換した。

調査結果

上記調査期間の調査において、全てのトラップでミカンコミバエ種群の誘殺は確認されなかった。

2) アリモドキゾウムシ侵入警戒調査

6月～10月にかけて、アリモドキゾウムシの侵入危険性の高い地域（29地点）にトラップ（アリモドキルアーⅡ）を設置し、本虫の侵入警戒調査を実施した。また、中部・南那珂・北諸県・児湯の各農林振興局（普及センター）に委託し、気温が高い7～9月に計47地点で侵入警戒調査を実施した。

（1）誘殺状況

トラップ設置場所	設置場所及びその付近の 植栽状況等	調査期間及び 調査回数	誘殺数	調査機関
宮崎市 新別府町前浜	阿波岐原森林公園付近	6～10月 10回	0	防除・肥料センター
〃 港	中部港湾事務所敷地内	〃	0	〃
〃 山崎町上ノ原	甘藷畑	〃	0	〃
〃 田野町白砂坂上	甘藷畑	〃	0	〃
〃 田野町乙	甘藷畑	〃	0	〃
〃 塩路	甘藷畑	〃	0	〃
〃 佐土原町下田島	甘藷畑	〃	0	〃
都城市 横市町	甘藷畑	〃	0	〃
〃 関之尾町	甘藷畑	〃	0	〃
〃 丸谷町	甘藷畑	〃	0	〃
〃 山之口町五反田	甘藷畑	〃	0	〃
都城市 山田町菓子野	甘藷畑	〃	0	〃
〃 〃 牧原	甘藷畑	〃	0	〃
〃 〃 山田	甘藷畑	〃	0	〃
〃 〃 山田	甘藷畑	〃	0	〃
三股町 宮村	甘藷畑	〃	0	〃
西都市 茶臼原	甘藷畑	〃	0	〃
〃 〃	甘藷畑	〃	0	〃
〃 〃	甘藷畑	〃	0	〃
新富町 日置池田	ヒルガオ自生地	〃	0	〃
〃 日置五丁野池	甘藷畑	〃	0	〃
川南町 川南	甘藷畑	〃	0	〃
高鍋町 南高鍋蚊口浦	酒造工場付近	〃	0	〃
〃 持田	甘藷畑	〃	0	〃
日南市 南郷町榎原	甘藷畑	〃	0	〃
串間市 大字奈留	甘藷畑	〃	0	〃
〃	甘藷畑	〃	0	〃
串間市 大字奈留(大東原)	甘藷畑	〃	0	〃
〃	甘藷畑	〃	0	〃

トラップ設置場所	設置場所及びその付近の 植栽状況等	調査期間及び 調査回数	誘殺数	調査期間
宮崎市 青島	県水産試験場	7～9月 6回	0	中部農林振興局
〃 大字郡司分	県消防学校	〃	0	〃
〃 大字恒久	県立宮崎農業高等学校	〃	0	〃
〃 佐土原町下田島	宮崎市佐土原総合支所	〃	0	〃
宮崎市 田野町甲	宮崎市田野総合支所	〃	0	〃
〃 高岡町内山	宮崎市高岡総合支所	〃	0	〃
国富町 大字岩知野	中部農業改良普及センター	〃	0	〃
〃 大字深年高田原	菊田製茶工場横	〃	0	〃
綾町 大字南俣	綾町有機農業開発センター	〃	0	〃
日南市 大字風田	風田国道220号線沿	7～9月 6回	0	南那珂農林振興局
〃 油津	油津港	〃	0	〃
〃 大堂津	大堂津港	〃	0	〃
〃 南郷町	目井津港	〃	0	〃
串間市 大字奈留	J A大東集荷場	〃	0	〃
〃 〃	J A大東育苗センター	〃	0	〃
〃 〃	アオイファーム	〃	0	〃
串間市 〃	仲別府公民館	〃	0	〃
〃 大平	J A大東集荷場	〃	0	〃
〃 大字北方	酒造会社付近	〃	0	〃
〃 大字西方	J Aはまゆう集荷場	〃	0	〃
〃 〃	酒造会社付近	〃	0	〃
〃 大字南方	福島港	〃	0	〃
〃 〃	福島港 串間第4児童公園	〃	0	〃
〃 大字都井	毛久保港	〃	0	〃
都城市 高木町	北諸県農業改良普及センター	6～9月 6回	0	北諸県農林振興局
〃 山田町	J A山田支所	〃	0	〃
〃 山田町	かかし館付近	〃	0	〃
〃 山田町	茶園付近	〃	0	〃
〃 乙房町	茶園付近	〃	0	〃
〃 〃	牧之原・月野原給水スタンド	〃	0	〃
〃 養原町	五十市給水スタンド	〃	0	〃
〃 平塚町	茶園付近	〃	0	〃
〃 大岩田	旧医師会病院付近	〃	0	〃

トラップ設置場所	設置場所及びその付近の 植栽状況等	調査期間及び 調査回数	誘殺数	調査期間
〃 梅北町	かんしょほ場	6～9月 6回	0	北諸県農林振興局
都城市 〃	アグリセンター茶園付近	〃	0	〃
小林市 北西方	北ノ原	6～9月 6回	0	西諸県農林振興局
〃 南西方	南が丘	〃	0	
〃 野尻町	三ヶ野山	〃	0	〃
えびの市 大明司		〃	0	〃
〃 末永	田代	〃	0	〃
西都市 大字茶臼原	畜舎付近	〃	0	〃
〃 大字三宅 寺原	西都市運動公園付近	6～9月 6回	0	児湯農林振興局
〃 都於郡町	都於郡地区南体育館付近	〃	0	〃
新富町 大字新田 十文字	春日神社付近	〃	0	〃
高鍋町 大字上江	いちご園付近	〃	0	〃
〃 大字小並	小並バス停付近	〃	0	〃
対象病虫害の調査総回数	572回（5ヶ月×月2回×29か所+3ヶ月×月2回×47か所）			

（２）調査結果

アリモドキゾウムシの本県への侵入は認められなかった。

3) イモゾウムシ侵入警戒調査

10月25、26日に都城市（20ほ場）、串間市（18ほ場）で、収穫終了後の甘藷ほ場において1ほ場当たり50本程度の収穫残渣を切開及び目視により食害痕等を調査した（調査総回数38回（38か所））。

いずれの地域においてもイモゾウムシの本県への侵入は認められなかった。

4) ミカンキジラミ侵入警戒調査

4月～11月において、県内のかんきつ園地18ほ場で調査したが、発生は確認されなかった（調査総回数144回（8ヶ月×18か所））。

3 その他の調査、検定等

1) BLASTAMによる葉いもちの発生好適条件の判定と現地の発生状況

発生指標	? : 判定不能	- : 好適条件なし	4 : 準好適条件4	3 : 準好適条件3	2 : 準好適条件2	1 : 準好適条件1	● : 好適条件
------	----------	------------	------------	------------	------------	------------	----------

(早期水稲)

	宮崎	油津	串間	日向	高鍋	西都
4月4日	—	—	—	—	1	—
4月5日	—	—	—	4	4	4
4月18日	—	—	—	3	—	—
4月25日	—	—	3	—	—	—
4月28日	1	—	1	1	1	1
4月29日	4	4	1	1	4	1
5月15日	●	●	—	1	1	●
5月18日	—	—	—	—	—	4
5月19日	—	—	—	●	—	—
5月22日	—	●	●	—	4	4
6月3日	●	●	●	4	—	—
6月4日	—	—	—	—	—	—
6月5日	—	—	—	●	●	●
6月6日	●	—	—	●	●	●
6月7日	—	●	4	—	—	—
6月12日	—	—	—	●	●	—
6月14日	●	●	—	—	●	—
6月16日	—	—	—	●	—	●
6月17日	—	●	—	4	4	●
6月18日	—	—	—	—	—	—
6月19日	●	—	—	●	●	●
6月20日	—	—	—	—	●	—
6月27日	●	—	—	●	●	●
6月28日	—	—	—	●	4	—
7月1日	●	—	—	—	●	●
7月2日	●	—	—	—	—	—
7月3日	—	—	—	●	—	—
7月9日	—	—	—	—	3	—
7月11日	—	—	—	2	—	—
7月14日	—	—	—	—	—	2
7月15日	—	—	—	2	—	—
7月17日	—	—	2	—	—	—
7月18日	—	—	2	—	—	—
7月22日	—	—	—	●	—	—
7月23日	—	—	—	—	3	—
7月25日	—	—	—	—	3	—
7月26日	—	—	—	—	2	2

調査地点の発病株率の推移(7月中旬は発病穂率)

	宮崎	日南	串間	日向	高鍋	西都
5月中旬	0	0	/	0	/	0
6月中旬	0.0	0		0		0.3
6月下旬	8.7	3.3		0		24.7
7月中旬	1.2	0.0		0		0.2

(普通期水稻)

	高千穂	鞍岡	延岡	神門	加久藤	小林	宮崎	都城
6月3日	4	4	—	—	—	—	●	—
6月6日	—	—	4	3	3	3	●	4
6月12日	●	—	●	—	—	●	—	—
6月14日	●	—	—	—	●	—	●	—
6月15日	—	●	—	—	—	—	—	—
6月16日	—	—	—	●	—	—	—	—
6月17日	●	●	—	●	—	●	—	—
6月19日	—	—	●	●	—	●	●	●
6月24日	—	—	—	—	—	—	—	●
6月27日	—	—	—	—	4	●	●	●
6月28日	—	4	●	●	●	—	—	—
6月29日	●	—	—	—	—	—	—	●
7月1日	—	—	●	●	—	●	●	—
7月2日	—	●	—	●	—	—	●	—
7月3日	—	●	—	—	●	●	—	—
7月5日	●	—	—	—	—	—	—	—
7月12日	—	—	—	—	●	—	—	—
7月13日	—	●	—	—	●	—	—	2
7月16日	—	—	—	●	●	—	—	—
7月17日	—	●	—	—	—	—	—	—
7月19日	—	●	—	—	●	●	—	—
7月22日	—	●	—	—	—	—	—	—
7月23日	●	●	—	—	—	—	—	2
7月24日	●	●	—	●	2	—	—	2
7月25日	—	—	—	●	—	—	—	2
7月26日	●	—	2	●	—	—	—	—
8月2日	—	●	—	2	—	—	—	—
8月7日	—	●	—	—	—	2	—	2
8月14日	—	●	2	—	—	—	—	—
8月15日	—	—	—	●	—	—	—	—
8月16日	—	●	●	●	—	—	—	2
8月17日	●	●	●	●	—	—	2	—
8月19日	4	—	—	—	—	—	—	●
8月20日	—	●	●	—	—	—	●	—
8月21日	●	●	—	—	—	●	●	—
8月22日	—	—	●	●	—	—	—	●
8月23日	—	●	—	—	—	●	—	—
8月24日	●	—	—	—	—	—	—	—
8月27日	—	●	—	—	—	—	—	—

調査地点の発病株率の推移(9月中旬は発病穂率)

	高千穂	五ヶ瀬	延岡	東郷	えびの	小林	国富	都城
6月中旬	0	0	0	0	0	0	0	0
7月中旬	1.0	0.0	0	50.0	0	6.0	0	0.0
7月下旬	6.0	14.0	0.0	70.0	0	44.0	0	4.0
8月中旬	44.0	10.0	8.0	22.0	0.0	50.0	4.0	10.0
8月下旬	11.0	12.0	0.0	12.0	0	23.0	8.0	4.0
9月中旬	1.9	6.3	0.2	1.6	0.8	1.7	1.0	0.3

2) 斑点米カメムシ類の発生状況調査

イタリアンライグラスでの斑点米カメムシ類の発生状況(6月)

※20回振り/1地点

地域名	地点数	ミナミアオカメムシ①			クモヘリカメムシ②			ホソハリカメムシ③		
		成虫	幼虫	合計	成虫	幼虫	合計	成虫	幼虫	合計
中部	23	0.0	12.0	12.0	2.0	0.0	2.0	6.0	4.0	10.0
南那珂	12	3	0	3	2	0	2	31.0	9.0	40.0
児湯	14	0	3.0	3.0	14.0	1.0	15.0	12.0	4.0	16.0
東臼杵	6	1	0	1	11.0	1	12.0	7.0	0.0	7.0
全 県 平 均	55	0.3	0.4	0.7	11.6	0.0	11.6	3.2	0.3	3.5

地域名	地点数	シラホシカメムシ④			アカスジカスミカメ⑤			4種合計(① +②+③+④)	4種平年値
		成虫	幼虫	合計	成虫	幼虫	合計		
中部	23	2.0	3.0	5.0	124.0	244.0	368.0	29.0	6.2
南那珂	12	0	0	0	73.0	72.0	145.0	45.0	10.5
児湯	14	0	2.0	2.0	229.0	151.0	380.0	36.0	12.3
東臼杵	6	0.0	0	0.0	80.0	49.0	129.0	20.0	14.5
全 県 平 均	55	0.2	0.1	0.3	33.9	19.2	53.1	16.2	8.2

数値を小数点第2位で四捨五入しているため、合計数値が一致しない場合があります。

3) ヒノキ毬果口針鞘数による果樹カメムシ類離脱予測

番号	普及センター名	採取場所	採取日	平均 口針鞘数	離脱予想日	飛来日	備考
1	中部	宮崎市高岡町 (高浜)	7月21日	0	9月4日	9月6日	
2	南那珂	日南市(大窪)	8月6日	0.1	9月20日	飛来なし	
3	西諸県	小林市	7月28日	0.1	9月11日	9月14日	
4	防除センター	新富町	7月26日	12.1	8月4日	8月7日	
5	防除センター	都農町	7月26日	0.1	9月9日	9月20日	
6	防除センター	日向市	7月26日	0.0	9月9日	9月9日	
7	防除センター	延岡市	7月28日	4.6	9月2日	8月24日	

4) サツマイモ基腐病に関する調査

1 調査目的

2018年度から問題となっているサツマイモ基腐病について、防除対策を確立するため、県内の主要なサツマイモ産地において、栽培期間を通じた定点調査を行い、発生病象を明らかにする。また、収量や貯蔵への影響についても明らかにする。

2 調査内容

- 1) 発生病象調査
- 2) 収穫物及び収量調査
- 3) 貯蔵調査
- 4) 聞き取り調査

3 各調査方法

1) 発生病象調査

(1) 調査地域及びほ場数

南那珂地域：3ほ場（青果用）・・・令和元年度から継続

北諸県地域：2ほ場（原料用、青果用）・・・令和2年度から継続

(2) 調査期間及び調査間隔

令和3年5月～9月、約2週間間隔

(3) 調査株数

1ほ場当たり50株×2か所の計100株を調査。

(4) 調査方法

基部黒変及びつる黒変症状の有無を調査し、下記の発病程度別に発病株率を算出。

発病程度：健全、株元発病株、つるのみ発病株、地上部完全枯死株

2) 収穫物及び収量調査

基腐病の発生が確認されたほ場において、収穫前に地上部の発病程度別に5株ずつ掘取り、出荷可能イモ割合や推定収量を算出した。腐敗がみられるものや発芽イモは出荷不可、腐敗がないものやしょ梗が変色している程度のイモは出荷可能とした。

3) 貯蔵調査

南那珂地域の調査ほ場において、地上部が健全な株を5株ずつ掘取り、外観が健全であると判断したイモを農業試験場内のインキュベーター（温度：15℃、湿度：70%）で4ヶ月間貯蔵し、1か月ごとに腐敗の有無を調査した。なお、調査時に外観に異常がみられるイモは切断し、腐敗状況を確認後、健全なものだけを再度貯蔵した。

4) 聞き取り調査

調査ほ場生産者に対し、サツマイモ基腐病対策マニュアルの各項目の実践状況について聞き取りを行った。

4 結果

1) 発生病消長調査

- (1) 南那珂地域では、3月中旬に定植したほ場で、5月中旬（定植後約60日）に基腐病の初発を確認した（図1）。
- (2) その後6月下旬頃までは、病勢の進展は緩やかで発病株率は漸増する様相であった。しかし、7月中旬以降、降水量の増加に伴い発病が徐々に拡大し、つるのみ発病株や地上部完全枯死株も確認されるようになった。7月中旬には発病株率が19～50%、甚発生ほ場（生産者Aほ場）では8月下旬（収穫前）に95%に達した（図1）。
- (3) 北諸県地域では、7月中旬に基腐病の初発を確認し、8月上旬頃からつるのみ発病株が確認され、収穫前の発病株率は4～13%となった（図2）。

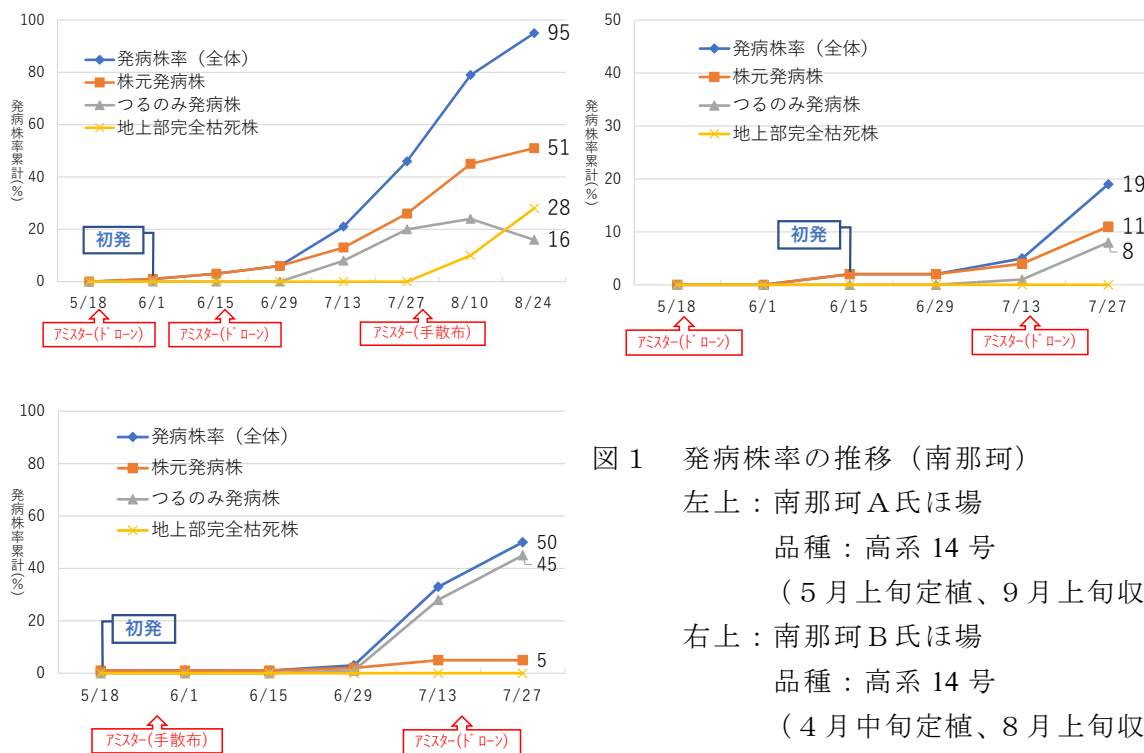


図1 発病株率の推移（南那珂）
 左上：南那珂A氏ほ場
 品種：高系14号
 （5月上旬定植、9月上旬収穫）
 右上：南那珂B氏ほ場
 品種：高系14号
 （4月中旬定植、8月上旬収穫）
 左下：南那珂C氏ほ場
 品種：高系14号
 （3月中旬定植、7月下旬収穫）

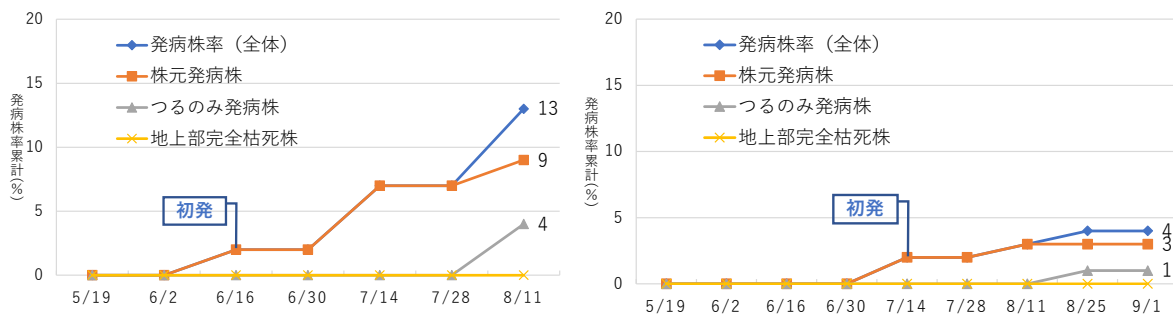


図2 発病株率の推移（北諸県）

左：北諸県D氏、品種：コガネセンガン（4月中旬定植、8月中旬収穫）

右：北諸県E氏、品種：紅はるか（4月中旬定植、9月中旬収穫）

2) 収穫物及び収量調査

- (1) 発病程度別に掘取りを行い、出荷可能イモと出荷不可イモの割合を調査した結果、株元発病株及び地上部完全枯死株では、出荷不可イモの割合が多く、収量への影響が大きかった。一方、つるのみ発病株では、ほとんどが出荷可能イモであり、収量への影響は小さかった（図3）。
- (2) 南那珂A氏ほ場では、最終発病株率が95%で、株元発病株及び地上部完全枯死株の割合が高く、発芽もしくは腐敗しているイモ（出荷不可能イモ）が多かったため、減収率は35%（経営指針比）となった。また、南那珂B氏及びC氏は、発病はみられたものの、収量への影響が大きい株元発病株の割合が低く抑えられており、経営指針の目標収量にはわずかに及ばなかったが、減収率は3～4%に抑えられた（表1）。
- (3) 北諸県地域では、発病はみられたものの、収穫時に出荷不可イモはみられず、基腐病による減収はほとんどなかったと考えられる（表1）。

表1 収量及び減収率

地域名	生産者名	定植日	収穫日	最終発病株率(%)	坪堀収量(kg/10a)	減収率(%)※
南那珂地域	A	5月上旬	9月上旬	95	1,619	35
	B	4月中旬	8月上旬	19	2,410	4
	C	3月中旬	7月下旬	50	2,434	3
北諸県地域	D	4月中旬	8月中旬	13	4,281	—
	F	4月中旬	9月中旬	4	3,114	—

※経営指針収量（青果用普通堀：2,500kg/10a、原料用普通堀：4,000kg/10a）より算出。
基腐病以外の減収要因は想定しない。

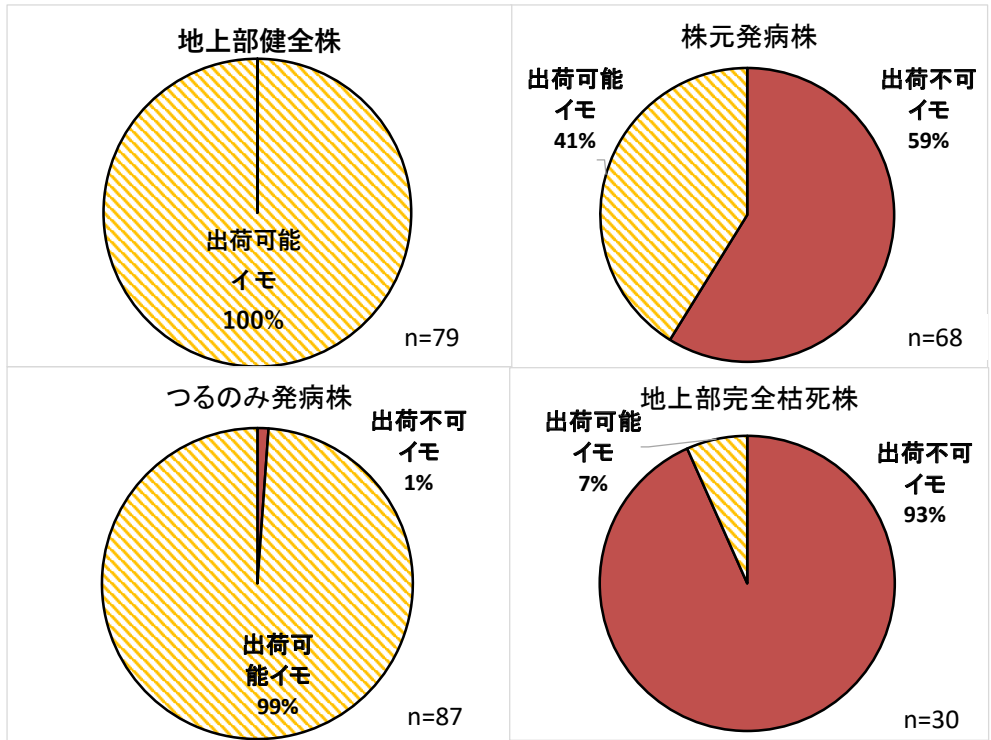


図3 地上部発病程度別イモの出荷可能割合（南那珂A氏、B氏及びC氏の合計）

3) 貯蔵調査

南那珂A氏、B氏及びC氏ほ場から採集した健全なイモをインキュベーターで貯蔵した結果、ほ場での発病が多いほど、腐敗率が高くなる傾向がみられ、南那珂A氏では、貯蔵1ヶ月後から基腐病による腐敗がみられ、貯蔵4ヶ月後には腐敗率は2割程度となった（図4）。このことから、基腐病が確認されたほ場では、収穫時は外観が健全なイモであっても、潜在感染している可能性が示唆された。

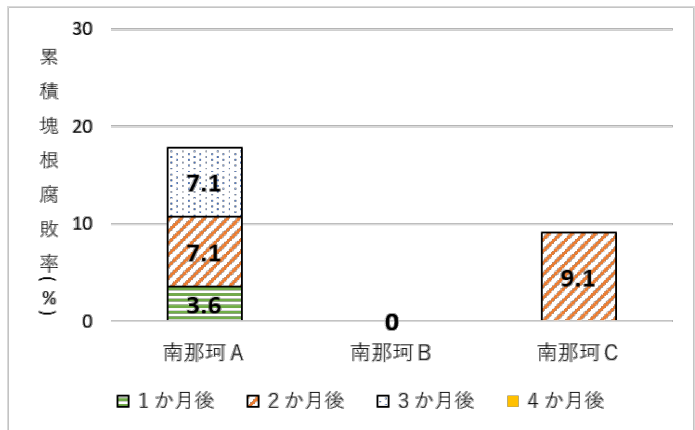


図4 インキュベーター貯蔵による健全イモの腐敗状況調査結果

4) 聞き取り調査

調査ほ場生産者に対し、サツマイモ基腐病対策マニュアルの各項目の実践状況について聞き取りを行った。実践率が低い南那珂A氏では、発病株率が高い傾向で推移しているのに対し、実践率が高い南那珂B氏及びC氏では、年々発病が抑えられている（表2、図5）。このことから、対策を着実に実施すれば、基腐病の発生が抑制されることが確認できた。

表2 対策マニュアルの実践状況と基腐病の被害

育苗圃の対策		南那珂地域					北諸県地域						
		A氏	B氏	C氏	D氏	E氏	本圃の対策		南那珂地域			北諸県地域	
		A氏	B氏	C氏	D氏	E氏			A氏	B氏	C氏	D氏	E氏
実践項目	残渣の持ち出し	○	○	○	×	×	実践項目	作型の前進化（早植え）	×	○	○	○	×
	残渣の分解	△	○	○	○	○		畦の残渣放置なし	×	○	○	○	○
	土壌消毒	○	○	○	×	×		農業機械・資材消毒	×	○	○	×	×
	土壌消毒の被覆	×	○	×	×	×		発病程度による作業の順番	×	○	×	×	×
	種芋選別	△	○	○	○	○		土壌消毒	○	○	○	△	△
	種芋消毒	○	○	○	○	○		排水対策（明渠、排水路確保）	○	○	○	○	○
	靴の履き替えor消毒	×	○	○	×	×		枕未設置or枕排水対策	△	○	○	○	○
	5cm以上苗採り	×	×	×	×	○		発病株の抜き取り	×	○	○	△	×
	ハサミ消毒	×	○	○	△	×		薬剤 Zボルドー	×	○	○	×	×
	苗消毒	○	○	○	○	○		散布 アミスター	○	○	○	×	×
育苗圃での項目実践率（%）		40	90	80	40	50	残渣の持ち出し		×	○	○	×	×
育苗圃での発生		約10%	1% 未済	無	10% 未済	1% 未済	残渣分解		△	○	○	○	○
		※○：適切に実施、△：不適切な実施、×：実施していない					対策マニュアルの全項目の実践率（%）		19.0	95.5	86.4	40.9	40.9
							本圃の発病株率（%）		95	19	50	13	4
							うち基部発病株率（%）		79	11	5	9	3

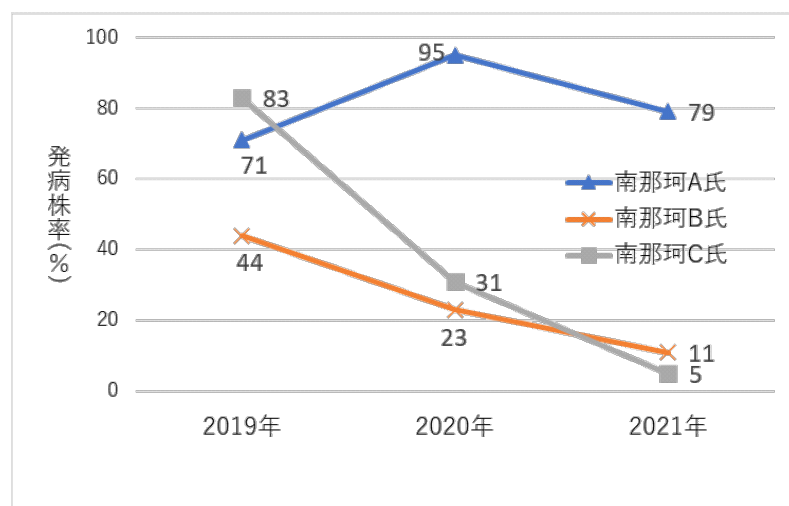


図5 南那珂地域調査ほ場の発病株率年次推移
（※発病株率は株元発病株と完全枯死株の合計）

5) 令和3年(2021年)におけるツマジロクサヨトウの発生状況

ツマジロクサヨトウは、令和元年7月に県内で初めて確認され、飼料用トウモロコシを中心に幼虫による食害が問題となっている。

令和3年における、県内6地点(宮崎市佐土原町、宮崎市田野町、都城市関之尾町、三股町蓼池、新富町新田、西都市茶臼原)に設置したフェロモントラップによる発生活長調査では、前年より約1ヶ月遅い5月19日(前年:4月14日)に初めて誘殺が確認された。その後、前年とほぼ同時期である12月8日(前年:12月9日)まで誘殺が確認された。令和3年の調査においては、初誘殺が確認された5月より継続して誘殺が確認され、8月下旬より誘殺頭数が増加し、頭数の増減を繰り返しながら10月下旬までまとまった誘殺が確認され、その後12月まで断続的に誘殺が確認された(図1)。これは、令和2年に確認された発生活長と概ね一致していた(図2)。各地点における誘殺頭数は前年と比べて少なかった(図3、表1)。

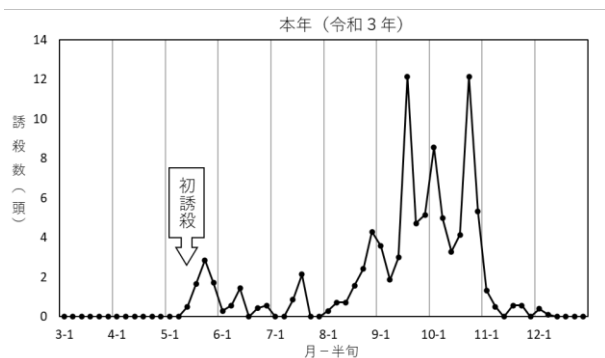


図1 誘殺状況(令和3年/6地点合計)

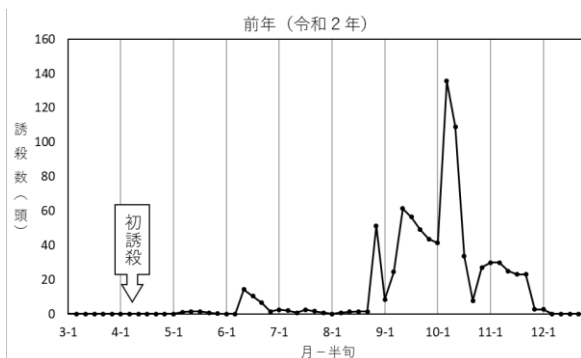


図2 誘殺状況(令和2年/6地点合計)

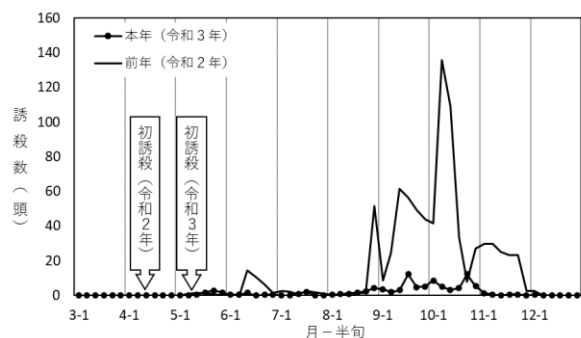


図3 本年及び前年の誘殺状況(6地点合計)

表1 各地点のトラップ誘殺数(4月~12月)

	宮崎市 佐土原町	宮崎市 田野町	都城市 関之尾町	三股町 蓼池	新富町 新田	西都市 茶臼原	合計
本年 誘殺数(頭)	20	2	11	6	24	34	97
前年 誘殺数(頭)	62	29	234	38	283	189	835

6) タバココナジラミの薬剤感受性検定

1. 目的

タバココナジラミは、植物病原ウイルスの媒介虫として知られており、微小で早期発見が難しいうえ繁殖が旺盛であり、一度多発すると防除が難しいとされる。また、平成 17 年には、農薬が効きにくいとされるバイオタイプ Q の侵入が確認され、現在も複数の作物で問題となっている。

近年、国内において、タバココナジラミ(バイオタイプ Q)の薬剤感受性の低下が報告されているが、宮崎県におけるタバココナジラミの薬剤感受性については平成 28 年にキュウリより採集した個体群で調査されて以降確認されていない。タバココナジラミは、経済的被害が非常に大きいトマト黄化葉巻病や、本年県内で新たに発生が確認されたトマト黄化病の媒介虫であることから、本試験では県内の冬春トマト栽培ほ場から採集したタバココナジラミの薬剤感受性を明らかにする。

2. 方法

1) 供試個体群

供試したタバココナジラミは令和 3 年 5 月 31 日に県内冬春トマト栽培ほ場より採集した。その後ピーマンを与えて 25℃、16L 8D の条件で累代飼育し、令和 3 年 8 月 20 日に検定に使用した。各個体群につき 30 個体を遺伝子診断した結果、全てバイオタイプ Q であった。

2) 検定手法

供試薬剤：8 薬剤を供試した(表 1)。各薬剤は登録濃度のうち最高濃度で検定を行った。

検定方法：マンジャーセル法によるインゲン葉片を用いた植物体浸漬法により行った。

検定手順：各供試薬剤は予め展着剤トリトン X-100 (0.05%) を添加した水道水で希釈した。直径約 50mm の円形に打ち抜いたインゲン葉を約 10 秒間浸漬し風乾後、インゲン葉の葉裏を上向きにし、穴あき板を上から被せ、両端をクリップで止め、穴の中に成虫を放飼後、25℃、16L8D の定温器内に静置した。120 時間後に死亡虫数を調査し、Abbot の補正式*により補正死虫数を算出した。各薬剤区の検定個体数は 1 処理につき約 20 頭の 3 反復で実施した。

*Abbott の補正式：補正死虫率(%)= $\{(無処理生存率 - 処理生存率) / 無処理生存率\} \times 100$

3. 結果の概要

2 個体群の薬剤への感受性は概ね同じ傾向を示した。ニテンピラム水溶剤、スピネトラム水和剤、レピメクチン乳剤、フルキサメタミド乳剤は補正死虫率 100%で、高い効果が認められた。ジノテフラン水溶剤、ピリフルキナゾン水和剤、シアントラニリプロール水和剤についても補正死虫率は 70%を上回り、高い効果が認められた。今回の検定ではタバココナジラミ成虫の薬剤感受性の低下は確認されなかった。

表1 タバココナジラミ成虫の補正死虫率

検定薬剤					採集作物・場所・年			
					キュウリ*		トマト (大玉)	
一般名	商品名	系統	IRAC コード	検定 濃度	綾町 2015年	宮崎市 2016年	新富町 2021年	都農町 2021年
1 ニテンピラム水溶剤	ベストガード水溶剤	ネオニコチノイド系	4A	1000	100	98.0	<u>100</u>	<u>100</u>
2 ジノテフラン水溶剤	スタークル顆粒水溶剤	ネオニコチノイド系	4A	2000	85.4	100	87.7	78.4
3 スピネトラム水和剤	ディアナSC	スピノシン系	5	2500	100	100	<u>100</u>	<u>100</u>
4 レビメクチン乳剤	アニキ乳剤	ミルベマイシン系	6	1000	66.4	83.0	<u>100</u>	<u>100</u>
5 ビリフルキナゾン水和剤	コルト顆粒水和剤	ピリジン アゾメチン誘導体	9B	4000	100	100	77.3	<u>98.1</u>
6 シアントラニプロール水和剤	ベネビアOD	ジアミド系	28	2000	100	94.0	87.7	<u>92.7</u>
7 フルキサメタミド乳剤	グレーシア乳剤	イソオキサゾリン系	30	2000	-	-	<u>100</u>	<u>100</u>
8 ビリダベン水和剤	サンマイトフロアブル	METI剤	21A	1000	94.0	94.7	-	-

*キュウリにおける2個体群については平成28年度、総合農業試験場生物環境部で実施（平成28年度病害虫関係試験成績より）
処理後120時間後の生死虫数を計数、Abbottの補正式を用いて補正死虫率を算出。

7) ヒラズハナアザミウマの薬剤感受性検定

1 目的

近年、ヒラズハナアザミウマによるピーマン及びイチゴ果実の被害が問題となっている。前年までの調査において、いくつかの薬剤に対する感受性低下が明らかとなっており、今後の効率的な防除のため、継続しての調査が必要であると考えられた。本検定により、令和3年産冬春ピーマン及び冬春イチゴから採集したヒラズハナアザミウマの薬剤感受性を明らかにする。

2 方法

1) 供試虫

令和3年産冬春ピーマン（栽培期間：令和2年9月～令和3年6月）及び冬春イチゴ（栽培期間：令和2年9月～令和3年5月）より採集したそれぞれ2個体群の雌成虫を供試した。感受性検定は採集翌日に実施した。

2) 供試薬剤

ピーマン及びイチゴに登録のある9剤を供試した（表1、表2参照）。

3) 薬剤感受性検定

検定法：マンジャーセル法によるインゲン葉片を用いた植物体浸漬法。

検定手順：各供試薬剤は予め展着剤トリトン X-100 (0.05%) を添加した水道水で希釈。直径約50mmの円形に打ち抜いたインゲン葉を約10秒間浸漬し風乾後、インゲン葉の葉裏を上向きにし、穴あきアクリル板を上から被せ、穴の中に成虫を放飼後、蓋とともに四方をクリップで止め、接種面を上向きにして25°C、16L8Dの定温器内に静置した。72時間後に死亡虫数を調査し、Abbottの補正式により補正死虫数を算出した。また、苦悶虫は死亡虫とした。

各薬剤区の検定個体数は1処理につき11から25頭の3反復で実施した。

3 結果の概要

1) ピーマン採集個体群

ピーマンより採集したヒラズハナアザミウマの国富町B個体群に対して、スピノサド水和剤、スピネトラム水和剤、クロルフェナピル水和剤及びアクリナトリン水和剤の補正死虫率は85%以上で高い効果が確認された。ニテンピラム水溶剤及びシアントラニリプロール水和剤はそれぞれ56%、53%であり、その他の剤では20%を下回った。宮崎市A個体群に対しては最も効果の高かったクロルフェナピル水和剤の補正死虫率が66%であり、その他の剤では、すべて補正死虫率40%以下となった（表1）。

2) イチゴ採集個体群

スピネトラム水和剤、クロルフェナピル水和剤及びフルキサメタミド乳剤は宮崎市C個体群、川南町D個体群の両個体群に対して90%以上の高い殺虫効果が認められた。アクリナトリン水和剤及びスピノサド水和剤は、川南町D個体群に対して100%の殺虫効果が認められ、宮崎市C個体群ではそれぞれ86%、88%であった。

アセタミプリド水溶剤、フロメトキン水和剤、シアンニトラニリプロール水和剤は、供試した

2 個体群ともに、補正死虫率が 60%未満であった（表 1）。

3) 総括

調査の結果、ピーマンから採集した 2 個体群では、複数の剤に対する感受性の低下が確認され、その傾向については、個体群によって差が大きいことが明らかとなった。今回、ヒラズハナアザミウマを採集した宮崎市ほ場では、天敵を利用せずにヒラズハナアザミウマに対して薬剤のみの防除を実施する防除体系であった。国富町のピーマンほ場ではスワルスキーカブリダニを導入し、併せて定期的な薬剤散布を実施していた。国富町 B 個体群に対して効果の高かった 4 剤はいずれもスワルスキーカブリダニへ影響があるため、栽培期間中の散布が困難であることが 2 つの個体群の感受性に差をもたらしている可能性が考えられる。

一方、イチゴ個体群は、ピーマン個体群と比べて多くの薬剤が高い効果を示し、採集作物によっても、感受性に差異がある結果となった。イチゴでは受粉にミツバチを導入していることから、3 月頃までヒラズハナアザミウマ対象の防除は行われていなかった。そのため、薬剤防除回数の違いが、ピーマンとイチゴ個体群の感受性の差に影響を及ぼしたと考えられる。

表 1 2020-2021 年ヒラズハナアザミウマ雌成虫の補正死虫率 (%)

一般名	商品名	系統	IRAC コード	検定濃度 (倍)	採集年・場所・作物ごとの補正死虫率			
					2020.12 宮崎市 A	2020.12 国富町 B	2021.5 宮崎市 C	2021.4 川南町 D
					ピーマン	ピーマン	イチゴ	イチゴ
1 アクリナトリン水和剤	アーデント水和剤	ピレスロイド	3A	1000	27	85	86	100
2 ニテンピラム水溶剤	ベストガード水溶剤	ネオニコチノイド	4A	1000	29	56	77	82
3 アセタミプリド水溶剤	モスピラン 顆粒水溶剤	ネオニコチノイド		2000	6	2	39	58
4 スピノサド水和剤	スピノエース 顆粒水和剤	スピノシン	5	5000	10	94	88	100
5 スピネトラム水和剤	ディアナSC	スピノシン		2500	38	97	100	100
6 クロルフェナピル 水和剤	コテツフロアブル	クロルフェナピル	13	2000	66	100	95	100
7 フルキサメタミド乳剤	グレーシア乳剤	イソオキサゾリン	30	2000	19	18	96	91
8 フロメキトンフロアブル	ファインセーブ フロアブル		34	1000	5	1	21	43
9 シアントラニプロール 水和剤	ベネビアOD	ジアミド	28	2000	5	53	-	25

検定はマンジャーセル法による薬液浸漬法を用いて行った。補正死虫率は、処理72時間後の結果。
太字・下線は90%以上の高い効果、太字は70%以上の効果有りと判定。

8) マイナー作物農薬登録の推進について

1 事業の目的

地域特産作物（マイナー作物）は農薬需要量が少ないことから使用可能な農薬が少ない又は全くない場合もあり、安定的な生産活動に支障がでる事が多々ある。そこで農水省が構築している都道府県、農薬メーカー間の調整を始めとするマイナー作物の農薬登録推進体制に基づき、地域から要望のあるマイナー作物の病害虫について農薬登録に必要な試験データを効率的に作成する。

2 マイナー作物とは

地域特産物として栽培される作物のうち、生産量が少ないもの（生産量3万トン以下）でメジャー作物や準メジャー作物に指定された農作物以外の農作物。宮崎県では、にがうり、マンゴー、レイシ等が該当する。農薬登録取得のための必要試験例数は薬効・薬害試験、作物残留試験とも2例となっている。

3 事業の進捗状況

表1 マイナー作物農薬登録試験の進捗と今後の予定（2022年3月現在）

品目	対象病害虫	薬剤名	試験の内容	実施状況		登録への進捗
				1 例	2 例	
レイシ	カイガラムシ類	モスピラン顆粒水溶剤	薬効薬害	済(2018)	済(2018)	登録済 (2021.8.11)
			薬害(幼果期) ¹⁾	済(2019)	済(2020)	
			作残 ²⁾	済(2017)	済(2020)	
レイシ	カイガラムシ類	ポタニガードES	薬効薬害	済(2018)	済(2018)	適用拡大申請中 (R4.2.28受理)
			倍濃度薬害(幼果期)	済(2019)	済(2020)	
			作残	不要	不要	
にがうり	アブラムシ類	チェス顆粒水和剤	薬効薬害	済(2018)	済(2019)	登録済 (2020.9.9)
			倍濃度薬害 ³⁾	済(2018)	—	
			作残	済(2018)	済(2019)	
レイシ	ハダニ類	スターマイトフロアブル	薬効薬害	済(2019)	済(2020)	
			薬害(幼果期)	済(2020)	済(2021)	
			作残	済(2021)	2022に実施予定	
にがうり	ウリノメイガ	プレオフロアブル	薬効薬害	済(2021)	2022に実施予定	
			作残	不要	不要	
にがうり	ウリノメイガ	マトリックフロアブル	薬効薬害	済(2021)	2022に実施予定	
			作残	2022に実施予定	2023に実施予定	

1) レイシにおいては薬効試験は果実がない時期になることが多いため、別途幼果期前後に薬害試験を実施した。

2) 作物残留試験は、試料調整を病害虫防除・肥料検査課が、分析試験を生産流通部が実施した。

3) 2019年から倍濃度薬害試験が不要になった。但し、ポタニガードにおいてはメーカーからの要望で倍濃度薬害試験を実施した。

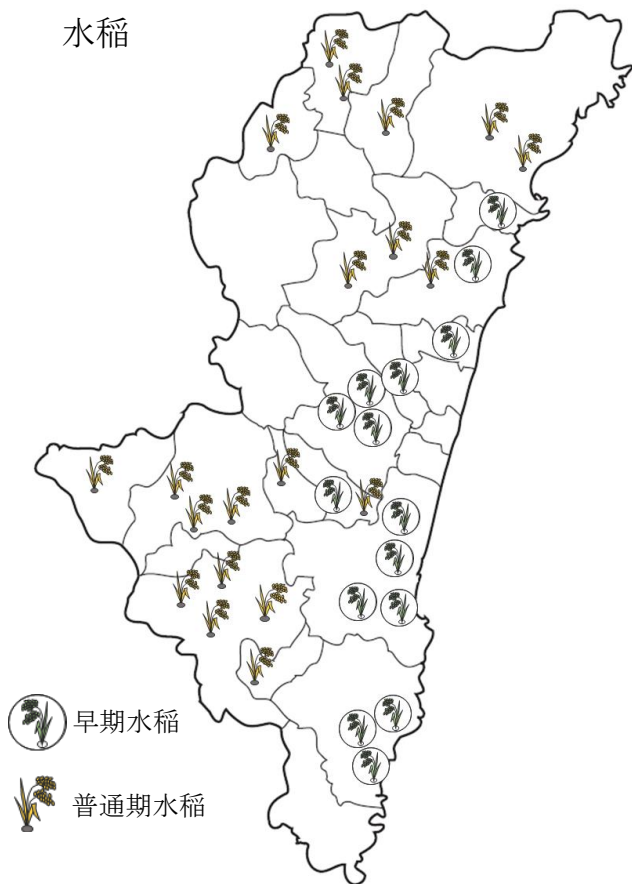
Ⅲ そ の 他

1 病虫害防除員の設置状況

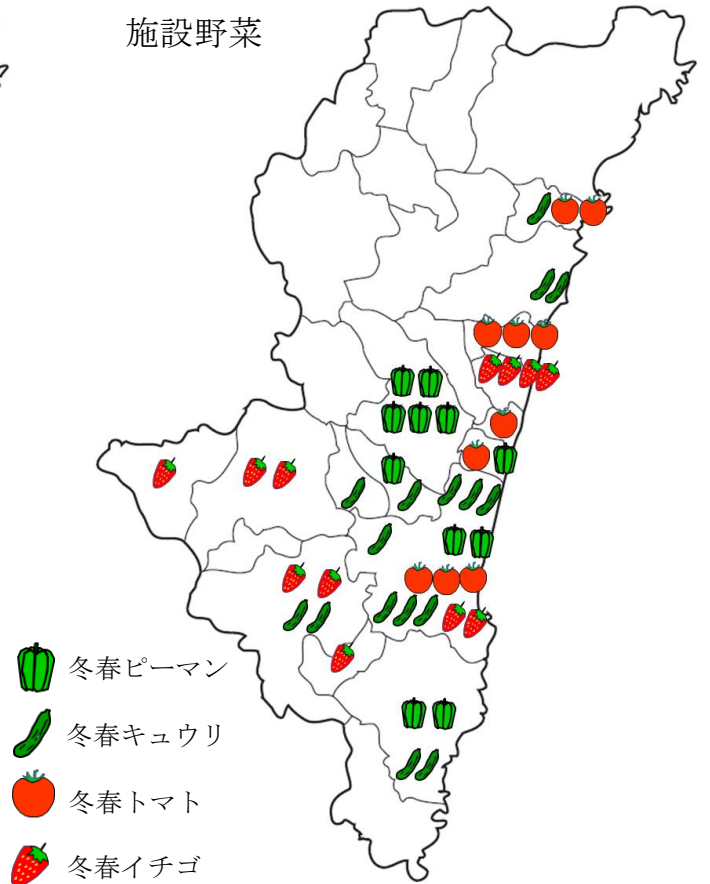
市町村	定数	水稻	果樹	茶	野菜	市町村	定数	水稻	果樹	茶	野菜
宮崎市	6	1	1		4	西米良村	1	1			
国富町						木城町	1				1
綾町						川南町	1				1
小計	6	1	1		4	都農町	1		1		
日南市	3	2	1			小計	5	1	1		3
串間市						延岡市	2	2			
小計	3	2	1			日向市	1	1			
都城市	5	4		1		門川町					
三股町	1	1				美郷町	1	1			
小計	6	5		1		諸塚村					
小林市	2	1		1		椎葉村					
えびの市	1				1	小計	4	4			
高原町						高千穂町	1	1			
小計	3	1		1	1	日之影町	1	1			
西都市	1				1	五ヶ瀬町	1			1	
高鍋町						小計	3	2		1	
新富町						合計	30	16	3	3	8

2 巡回調査ほ場の分布

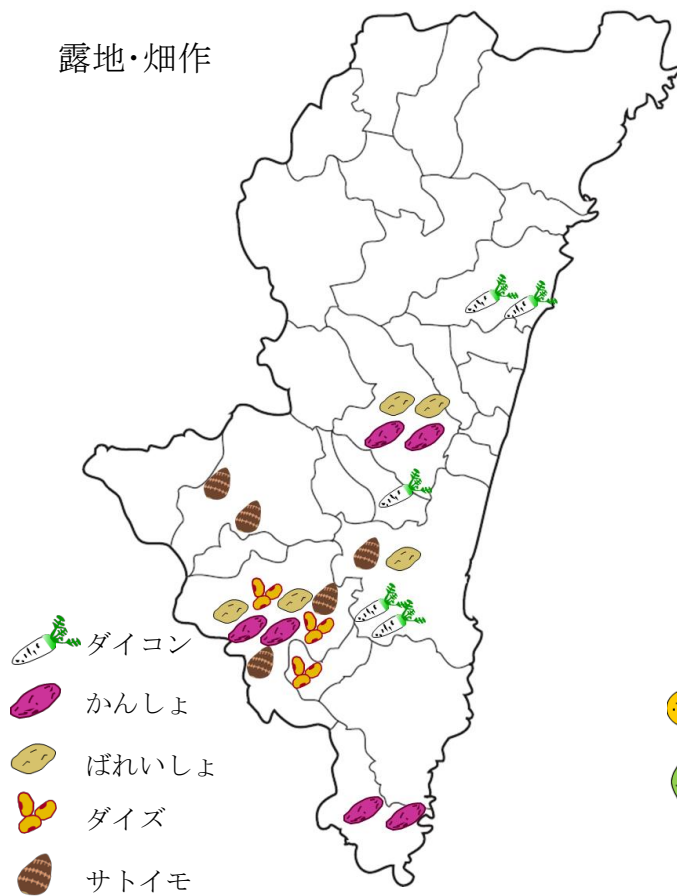
水稲



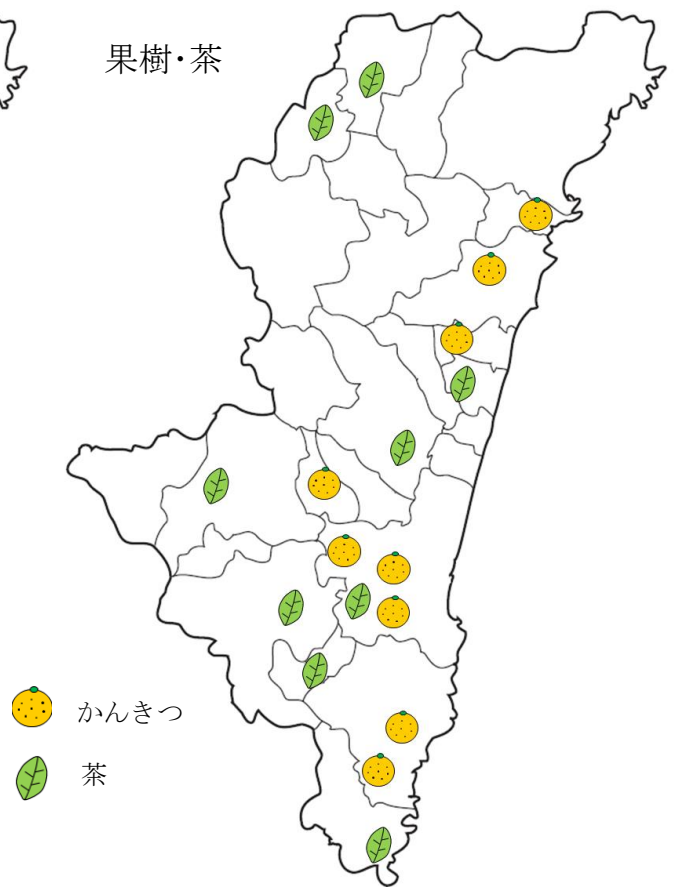
施設野菜



露地・畑作



果樹・茶



IV 令和3年度気象概況

月別気象概況（宮崎地方気象台作成の気象月報から抜粋）

○4月

この期間は高気圧と気圧の谷や前線等の影響を受けて、天気は数日の周期で変わった。また、5日は古江で日最大風速 15.2m/s、日最大瞬間風速 27.2m/s を観測、20日は都城で日最小相対湿度 8% を観測、23日は日向で日最大 10 分間降水量 11.5mm を観測し、それぞれ4月の極値を更新した。

県内各地の月平均気温は、平年差 -0.3°C ～ $+0.7^{\circ}\text{C}$ で延岡、加久藤、宮崎、都城、串間では平年より高く、他は平年並だった。月降水量は、71.5mm～407.5mm（平年比 45%～153%）で鞍岡、加久藤、えびのでは平年よりかなり少なく、北方、日向では平年より多く、他は平年並か平年より少なかった。月間日照時間は、平年比 101%～120%で日向、神門、西米良、宮崎、都城、油津は平年並で、他は平年より多かった。

○5月

高気圧に覆われて晴れた日もあったが、期間を通して、前線や湿った空気等の影響で曇りや雨の日が多く、月降水量の多い方からの5月の極値をえびの、椎葉、加久藤、小林、都農、都城、野尻、日之影で更新した（詳細は極値更新表を参照）。

県内各地の月平均気温は平年差 -0.5°C ～ $+0.5^{\circ}\text{C}$ で延岡、古江、日向、西米良、小林、赤江は平年より低く、串間は平年より高く、他は平年並だった。月降水量は 313.5mm～1046.5mm（平年比 155%～314%）で全ての観測所で平年よりかなり多かった。月間日照時間は平年比 70%～84%で加久藤は平年よりかなり少なく、他は平年より少なかった。

○6月

高気圧に覆われて晴れた日もあったが、期間を通して、梅雨前線や湿った空気等の影響で曇りや雨の日が多く、13日は都農で日最大 1 時間降水量、26日は古江で日最大 10 分間降水量のそれぞれ多い方から6月の極値を更新した。一方で、椎葉は月降水量の少ない方から6月の極値を更新した。

県内各地の月平均気温は平年差 -0.3°C ～ $+0.5^{\circ}\text{C}$ で串間は平年より高く、油津、神門、西都は平年より低く、他は平年並だった。月降水量は 169.0mm～720.5mm（平年比 32%～111%）で延岡、古江、北方、日向、都農、赤江、深瀬は平年並、他は平年より少ないかかなり少なかった。月間日照時間は平年比 89%～107%で古江は平年より少なく、他は平年並だった。

○7月

梅雨前線や湿った空気等の影響で曇りや雨の日が多く、下旬は高気圧に覆われて晴れた日があった。10日は梅雨前線に向かって暖かく湿った空気が流れ込んだ影響で南部山沿いでは記録的な大雨となった所があった。小林では日最大 1 時間降水量 78.5mm を観測し、年間を通しての極値を更新した（極値更新表は下記参照）。なお、九州南部は、11日ごろ梅雨明け（平年より4日早く、昨年より17日早い）したと見られる。21日は児湯郡新富町で竜巻と認められる突風が発生した。

県内各地の月平均気温は平年差 -0.8°C ～ $+0.2^{\circ}\text{C}$ で全ての観測所で平年並か平年より低かった。月降水量は 230.5mm～690.5mm（平年比 48%～204%）で鞍岡、西米良は平年より少なく、他は平年並か平年より多かった。月間日照時間は平年比 70%～98%で都城、油津は平年並、他は平年より少なかった。

○8月

期間の中頃にかけて前線や湿った空気等の影響で曇りや雨の日が多く、期間の終わりは高気圧に覆われて晴れた日があった。台風第9号が8日 20 時過ぎに鹿児島県枕崎市に上陸し、その後北東に進み9日9時には中国地方で温帯低気圧に変わった。この影響で荒れた天気となり、年間を通して降水量の極値を更新した所があった。（極値更新表は下記参照）。

県内各地の月平均気温は平年差 -1.1°C ～ -0.3°C で串間は平年並、他は平年より低いかかなり低かった。月降水量は 465.5mm～1622.0mm（平年比 115%～317%）で神門は平年並、他は平年より多いかかなり多かった。月間日照時間は平年比 67%～85%で神門は平年よりかなり少なく、他は平年より少なかった。

○9月

高気圧に覆われて晴れた日もあったが、湿った空気等の影響で曇りや雨の日が多く、特に13日から17日は東シナ海を北上した台風第14号と九州南部に停滞した前線に向かって暖かく湿った空気が流れ込んだ影響で、大気の状態が非常に不安定な状況が続き、赤江で月降水量は903.5ミリを記録し、月降水量の多い方から9月としての極値を更新した（）：準正常値）。

県内各地の月平均気温は平年差+0.2℃～+1.1℃で古江、日向は平年並、他は平年より高かった。月降水量は78.5ミリ～903.5ミリ（平年比23%～231%）で宮崎、赤江、油津は平年よりかなり多いか多く、他は平年並か平年より少ないかかなり少なかった。月間日照時間は平年比75%～120%で延岡、古江、日向、神門は平年より少なく、他は平年並か平年より多かった。

○10月

高気圧に覆われて晴れた日が多かったが、気圧の谷や湿った空気等の影響で曇りや雨の日もあった。1日は串間、西都、12日は鞍岡で日最高気温の高い方から、21日は小林で日最高気温の低い方から、椎葉は月降水量の少ない方から10月としての極値を更新した。

県内各地の月平均気温は平年差+0.3℃～+0.9℃で古江、鞍岡、日向、西米良、西都は平年並、他は平年より高かった。月降水量は17.0ミリ～312.0ミリ（平年比14%～155%）で延岡、古江は平年より多く、宮崎、北方、日向は平年並、他は平年より少ないかかなり少なかった。月間日照時間は平年比117%～132%で高千穂、加久藤は平年よりかなり多く、他は平年より多かった。

○11月

高気圧に覆われて晴れた日が多かったが、気圧の谷や湿った空気等の影響で曇りや雨の日もあった。25日は西米良で日最大風速7.4m/sを観測し、11月としての極値を更新した。

県内各地の月平均気温は平年差-1.3℃～-0.5℃で宮崎、串間は平年並、他は平年より低かった。月降水量は44.0ミリ～161.5ミリ（平年比49%～149%）で高千穂、鞍岡、日之影、えびのは平年より多く、都城、都農、西都、野尻、国富は平年より少なく、他は平年並だった。月間日照時間は平年比108%～122%で神門、加久藤、小林、串間は平年並、他は平年より多かった。

○12月

気圧の谷や湿った空気等の影響で曇りや雨の日もあったが、期間を通して高気圧に覆われて晴れた日が多かった。また、冬型の気圧配置の強まりや寒気の流れ込みなどにより、気温が平年より低い日もあった。赤江では年間降水量の多い方からの極値を更新した。（極値更新表は下記参照）

県内各地の月平均気温は平年差-0.9℃～0.0℃で油津、古江、日向、神門、西米良、西都は平年より低く、他は平年並だった。月降水量は23.0ミリ～83.5ミリ（平年比30%～76%）で加久藤は平年並で、他は平年より少なかった。月間日照時間は平年比121%～136%で鞍岡、加久藤は平年より多く、他は平年よりかなり多かった。

○1月

気圧の谷や湿った空気等の影響で曇りや雨の日もあったが、高気圧に覆われて晴れた日が多かった。各地の月平均気温は平年差-0.7℃～+0.3℃で延岡、都城、宮崎、加久藤、小林、赤江、串間は平年並、その他は平年より低かった。月降水量は32.0ミリ～63.5ミリ（平年比48%～88%）で都城は平年よりかなり少なく、宮崎、油津、鞍岡、加久藤、西都、えびの、小林、国富、赤江、深瀬は平年より少なく、その他は平年並だった。月間日照時間は平年比81%～128%で高千穂、鞍岡、加久藤は平年より多く、油津は平年よりかなり少なく、その他は平年並か平年より少なかった。

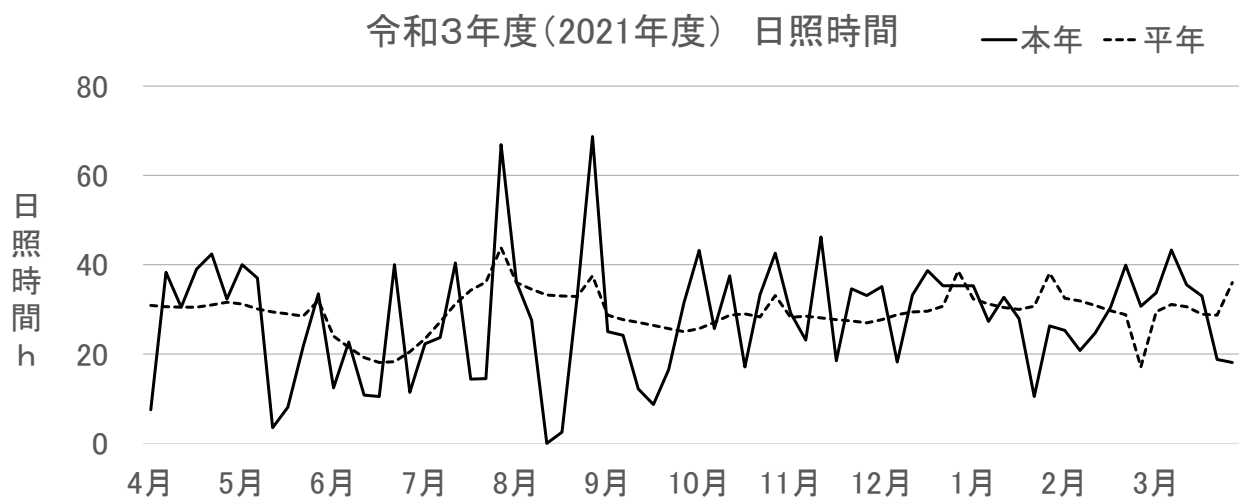
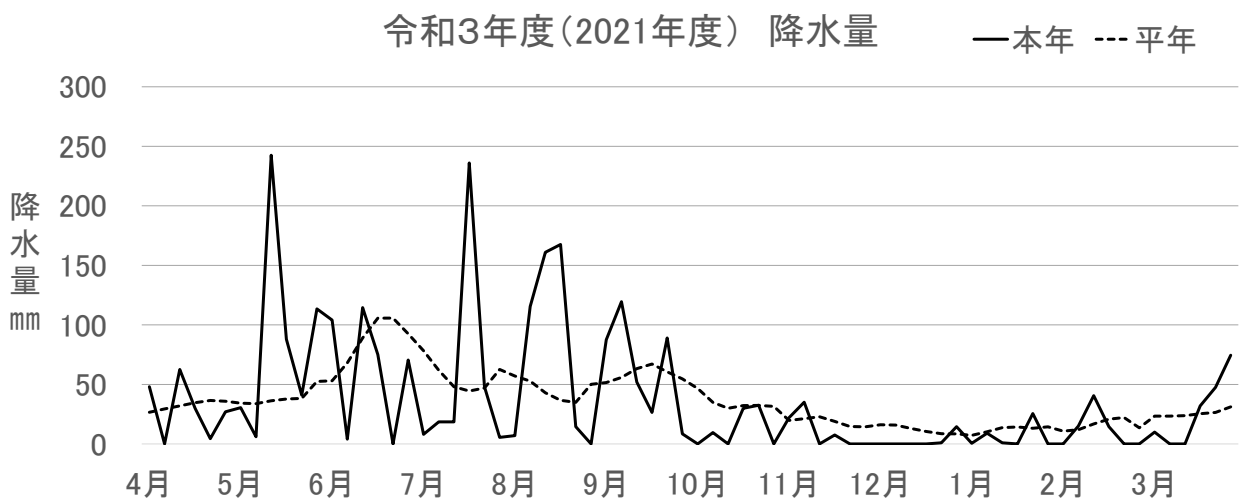
○2月

寒気の流れ込みや気圧の谷、湿った空気等の影響で曇りや雨の日もあったが、高気圧に覆われて晴れた日もあり、天気は周期的に変化した。各地の月平均気温は平年差-2.1℃～-1.2℃で高千穂、古江、日向、西都、小林は平年よりかなり低く、その他は平年より低かった。月降水量は17.5ミリ～81.0ミリ（平年比18%～73%）で宮崎、古江は平年並、その他は平年より少ないかかなり少なかった。月間日照時間は平年比94%～116%で高千穂、鞍岡は平年より多く、その他は平年並だった。

○3月

期間の前半は高気圧に覆われて晴れた日が多く、後半は曇りや雨の日が多かった。(極値更新表は下表参照) 生物季節観測では、18日にさくら(ソメイヨシノ)の開花を観測(平年より5日早く、昨年より2日遅い)し、満開を平年より5日早い28日に観測した。

各地の月平均気温は平年差 $+1.1^{\circ}\text{C}$ ~ $+1.8^{\circ}\text{C}$ で延岡、都城、高千穂、小林は平年よりかなり高く、その他は平年より高かった。月降水量は112.5ミリ~283.0ミリ(平年比81%~165%)で油津、赤江は平年より少なく、その他は平年並か平年より多かった。月間日照時間は平年比86%~101%で宮崎、油津、高千穂、鞍岡、串間は平年並で、その他は平年より少なかった。



宮崎県総合農業試験場 病虫害防除・肥料検査課
(宮崎県病虫害防除・肥料検査センター)
880-0212 宮崎県宮崎市佐土原町下那珂 5805 番地
TEL 0985-73-6670
FAX 0985-73-2127
E-mail : byogaichu-hiryo @ pref.miyazaki.lg.jp